

平成30年度
年 報

Annual Report 2018

医療法人
JR 広島病院

ご挨拶



JR広島病院は、昭和15年に広島鉄道病院として開設され、今日まで80年近くの歴史を刻んできました。母体であった日本国有鉄道は1987年（昭和62年）に分割民営化されたため、本院も西日本旅客鉄道株式会社 広島支社 広島鉄道病院となり、2016年（平成28年）にはJR西日本から独立して、医療法人 JR広島病院と改め、新たな歴史を歩んでいます。本院は従来から広島市内は言うに及ばず、県外からも患者さんが受診されますが、一方では広島市東区の地域に根ざした総合的な医療を展開できる病院として、地域住民の方々、医師会の先生方に信頼される病院でもあります。こうした伝統と重要な位置付のある病院に、わたしは平成31年4月に新たに理事長・病院長として本院に着任しました。

現在の当院は、内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、脳神経内科、外科、消化器外科、整形外科、眼科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、小児科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、耳鼻咽喉科、病理診断科、人工透析外科、緩和ケア科、歯科口腔外科、精神科の23診療科とがんの温熱療法、がん化学療法、人工透析も行える総合病院となっています。

また広島大学の重要な関連病院の一つとして、地域医療を担うと共に、広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC）との密接な連携によるがん治療にも積極的で、女性専用病棟の設置など、時代のニーズに沿った医療の提供体制を整えています。健診センターは、JR広島駅前の便利な立地もあって、充実した検査項目で、人間ドック・生活習慣病予防検診・各種健康診断を実施しています。さらに、将来有望な医師を育成するための初期臨床研修も広島大学病院と連携して行っています。併設するのぞみ保育園は女性職員の活躍を支援する重要な施設として有効に利用され、次第に規模を拡大しています。

東区医師会や地域の医療機関とは密接に連携し、医療面は言うに及ばず、オープンカンファレンスなどを通して医療レベルの向上にも積極的な役割を果たしています。社会構造や医療政策の急激な変化の中にあってもこの病院の重要さは変わりません。病院の機能維持と発展のために職員一丸となって引き続き努力を重ねております。こうした成果を年報という形でまとめてお届けしますので、ご高覧ください。なお今年度からは冊子体の年報を廃し、pdf電子版としてお届けします。

引き続き関係者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

医療法人 JR広島病院
理事長 病院長 河本昌志

目次

I. 病院概要

■ 概要説明	4
■ 病院統計	8

II. 各部門の概要

■ 消化器内科	10
■ 循環器内科	12
■ 呼吸器内科	16
■ リウマチ・膠原病内科	18
■ 外科・消化器外科	20
■ 人工透析外科	22
■ 人工透析センター	24
■ 整形外科	26
■ リハビリテーション科	28
■ 小児科	30
■ 皮膚科	31
■ 産婦人科	32
■ 泌尿器科	34
■ 眼科	36
■ 耳鼻咽喉科	38
■ 緩和ケア科	39
■ 放射線科	40
■ 麻酔科	42
■ 病理診断科	43
■ 健診センター	44
■ 歯科	46
■ 化学療法センター	47
■ 臨床検査科	48
■ 温熱療法室	52

■ 教育研修部	54
■ 看護部	56
■ 臨床工学室	57
■ 薬剤部	59
■ 栄養士室	61
■ 医療安全管理室	63
■ 感染症対策室	65
■ 事務部	67
■ 診療情報管理室	68
■ 地域医療連携室	70

III. 業績集

■ 平成30年度	73
----------	----

IV. 平成30年度の動き

■ 平成30年度の動き	88
■ 平成30年度 主な行事	90

MEDICAL CORPORATION
JR HIROSHIMA HOSPITAL

I

病院概要

MEDICAL CORPORATION JR HIROSHIMA HOSPITAL

医療法人JR広島病院 (H31.3.31時点)

理事長	小野 栄治
病院名称	J R広島病院
所在地	〒732-0057 広島市東区二葉の里3丁目1-36
病床数	275床（一般病棟214床、地域包括ケア病棟41床、緩和ケア病棟20床）
診療科	内科／消化器内科／循環器内科／呼吸器内科／リウマチ・膠原病内科 外科・消化器外科／人工透析外科／整形外科／眼科／皮膚科／婦人科 泌尿器科／小児科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／麻酔科 放射線科／緩和ケア科／病理診断科 （歯科口腔外科、精神科…入院患者対応のみ）

沿革

大正 9年	5月	広島市松原町広島駅構内に広島鉄道治療所開設
昭和15年	6月	広島鉄道病院開院
昭和19年	3月	広島市大須賀町に新病院落成
昭和20年	8月	原爆投下により病院全壊
昭和24年	2月	広島市尾長町に病院新築
昭和25年	8月	日本国有鉄道広島管理局広島鉄道病院に組織改編
昭和38年	9月	広島市二葉の里に新病院落成
昭和43年	7月	臨床研修指定病院指定
昭和57年	4月	保険医療機関の指定
昭和57年	6月	二次救急病院指定
昭和62年	4月	西日本旅客鉄道株式会社発足により 西日本旅客鉄道株式会社広島支社広島鉄道病院に名称変更
平成10年	6月	日本医療機能評価機構認定
平成21年	7月	D P C対象病院認定
平成28年	1月	旧病院隣接地に新病院落成（病床数275床）
平成28年	4月	医療法人J R広島病院設立 西日本旅客鉄道株式会社広島支社広島鉄道病院より事業継承 病院名を「J R広島病院」とする
平成30年	6月	日本医療機能評価機構「病院機能評価（3rdG:Ver.1.1）」認定更新

病院理念

優しさと誠実な医療で更なる地域貢献をめざします

JR広島病院の医療

1. 良質で安全な医療

常に専門的知識と技術を高め、医療水準の向上を図ることで、患者さんに良質な医療を提供します

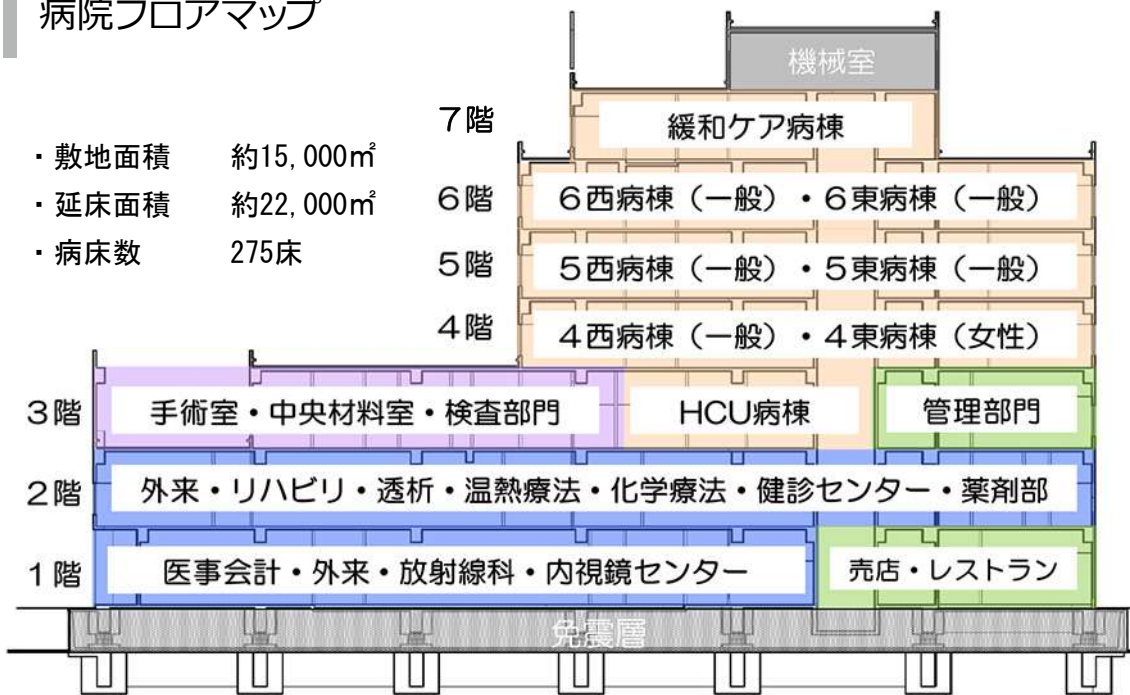
2. 患者さんと共に築く医療

患者さんの意向に配慮し、より適切で最善な医療を提供していくための取り組みを推進します

3. 健全な運営による医療の提供

地域に根ざした健全な病院運営により継続的に医療を提供することで、地域における重要な使命を果たしていきます

病院フロアマップ



指定医療機関

- 保険医療機関
- 原爆被害者認定医療指定病院
- 児童福祉法（育成医療）指定医療機関
- 母子保健法（養育医療）指定医療機関
- 身体障害者福祉法（更生医療）指定医療機関
- 労災保険指定医療機関
- 原爆被害者一般疾病医療機関
- 結核予防法、生活保護法に基づく指定医療機関
- 毒ガス障害医療実施医療機関
- 臨床研修指定病院
- 救急指定病院
- 病院群輪番制病院
- DPC対象病院

研修施設等指定状況

- 日本内科学会認定内科専門医教育関連施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本脈管学会認定研修指定施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 日本整形外科学会専門医研修施設
- 日本泌尿器学会専門医制度研修施設
- 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
- 日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関
- 日本麻酔科学会認定病院
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 日本臨床細胞学会教育研修施設
- 日本病理学会登録施設
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 日本超音波医学会専門医研修施設
- 日本高血圧学会高血圧認定研修施設
- 日本透析医学会専門医認定施設
- 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医認定施設
- 日本核医学会専門医教育病院
- 日本リウマチ学会教育施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設：一般研修施設
- 日本大腸肛門病学会認定施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設

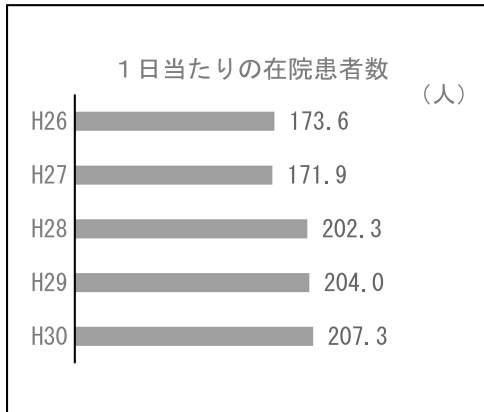
施設基準

(H31.3.31時点)

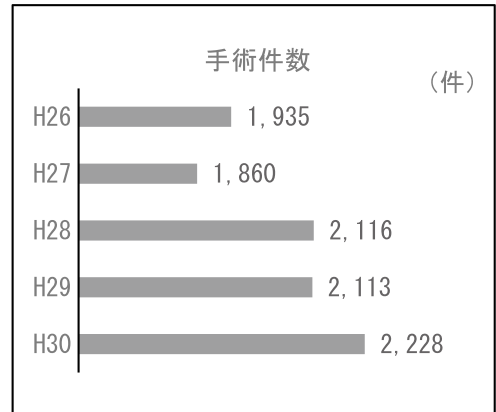
- 初診料（歯科）の注1に掲げる基準
- 一般病棟入院基本料
- 診療録管理体制加算 2
- 医師事務作業補助体制加算 1
- 急性期看護補助体制加算
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染防止対策加算 1
- 患者サポート体制充実加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 総合評価加算
- 後発医薬品使用体制加算 2
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- データ提出加算
- 入退院支援加算
- 地域包括ケア病棟入院料 2 及び地域包括ケア入院医療管理料 2
- 緩和ケア病棟入院料 1
- 短期滞在手術等基本料 2
- 入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）
- がん性疼痛緩和指導管理料
- ニコチン依存症管理料
- がん治療連携指導料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 遺伝学的検査
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- 検体検査管理加算（Ⅱ）
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 胎児心エコー法
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ヘッドアップティルト試験
- 内服・点滴誘発試験
- 画像診断管理加算 2
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 心臓MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- がん患者リハビリテーション料
- 人工腎臓
- 導入期加算 2 及び腎代替療養法実績加算
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- 腹腔鏡下肝切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- 輸血管理料Ⅱ
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料（Ⅰ）
- 病理診断管理加算 1
- 悪性腫瘍病理組織標本加算
- 口腔病理診断管理加算 1

病院統計

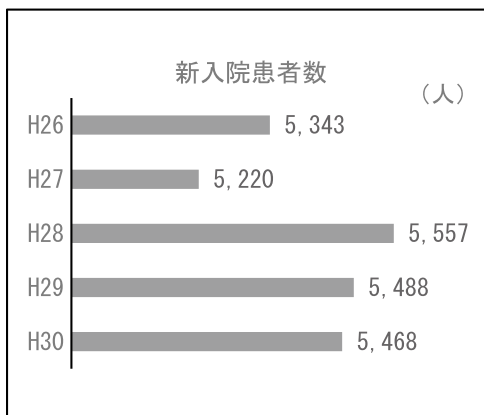
○ 入院患者数



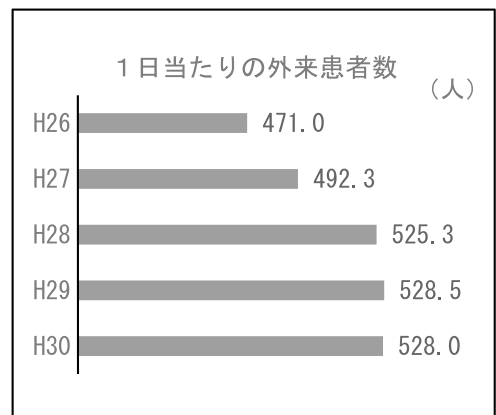
○ 手術件数



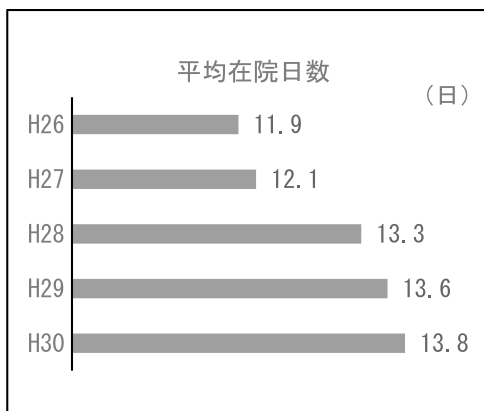
○ 新入院患者数



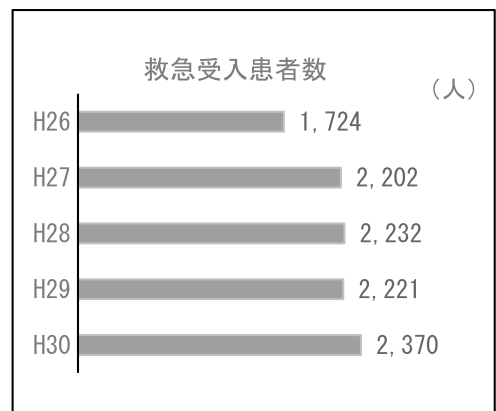
○ 外来患者数



○ 平均在院日数



○ 救急受入患者数



II

各部門の概要

MEDICAL CORPORATION JR HIROSHIMA HOSPITAL

消化器内科

医師紹介

平成30年度在籍医師

副院長

三重野 寛 昭和55年卒

Hiroshi Mieno

消化器疾患、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会認定医
日本内科学会指導医
広島大学医学部臨床教授

消化器内科部長

峠 誠司 昭和59年卒

Seishi Tao

消化器疾患（肝・胆・膵）

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会認定内科医

救急センター部長

吉田 成人 平成4年卒

Shigeto Yoshida

消化器・消化管疾患、消化管癌、
炎症性腸疾患、ヘリコバクター感染症、
超音波内視鏡検査、内視鏡治療

医学博士
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員
日本消化器病学会専門医・指導医・学会評議員
日本消化器がん検診学会認定医・指導医・代議員
日本消化管学会胃腸科認定医・胃腸科専門医・胃腸科指導医
日本ヘリコバクター学会 H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医
日本内科学会認定医・総合内科専門医・認定施設指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本医師会認定産業医
広島卒後臨床研修ネットワーク指導医
緩和ケア研修会修了
広島大学客員教授

医長

山科 敬太郎 平成10年卒

Keitarou Yamashina

消化器疾患（肝臓疾患）

日本消化器病学会専門医
日本内科学会総合内科専門医
日本肝臓学会肝臓専門医

医長

大原 英司 平成14年卒

Eigi Oohara

消化器疾患（胃・大腸）

日本内科学会認定医
総合内科専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医
日本肝臓学会専門医
日本ヘリコバクター学会 H. pylori感染症認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
緩和ケア研修会修了

診療内容

質の高い医療を提供。

内視鏡は低侵襲な手段の1つです。

消化器内科は、5人の専門医で構成しております。消化器を中心に、一般内科をおこなっております。柱となるのは、消化管を中心とした内視鏡による診断と治療、そして肝胆膵も含めたがんの診療の2つです。エビデンスの確立した普遍的な診断・治療を、安全・確実かつ低侵襲に実施することを使命としています。食道・胃・十二指腸・小腸・大腸の診断と治療は、内視鏡センターを中心に低侵襲で質の高い医療を提供しています。内視鏡検査の件数は年間6000件を超えています。早期胃がん、早期大腸がんなどに対する内視鏡治療（内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的粘膜切除術）にも注力しており、手術が必要な消化器悪性疾患（癌、肉腫など）については外科と連携して治療を行っております。

また、過敏性腸症候群などの消化管機能障害、ヘリコバクターの除菌、超音波内視鏡検査なども専門としています。その他、胆道や膵臓疾患、肝臓疾患などにも最新の治療技術を取り入れ、総胆管結石に対する内視鏡的採石術（内視鏡的乳頭切開術、内視鏡的乳頭バルーン拡張術）なども実施しています。さらに、C型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー治療は、多くの治療経験を持っています。

切除不能ながんに対しては、患者さんの体力や年齢を考慮して化学療法を行ったり、苦痛除去を行っています。放射線科と協力して、肝細胞がんの肝動脈塞栓術などのほか、膵臓がんや胆管がんによる閉塞性黄疸に対するステント治療なども実施しています。その他、新薬の治験にも積極的に参加しています。

また、当院のみでは実施が困難な学際的治療については、広島大学病院などの基幹病院と連携して行っています。引続き地域の皆さまのお役に立てるよう取り組んでまいります。

診療実績

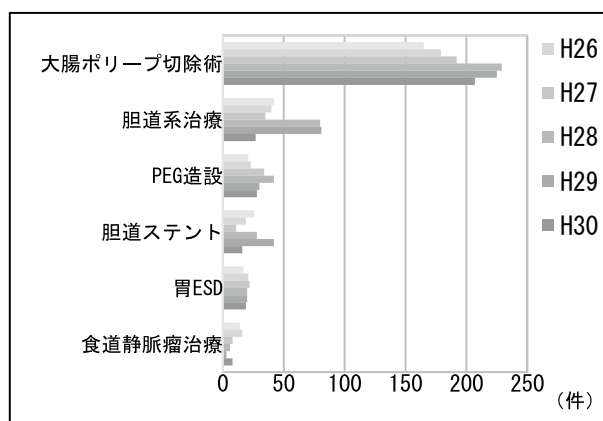
1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)-内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術-副病:なし	178
060102xx99xxxx	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患-手術なし	40
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症-手術なし-副病:なし	32
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎-手術なし-処置2:なし-副病:なし	25
060190xx99x0xx	虚血性腸炎-手術なし-処置2:なし	23

消化管の内視鏡による診断・治療、消化器癌の診断・治療、ウイルス性肝炎を中心とした肝炎の診断・治療、IBDの診断・治療、機能性消化管異常の診断・治療を行っています。ガイドラインに基づいた、安全かつ確実な診療を行っています。中でも柱となっているのは、内視鏡センターにおける食道から大腸までの診断と治療です。早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的治療(内視鏡的粘膜切除術、ESD)を日々行っています。また、胆・膵に対する内視鏡的治療も年々増加してきています。外科的手術が必要な患者さんに対しては外科と緊密な連携をして治療を行っています。手術適応のない患者さんには積極的に化学療法を行っており、最近近接する広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)とも連携をとり、手術前後の放射線治療も行っています。

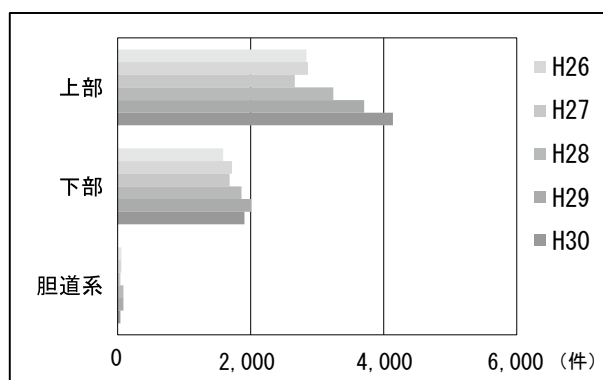
2. 年別消化器内科治療件数

	H26	H27	H28	H29	H30
大腸ポリープ切除術	179	192	229	225	207
胆道系治療	40	35	80	81	27
PEG造設	23	34	42	30	28
胆道ステント	19	11	28	42	16
胃ESD	21	22	20	20	19
食道静脈瘤治療	16	8	6	3	8



3. 年別消化器内科検査件数

	H26	H27	H28	H29	H30
上部	2,862	2,663	3,242	3,705	4,137
下部	1,719	1,684	1,862	2,006	1,907
胆道系	55	41	86	87	41



循環器内科

医師紹介

平成30年度在籍医師

循環器内科部長

寺川 宏樹 平成2年卒

Hiroki Teragawa

循環器疾患（虚血性心疾患、
心不全、末梢血管疾患）

医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医
日本核医学学会専門医
日本高血圧学会専門医・指導医
日本超音波学会超音波専門医・指導医
日本脈管学会脈管専門医
日本動脈硬化学会動脈硬化専門医
心臓リハビリテーション指導士
日本救急医学会（ICLS）ディレクター
日本内科学会救急JMECCディレクター
AHA・BLS・ACLSディレクター
広島卒後研修ネットワーク指導医
厚生労働省医政局長臨床研修指導医講習会修了
身体障害者福祉法指定医師（心臓機能障害）
日本心臓病学会心臓病上級臨床医（FJCC）
Fellow of American College of Cardiology（FACC）
Fellow of American College of Physician（FACP）
Fellow of American Heart Association（FAHA）
Fellow of American Society of Nuclear Cardiology（FASCN）
Fellow of Society for Cardiovascular Angiography and Interventions（FSCAI）
Fellow of European Society of Cardiology（FESC）
広島大学医学部臨床教授

医長

上田 智広 平成4年卒（H31.3.31転出）

Tomohio Ueda

循環器一般

日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会専門医

大下 千景 平成16年卒

Chikage Ooshita

循環器一般、超音波検査

医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本循環器学会専門医
日本超音波学会超音波専門医
日本周術期経食道心エコー認定委員会認定医

医師

内村 祐子 平成13年卒

Yuko Uchimura

循環器一般、不整脈

医学博士
日本内科学会認定内科医
日本循環器学会専門医
日本内科学会総合内科専門医

診療内容

より質の高い診断・治療をモットーに。
幅広く専門医療を提供します。

専任常勤医3人で、心疾患および末梢血管疾患に対応、「患者さんのためにより質の高い診断・治療を提供する」をモットーに頑張っています。

虚血性心疾患には、スクリーニングとして負荷心筋シンチグラフィ、320列心臓CT検査、運動負荷試験を実施。疑わしい場合、入院のうえ冠動脈造影検査を行い、適応があれば冠動脈インターベンション治療を行います。急性冠症候群では、24時間緊急カテーテル検査の体制を整えています。安静時の胸痛の原因となる冠攣縮性狭心症では、原因を明らかにするために冠攣縮誘発試験を実施しています。この疾患は40～50歳代の女性の方にも認めることがあります。近年、高齢化に伴い心不全の患者さんが増加しています。当院では、緊急の処置が必要な急性心不全にも対応しています。多種多様な心不全の原因を検索し、可能な限り原疾患を見つけ治療するようにしています。

そのほか、高血圧（二次性高血圧を含む）、末梢動静脈疾患、不整脈などの循環器疾患に幅広く対応しています。

現在参加しているレジストリ・治験

学会関連

- ・日本心血管インターベンション治療学会：J-PCI, J-EVT/SHD
- ・J-Long study：高齢者の各疾患を有する心エコーの体系化を試みるレジストリ

冠動脈疾患

- ・日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧療法と標準治療のランダム化比較試験
- ・日本人糖尿病合併冠動脈疾患患者における積極的脂質低下・降圧に関する観察研究（コホート）
- ・大動脈内視鏡により観察された大動脈壁動脈硬化と臓器障害の関連を検討するレジストリ研究

冠攣縮関連

- ・冠攣縮研究会：冠攣縮性狭心症前向き観察研究
- ・ACROSS-AMI：急性心筋梗塞後の患者に対するカルシウム拮抗剤の冠攣縮予防および血管機能改善効果の評価する研究
- ・心臓カテーテル検査・治療中に生じる難治性冠攣縮に対するRhoキナーゼ阻害薬ファスジルの効能追加に係る医師主導治験

糖尿病

- ・REASON Trial：糖尿病を有する冠動脈疾患患者における2種類のDPP-4阻害によるLDLコレステロールに及ぼす効果
- ・CANDLE study：糖尿病・心不全を有する患者におけるSGLT2阻害剤の心不全のマーカーにおける影響の検討
- ・PROTECT study：糖尿病患者におけるSGLT2阻害剤の動脈硬化に及ぼす影響の検討
- ・EMBLEM study：糖尿病・心不全・動脈硬化を有する患者におけるSGLT2阻害剤の血管内皮機能に及ぼす影響

心房細動

- ・GARFIELD：心房細動新規診断男女患者を対象とした多施設共同国際登録前向き試験
- ・AFIRE study：心房細動を合併した安定虚血性心疾患患者における新規抗凝固薬の効果
- ・ANAFIE Registry：75歳以上の高齢者心房細動患者のレジストリー
- ・NOACs：心房細動患者の抗凝固剤変更による予後調査

静脈血栓症・肺塞栓症

- ・KUROSHIO Study：DOAC内服のDVT・PTE患者の2年間経過をみる。
- ・J'xactly Study：リーバロキサバン内服患者のDVTの予後

尿酸低下薬を用いた研究

- ・PRIZE study：高尿酸血症患者に対する尿酸低下薬による頸動脈プラークに及ぼす効果

その他

- ・睡眠呼吸障害が疑われる症例におけるPTT血圧でとらえられた夜間血圧・変動の特徴の検討

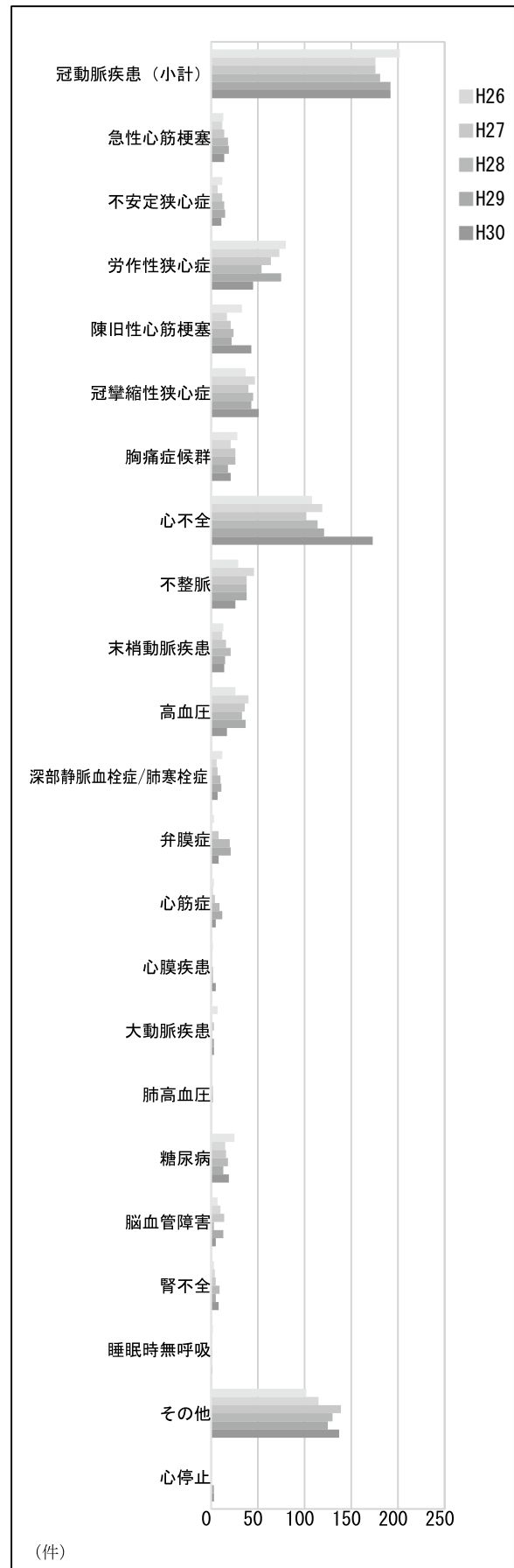
診療実績

1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
050130xx99020x	心不全-手術なし-処置 1:なし-処置 2:2あり-副病:なし	67
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患-手術なし-処置 1:1あり-処置 2:なし-副病:なし	53
050130xx99000x	心不全-手術なし-処置 1:なし-処置 2:なし-副病:なし	52
050050xx99200x	狭心症、慢性虚血性心疾患-手術なし-処置 1:2あり-処置 2:なし-副病:なし	48
050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患-経皮的冠動脈形成術等-処置 1:なし、1,2あり-処置 2:なし-副病:なし	35

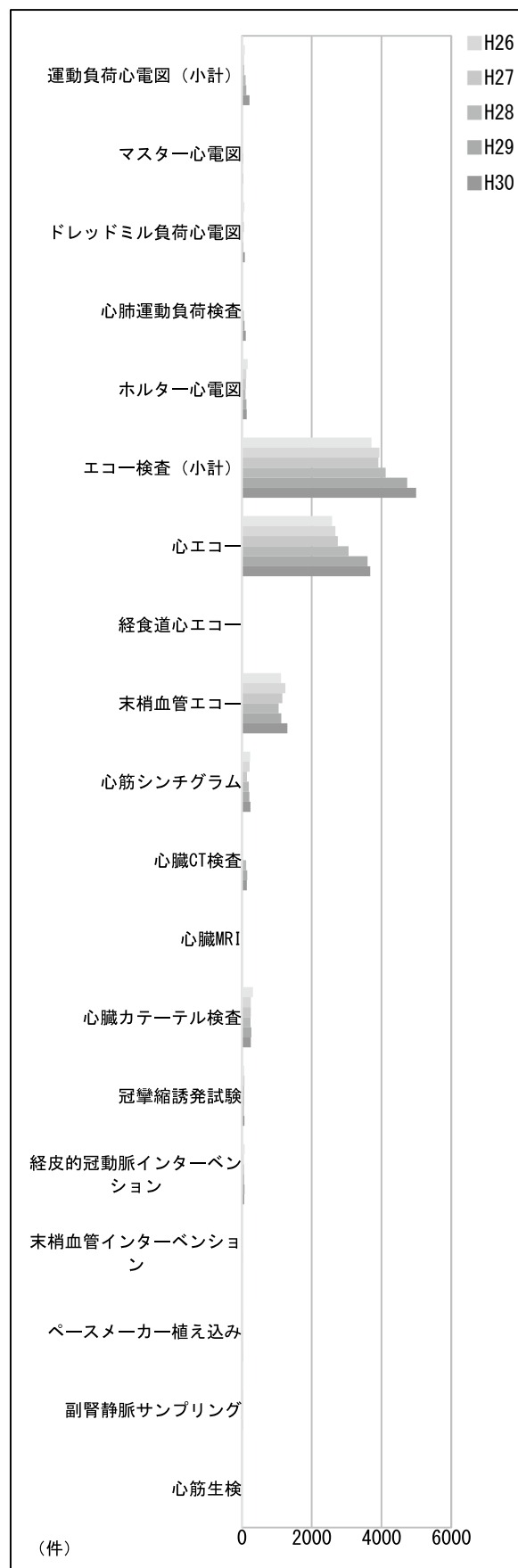
2. 年別疾患別入院患者数

	H26	H27	H28	H29	H30
冠動脈疾患(小計)	177	177	181	192	185
急性心筋梗塞	12	14	18	19	14
不安定狭心症	7	12	14	15	11
労作性狭心症	73	64	54	75	45
陳旧性心筋梗塞	17	21	24	22	43
冠攣縮性狭心症	47	40	45	43	51
胸痛症候群	21	26	26	18	21
心不全	119	102	114	121	173
不整脈	46	38	38	38	26
末梢動脈疾患	12	16	21	15	14
高血圧	40	36	33	37	17
深部静脈血栓症/ 肺塞栓症	6	7	10	11	7
弁膜症	0	8	20	21	8
心筋症	2	4	9	12	5
心膜疾患	1	0	2	2	5
大動脈疾患	0	3	1	3	3
肺高血圧	1	2	2	0	0
糖尿病	15	16	18	13	19
脳血管障害	10	14	3	13	5
腎不全	4	5	9	5	8
睡眠時無呼吸	0	0	1	0	1
その他	115	139	130	125	137
心停止	-	-	-	3	3
合計	544	571	592	611	623



3. 年別循環器内科検査数

	H26	H27	H28	H29	H30
運動負荷心電図 (小計)	59	70	105	125	217
マスター心電図	18	17	29	10	25
ドレッドミル負荷 心電図	41	53	22	38	82
心肺運動負荷検査	-	-	54	77	110
ホルター心電図	125	114	103	129	138
エコー検査 (小 計)	3,939	3,910	4,120	4,739	4,993
心エコー	2,678	2,748	3,055	3,600	3,676
経食道心エコー	14	5	14	10	14
末梢血管エコー	1,247	1,157	1,051	1,129	1,303
心筋シンチグラム	221	144	198	215	243
心臓 CT 検査	14	5	121	154	140
心臓 MRI	0	1	7	9	4
心臓カテーテル検 査	255	255	246	270	257
冠攣縮誘発試験	76	69	60	54	73
経皮的冠動脈イン ターベンション	54	61	66	77	66
末梢血管インター ベンション	6	10	18	15	12
ペースメーカー植 え込み	19	14	22	21	22
副腎静脈サンプリ ング	29	24	20	21	10
心筋生検	7	2	1	7	1



呼吸器内科

医師紹介

平成30年度在籍医師

呼吸器内科部長

安武 美紀 平成5年卒 (H31.3.31転出)

Miki Yasutake

呼吸器一般、アレルギー

医学博士

日本内科学会総合内科専門医

日本内科学会認定内科医

日本アレルギー学会専門医

日本呼吸器学会専門医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

ICD制度協議会認定ICD

医長

稲田 順也 平成9年卒

Jyunya Inata

呼吸器一般

医学博士

日本内科学会認定内科医

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本がん治療認定機構がん治療認定医

餘家 浩樹 平成20年卒

Hiroki Yoke

呼吸器一般

日本内科学会認定内科医

診療内容

地域の患者さんの相談相手として、幅広い疾患を「確実に」行っています。

当科では、慢性閉塞疾患（COPD）をはじめとする慢性呼吸不全、間質性肺炎、気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患、肺がん、感染症、睡眠時無呼吸症候群など、幅広い呼吸器疾患全般の診療を行っております。肺がんはHIPRACとの共同治療を行っており、緩和ケア病棟との連携も行っております。また外科的治療を要する場合は、大学病院をはじめとした基幹病院にご紹介を含めた支援をしています。

私たちの役割は、地域のかかりつけ医の先生方とも連携し、患者さんにとって敷居の低い呼吸器専門医として、何かあれば気兼ねなく相談いただける存在であるということだと考えております。

リハビリ科や包括ケア病棟と連携して、退院転院サポートも行っております。

また、専門外来として、睡眠時無呼吸症候群外来と毒ガス外来・禁煙外来を実施しています。睡眠時無呼吸症候群の検査については、自宅でできる簡易睡眠時モニター、一泊入院での精密終夜睡眠ポリグラフィー検査を行います。必要があればCPAP治療の導入を行っています。

診療実績

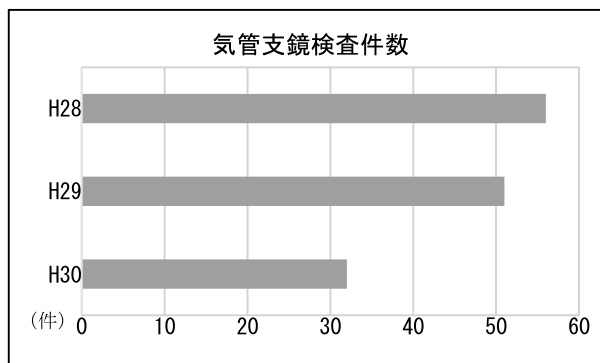
1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎-手術なし-処置 2:なし-副病:なし	102
040110xxxxx0xx	間質性肺炎-処置 2:なし	31
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍-手術なし-処 置 1:あり-処置 2:なし	21
0400801499x002	肺炎等(市中肺炎かつ75歳 以上)-手術なし-処置 2:なし- 副病:なし-A-DROP スコア 2	16
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍-手術なし-処 置 1:なし-処置 2:なし	13

慢性閉塞性肺疾患（COPD）をはじめとする慢性呼吸器不全、間質性肺炎、気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患、肺がん、感染症、睡眠時無呼吸症候群など幅広い呼吸器疾患全般の診療を行っています。肺がんなどにおける集学的治療が必要な場合などは、大学病院をはじめとした基幹病院に紹介を含めた支援を受けています。患者数が最も多い疾患は誤嚥性肺炎で、ほとんどが緊急入院の症例です。誤嚥性肺炎は高齢者が多く、必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアや言語聴覚士による嚥下機能訓練、リハビリテーション科による嚥下内視鏡などを行っています。

2. 年別気管支鏡検査件数

	H28	H29	H30
気管支鏡検査件数	56	51	32



リウマチ・膠原病内科

医師紹介

平成30年度在籍医師

医長

舟木 将雅 平成19年卒 (H31. 3. 31転出)

Masamoto Funaki

リウマチ・膠原病疾患、呼吸器疾患一般

日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医
日本リウマチ学会登録ソノグラファー
日本リウマチ財団リウマチ登録医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
日本内科学会内科認定医

医師

石徳 理訓 平成26年卒

Michinori Ishitoku

リウマチ・膠原病の診断と治療

日本リウマチ財団登録医



診療内容

リウマチ・膠原病疾患の正確な診断と最新の知見に基づき専門的な治療を提供します。

リウマチ・膠原病は治らない病気(難病)と言われておりましたが、現在は正確な早期診断と専門的な治療(ステロイド、抗リウマチ薬、免疫抑制薬、生物学的製剤等)により寛解(治療して症状が治まり病気が進行しない状態)を目指すことができるようになりました。

当科はリウマチケアチーム(他職種専門職チーム:内科、整形外科のリウマチ専門医・リウマチ登録医2名、認定看護師:外来、化学療法室、関節エコー検査:登録ソノグラファー、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、事務員)が一丸となり患者さんのトータルケアを目指し、各診療科専門医ともしっかりと協力体制で患者さんに安心した医療を提供いたします。また地域の医療機関の先生方と連携し1人1人の患者さんが毎日、体調に不安なく過ごせることを目指します。

- 【このような症状や異常があれば受診してください】
- ・朝のこわばり(手がにぎりにくい、起床後30分以上続く)
 - ・関節の腫れや痛み(ペットボトルを開けづらい、ドアノブが回しにくい、靴ひもが結びにくい、足の付け根が痛む、草履を履いているような感覚が続いている)
 - ・筋肉痛(朝起きると腕や太ももが痛くて起き上がることができない)
 - ・レイノー症状(寒い時に手指が白色、紫色から赤色に変色する)
 - ・眼や口の乾燥症状がひどい(ドライアイがひどくパンなど水分がないと飲み込めない)
 - ・若い頃からの安静にしていてもよくなる腰痛、動いているとよくなる腰痛
 - ・血液検査でリウマチ因子、抗CCP抗体、抗核抗体などの異常値上記の症状かはっきりせず、何らかの症状がありリウマチ、膠原病疾患を心配されている方は、一度当科を受診してください。

診療実績

診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
070560xx99x00x	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患-手術なし-処置2:なし-副病:なし	24
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎-手術なし-処置 2:なし-副病:なし	19
070470xx99x0xx	関節リウマチ-手術なし-処置 2:なし	11
040110xxxxx0xx	間質性肺炎-処置 2:なし	-
070510xx99xxxx	痛風、関節の障害(その他)-手術なし	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

関節リウマチや全身性エリテマトーデス、強皮症、筋炎等といった自己免疫性疾患を診療しています。多臓器の病変をきたしうるリウマチ膠原病の各種病態に対して各臓器専門医との強力なパートナーシップのもとに入院精査・加療を行っております。東区を中心とした広島市内の先生方との連携により2018年度は約160人の入院（リウマチ・膠原病疾患の精査・免疫抑制治療、生物学的製剤の導入、感染症、不明熱精査）がありました。常勤医師二人体制で迅速に入院加療を行える体制となっております。

外科・消化器外科

医師紹介

平成30年度在籍医師

診療部長

岡本 有三 昭和57年卒

Yuzo Okamoto

消化器外科（肝胆道外科）、内視鏡外科

日本外科学会専門医
日本肝胆膵外科学会評議員
医師救急医療業務実地修練過程修了

外科部長

矢野 将嗣 平成元年卒

Masatsugu Yano

消化器、内分泌甲状腺、内視鏡外科

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
内分泌・甲状腺外科専門医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医、日本肝臓病学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
消化器がん外科治療認定医
日本静脈経腸栄養学会TNT講師
日本静脈経腸栄養学会評議員
PDNセミナー講師
緩和ケア研修会修了

消化器外科部長

福田 敏勝 平成2年卒（H31. 3. 31転出）

Toshikatsu Fukuda

消化器外科（胃外科、肝胆膵外科）、内視鏡外科

医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本肝胆膵外科学会評議員
日本肝臓学会肝臓専門医
日本透析医学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
卒後臨床研修ネットワーク指導医養成講習会修了
広島がんのリハビリテーション研修会修了

医長

吉田 誠 平成12年卒（H31. 3. 31転出）

Makoto Yoshida

消化器外科（大腸外科）・内視鏡外科・肛門科

日本外科学会専門医
日本大腸肛門病学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医師
臨床研修指導医講習修了
緩和ケア研修会修了

大城 望史 平成4年卒

Takafumi Ooshiro

消化器外科

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本大腸肛門病学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医
日本透析医学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
消化器がん治療認定医

診療内容

患者さん一人ひとりに、最適な低侵襲の治療を提供します。

当院の外科は、消化器（肝臓・胆嚢・膵臓を含む）、甲状腺、乳腺を主として、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供できるように日々研鑽を積んでいます。また、患者さんにとって低侵襲で負担の少ない内視鏡下の手術にも積極的に取り組んでいます。

症例的には、がんの手術が多いですが、緊急手術も積極的に行っています。スムーズな急患対応に、鋭意取り組んでいます。治療の方針に関しては、患者さんご家族の皆さまに十分な説明と情報提供を行った上で、話し合い、共に治療方針を構築していくことを基本としています。そして、何より安心・安全な医療を提供することが一番大事なことと考えています。手術に関しましては、専門医による専門性の高い手術も行っています。技術に裏打ちされた、最善の手術を行い、患者さんが元気になれることを、スタッフ一同の喜びとしています。

診療実績

外科・消化器外科手術件数 ()内は鏡視下手術数

手術内容/年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	
頸部	甲状腺切除	8	37	14	15	29	46	
	副甲状腺切除	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	4	2	4	
胸部	乳腺	腫瘍摘出術	2	3	2	10	1	1
		切除術	7	10	7	2	5	13
		その他	6	3	1	2	1	0
	肺	切除術	28(28)	24(24)	8(8)	2	8(8)	0
		縦隔	6(6)	4(4)	0	1	1(1)	0
		その他	6(5)	13(12)	22(16)	15	3	0
	食道	切除、再建術	1	0	0	1	2	0
		その他	0	2	1	0	0	1
	横隔膜		0	0	0	0	0	0
	胸壁		2	4	3	4	0	0
心臓		0	0	0	0	0	0	
その他		0	1	0	1	0	1	
消化管	胃、十二指腸	良性、切除	1	3	0	0	2(1)	2(1)
		良性、その他	2	0	2	5	3	4
		悪性、切除術	32	23(1)	28(1)	15	18(8)	30(22)
		悪性、その他	0	1	0	0	6(1)	0
	大腸、小腸	イレウス解除術	11	7	11	8	4	2
		腸切除術	42	42(10)	58(10)	44	50(18)	74(39)
		人工肛門造設術	5	5	13	11	14	12(2)
	直腸、肛門	その他	12	7	12	16	9	11
		直腸切除術	19	11(3)	6(2)	13	11(6)	28(21)
		痔核、痔瘻手術	18	18	21	35	8	8
	虫垂	その他	8	11	6(1)	21	6	7(4)
		切除術	44	24(2)	30(1)	22	44(17)	39(29)
		その他	0	0	0	0	1	2(1)
肝・胆・膵・脾臓	肝臓	切除術	7	8	3	9	6	16(1)
		その他	0	1	0	1	2(2)	0
	胆道	胆嚢摘出術	39(25)	44(22)	26(17)	40	33(30)	56(48)
		胆道再建術	1	1	1	1	2	2
		その他	2	1	0	0	1	2
	膵臓	切除術	2	1	5	5	5	3
		その他	1	0	1	1	1	0
脾臓	摘出術	0	0	0	0	0	0	
腹膜・腹壁	ヘルニア	57	51	39	44	42	52(13)	
	その他	1	2	8	3	2(1)	2(1)	
	静脈瘤手術	7	1	4	7	1	0	
	血管	血行再建術	2	0	0	1	0	2
血管	シャント術	0	0	0	0	4	36	
	その他(CAPD関連)	36	4	54	0	1	2	

手術内容/年度		H29	H30
1) 消化+N2:N29管及び腹部内臓		350	397
食道		1	0
切除再建術		0	0
その他		1	0
胃・十二指腸		34	32
幽門側胃切除術、幽門保存胃切除		17	18
胃全摘術		5	6
噴門側胃切除術		2	1
胃局所切除術		4	1
その他		6	6
小腸・結腸・直腸		185	197
結腸癌の手術(切除術)		37	34
直腸癌の手術(切除術)		23	23
虫垂切除術		41	33
痔核、痔瘻の手術		24	36
人工肛門増設・閉鎖術		30	37
腸閉塞の手術		12	11
その他		18	23
肝・胆・膵・脾臓		130	196
肝		8	12
肝部分切除術		7	12
肝2区域以上の切除術		1	0
その他		0	0
胆・膵臓		57	85
胆嚢摘出術		47	69
膵頭十二指腸切除術		2	5
その他		8	11
脾臓		0	1
脾摘出術		0	1
その他		0	0
その他		65	70
鼠径ヘルニア手術		46	51
急性汎発性腹膜炎手術		0	2
その他		19	17
2) 乳腺		16	15
3) 呼吸器		0	3
4) 心臓・大血管		0	0
5) 末梢血管(頭蓋内血管除く)		64	74
静脈瘤手術		1	0
血行再建術		0	0
シャント術		56	63
その他(CAPD関連)		7	11
6) 頭頸部・体表・内分泌外科		74	77
甲状腺手術		30	34
副甲状腺手術		0	0
その他		44	43
7) 小児外科		0	0
8) 外傷(胸腹部損傷手術)		0	0
9) 移植		0	0
肝移植		0	0
腎移植		0	0
膵移植		0	0

人工透析外科

医師紹介

平成30年度在籍医師

人工透析外科部長

越智 誠 昭和61年卒

Makoto Ochi

透析アクセス手術、一般外科

日本透析医学会専門医・指導医
日本外科学会認定医・専門医
日本消化器外科学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
臨床研修指導医養成講習会修了
緩和ケア研修会修了

ひとこと

透析専門医の立場からCKD病診連携を行い少しでも病気の進行を抑え、透析導入患者数を減少できるように考えています。しかし、末期腎不全になられた場合には、納得した治療法を選択していただき、計画的な透析導入を心がけています。腹膜透析の普及・啓発、シャント管理に力を入れています。

診療内容

慢性腎臓病患者さんに最善の治療をご提供します。

慢性腎臓病（CKD）患者さんの腎障害の進行を抑えること、適切な時期に腎代替療法（透析、腎移植）の説明を行い、納得した治療法を選択していただくこと、計画的に透析導入を行うこと、さらに、安心・安全な透析が続けられように最善を尽くしています。

CKD外来

CKDは、病気が進行して末期腎不全となり透析が必要になるばかりか、脳卒中や心筋梗塞など心血管疾患のリスクを高め、生命の危険やQOLの低下につながります。CKD患者さんを早期に発見し治療を開始することが大切です。当科ではeGFR30mL/分/1.73m²未満、あるいは、血清クレアチニン値2.0mg/dL以上をご紹介の目安として、CKD連携を行っています。当院へは2～6か月に1回受診していただき、生活指導や栄養指導、貧血治療やリン吸着薬など薬剤の調整を行わせていただきます。また、経過をみながら患者さんとご家族に腎代替療法を説明して意思確認を行っていきます。無症状のうちに進行してしまうCKD患者さんのお役に立てるように頑張りたいと思います。

CKD外来への受診の目安

eGFR 30mL/分/1.73m²未満

あるいは血清クレアチニン値2.0mg/dL以上

腹膜透析（PD）

PDは、ゆるやかな治療で急激な体調の変化がないので、心血管疾患のある患者さんや自立した高齢の患者さんにも適した治療法です。また、患者さんの生活リズムで行える在宅治療ですので、メリットを生かせる患者さんには、PDファーストでの透析導入を積極的に勧めています。また、透析導入後も、かかりつけの先生方とPD病診連携を行っています。地域包括ケアシステムの構築や、医療と介護の連携強化が叫ばれていますが、高齢化が進む患者さんを多職種で協力してサポートするPDは、腎不全医療に必要不可欠です。

PDを行うためには、PDカテーテル留置術が必要です。段階的腹膜透析導入法（SMAP法）で

計画的に透析を開始できるように心がけています。これは、数か月以内に透析導入を行う必要があると判断した段階で、PDカテーテルを腹腔内に留置し、外へ出さないで皮下に埋め込んでおきます。いざ透析が必要となった時に、出口を作製し透析を開始します。この方法ですと、入院期間の短縮やカテーテルトラブルを減少させることができます。また、精神的にゆとりをもってPDに臨むことができます。

カテーテル出口部の位置は、カテーテルケアが容易に行えること、出口部・皮下トンネル感染のリスクを減少させる観点からも重要です。患者さんの体形にあわせて、下腹部出口やセミロングカテーテルを用いた上腹部出口を選択しています。

出口部感染を予防し早期に治療するように努めていますが、皮下トンネル感染に進展した場合には外科的対応が必要です。トンネル感染になると抗生物質の投与のみでは改善は期待できず、出口変更術を行います。しかし、感染が腹膜近くまで波及していればカテーテルを抜去し、新たなカテーテルを反対側から入れ替えることとなります。

カテーテルトラブルとして位置異常や閉塞による透析液の注排液不良がありますが、腹腔鏡下に位置修復術や閉塞解除を行っています。

血液透析 (HD)

HDを行うためには、バスキュラーアクセス (シャント) の作製が必要です。自己血管による動脈-静脈吻合が基本ですが、シャント作製に適した静脈がない場合も多く、人工血管 (グラフト) によるシャント作製を行う症例も増えています。また、シャント作製が困難であったり、ADLが著しく低下していたり、心機能不良な患者さんでは、長期間使用可能なカテーテルを留置したり、動脈の表在化を行っています。

シャントトラブルとして頻度の多い狭窄と血栓性閉塞の治療は、まず、経皮的血管形成術 (シャントPTA) を行いますが、短期間に狭窄や閉塞を繰り返す症例ではシャントの再建術を検討します。シャント感染 (特に、グラフト感染) や破裂の危険性のあるシャント瘤には再建術が必要です。

シャントの自己管理は大切に、毎日、見て・聞いて・触って、異常を早期に発見できるように指導しています。一度作ったシャントが長く使えるように維持管理を行っています。

PD+HD併用療法 (ハイブリッド療法)

PDとHD、それぞれの治療法の長所を生かし短所を補う目的で、またPDからHDへの移行期に行

っています。β2-ミクログロブリンなどの溶質除去不良や体液過剰の場合などに、週1回HDを行い週6日間はPDを継続しています。

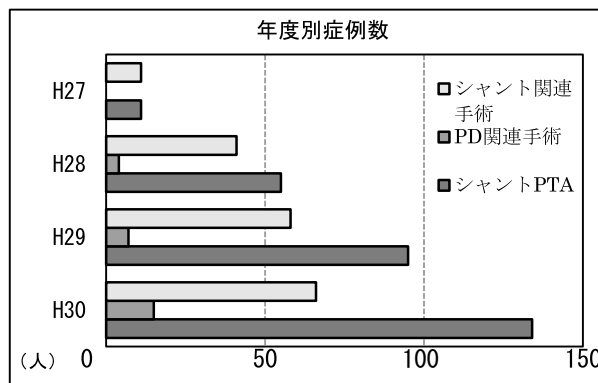
腎移植

末期腎不全に対する唯一根本的な治療法です。腎移植を希望される患者さんで腎提供者 (ドナー) がいらっしゃれば生体腎移植を、ドナー候補がいなければ献腎移植の登録をお勧めします。残念ながら、当院では腎移植は行っていません。腎移植を希望される患者さんは、広島大学病院や県立広島病院と連携していますので紹介させていただきます。

人工透析外科では、CKD患者さんの保存期から腎代替療法の開始・維持期に渡って治療が行えるような体制を整えていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

診療実績

	透析アクセス手術			シャントPTA
	シャント関連	PD関連	合計	
H27	11	0	11	11
H28	41	4	45	55
H29	58	7	65	95
H30	66	15	81	134



人工透析センター

医師紹介

平成30年度在籍医師

人工透析センター長

越智 誠 昭和61年卒

Makoto Ochi

透析アクセス手術、一般外科

日本透析医学会専門医・指導医
日本外科学会認定医・専門医
日本消化器外科学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
臨床研修指導医養成講習会修了
緩和ケア研修会修了

外科部長・消化器外科

矢野 将嗣 平成元年卒

Masatsugu Yano

消化器、内分泌甲状腺、内視鏡外科

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
内分泌・甲状腺外科専門医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医、日本肝臓病学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
消化器がん外科治療認定医
日本静脈経腸栄養学会TNT講師
日本静脈経腸栄養学会評議員
PDNセミナー講師
緩和ケア研修会修了

福田 敏勝 平成2年卒 (H31.3.31転出)

Toshikatsu Fukuda

消化器外科(胃外科、肝胆膵外科)、内視鏡外科

医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器病学会消化器病専門医
日本肝胆膵外科学会評議員
日本肝臓学会肝臓専門医
日本透析医学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
卒後臨床研修ネットワーク指導医養成講習会修了
広島がんのリハビリテーション研修会修了

大城 望史 平成4年卒

Takafumi Ooshiro

消化器外科

日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本大腸肛門病学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医
日本透析医学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
消化器がん治療認定医

診療内容

通院透析患者さんから入院透析まで、安心して任せていただける体制と環境です。

人工透析センターは透析監視装置25台、全台で大量置換血液透析濾過(on-line HDF)が可能です。機械室のクリーン化を図り、清浄化された透析液が供給できるように管理しています。人工透析センターでは、通院維持透析患者さんと、さまざまな合併症管理のために入院され、比較的状态が安定している透析患者さんの治療を行っています。また、潰瘍性大腸炎、クローン病や関節リウマチに対して血球成分除去療法や、難治性腹水に対しての腹水濾過濃縮再静注法なども行っています。夜間の緊急透析や、循環動態の不安定な患者さんの持続血液透析濾過(CHDF)は、入院病棟で行っています。

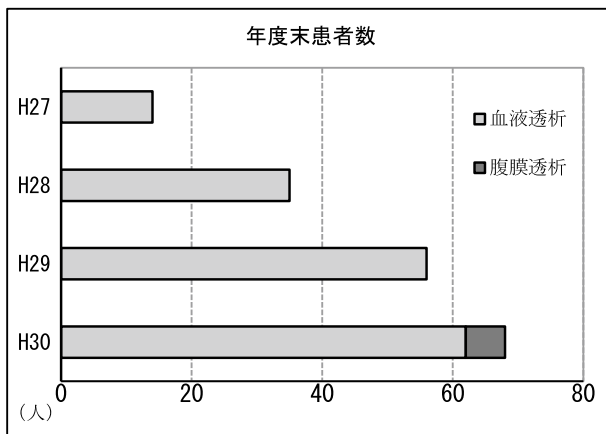
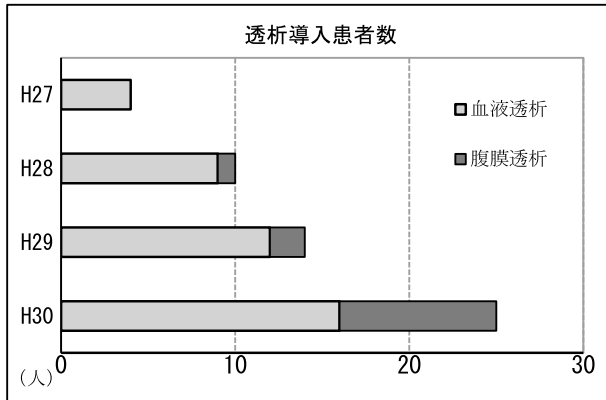
JR広島駅をはじめ交通アクセスの容易な当院のメリットを活かして、通院透析患者さん以外にも、広島を観光に訪れた透析患者さんの旅行透析も積極的に受け入れています。

人工透析センターでは、人工透析外科と外科の医師がおもに治療にあたります。さらに、看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士、リハビリ科や医療ソーシャルワーカーを含めたチーム医療で、透析患者さんの希望に添える医療が提供できるように努力しています。透析患者さんが安心して透析を任せられるセンターにしますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



診療実績

	透析導入患者数			年度末患者数		
	血液透析	腹膜透析	合計	血液透析	腹膜透析	合計
H27	4	0	4	14	0	14
H28	9	1	10	35	0	35
H29	12	2	14	56	0	56
H30	16	9	25	62	6	68



整形外科

医師紹介

平成30年度在籍医師

整形外科部長

佐々木 正修 昭和56年卒

Masanobu Sasaki

脊椎・脊髄外科

日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

リハビリテーション科部長

中村 精吾 昭和59年卒

Seigo Nakamura

股関節外科、リウマチ

日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本リウマチ学会専門医
日本リハビリテーション学会専門医
日本整形外科学会スポーツ医

医長

村尾 保 昭和61年卒

Tamotsu Murao

膝関節外科、整形外科一般

日本整形外科学会認定整形外科専門医

土井 一義 平成13年卒 (H31. 3. 31転出)

Kazuyoshi Doi

整形外科一般

日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

藤岡 悠樹 平成15年卒

Yuki Fujioka

整形外科一般、脊椎・脊髄外科

日本整形外科学会認定整形外科専門医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

須賀 紀文 平成17年卒

Norifumi Suga

膝関節外科、整形外科一般

日本整形外科学会認定整形外科専門医

診療内容

脊椎・脊髄および四肢・関節の治療を行っています。

整形外科は、四肢（上肢・下肢）および脊椎の病気を診断し治療する診療科です。上肢は、肩から指先、下肢は、骨盤からつま先までの広い範囲の病気をあつかいます。脊椎は、くび・背中・腰の痛みだけではなく、脊髄・神経が圧迫されて生じる上肢・下肢のしびれや痛み、手足の運動障害（手が動かさにくくボタンがかけにくい・箸が使えない・歩きにくい・転びやすい）の治療を行います。

当院では整形外科医6名が、脊椎・脊髄外科、関節外科および四肢の骨折・外傷の治療に力を入れています。脊椎疾患による神経痛は、初期には神経根ブロックなど保存治療を行います。保存治療の効果の少ない頑固な症状が続くときは、顕微鏡を使った手術をお勧めしています。顕微鏡を使用すると、立体的な視野の下で安全に手術が行え、身体に負担が少ないため翌日から離床が可能です。

変形性股関節症、変形性膝関節症は高齢者に多くみられる疾患ですが、保存治療の効果のない高度な関節症の方には人工関節置換術を行っています。

診療実績

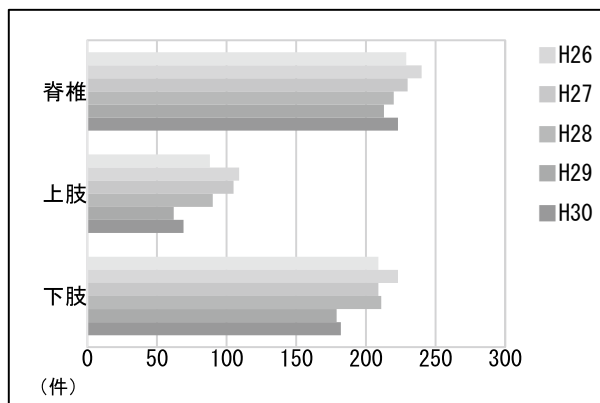
1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	患者数
070343xx97x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎-その他の手術あり-処置 2:なし	101
070343xx99x1xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎-手術なし-処置 2:1あり	78
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折-人工骨頭挿入術 肩、股等	74
160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰椎損傷を含む。)-手術なし-副病:なし	49
070341xx99x1xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)頸部-手術なし-処置 2:あり	44

脊椎脊髄疾患（頸椎症性脊椎症、頸椎症性神経根症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなど）、変形性関節症および四肢外傷（骨折、靭帯断裂など）に対して治療を行っています。腰椎椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の初期では神経根ブロックなどの保存的治療が有効なこともあります。日常生活に困る痛みやしびれ、或いは、筋力の低下が生じたときには手術をお勧めしています。脊椎手術は、顕微鏡を使用した手術を行っています。顕微鏡手術の利点は、明るく立体的な視野のもとで行うため安全に手術が行えます。体に負担が少ない低侵襲手術ですので、翌日から離床が可能です。股関節や膝関節の変形性関節症は高齢者に多くみられる疾患です。保存療法の効果のない進行期から末期の関節症の方には人工関節置換術を行い、生活の質を高めることを目標としています。高齢化に伴い、骨粗鬆症を基盤とした骨粗鬆症性椎体骨折（いわゆる椎体圧迫骨折）や大腿骨近位部骨折が増加しています。特に骨粗鬆症性椎体骨折では、早期発見・早期保存療法を行えば、手術治療を行わずに治癒させることが可能です。

2. 年別整形外科手術件数

	H26	H27	H28	H29	H30
脊 椎	240	230	220	213	223
上 肢	109	105	90	62	69
下 肢	223	209	211	179	182



リハビリテーション科

医師紹介

平成30年度在籍医師

リハビリテーション科部長

中村 精吾 昭和59年卒

Seigo Nakamura

股関節外科、リウマチ

日本整形外科学会認定整形外科専門医

日本リウマチ学会専門医

日本リハビリテーション学会専門医

日本整形外科学会スポーツ医

技士長よりごあいさつ

長岡 由樹

Yoshiki Nagaoka

病院の2階南側に位置するリハビリテーション科は、窓が大きくて日当たりがよく、部屋の中がとても明るくなっています。明るい部屋で、明るく元気なリハビリ科スタッフが皆さんに元気をお分けできるよう日々努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

診療内容

嚥下内視鏡検査と攣縮のボトックス治療に注力しています。

入院患者さんのリハビリテーションを中心に提供していますが、連携先の先生からのご紹介についてはお引き受けしております。四肢の運動機能の回復・維持に役立つ機器類をはじめ、作業訓練によって身体機能の回復を促す作業療法のための用具、あるいは言語に障害の残る方のリハビリに用いるカードや検査機器など、幅広いリハビリのための環境が整っています。

現在注力しているのは、嚥下障害のある患者さんに対する嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査が1つ。そして、攣縮のある患者さんに対する、ボツリヌス菌によるボトックス治療にも力を入れています。

資格取得

心臓リハビリテーション指導士

3学会合同呼吸器療法認定士

運動器認定理学療法士

設備紹介



陽の光が入り明るく広々とした環境でリハビリを行います。



負担の大きい浴槽の出入りを実践的に練習することができます。



スムーズに日常生活を送れるよう、サポートしていきます。

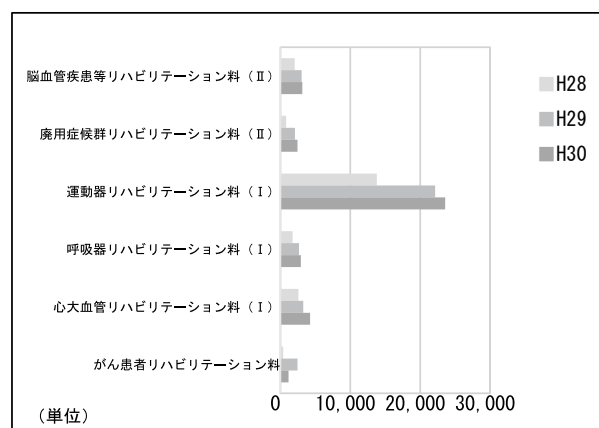


心肺機能の改善を目的としたリハビリを行う部屋です。

診療実績

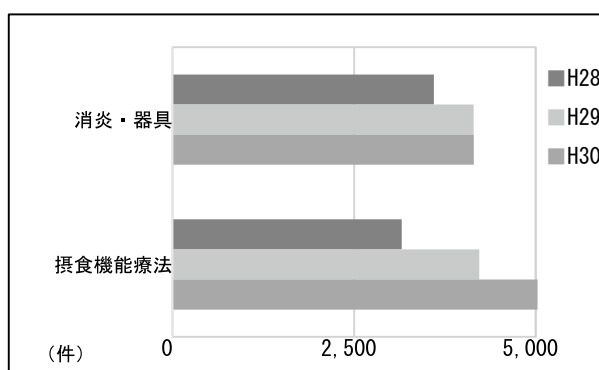
1. リハビリテーション単位数

	H28	H29	H30
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)	2,042	3,043	3,146
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)	832	2,083	2,447
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	13,798	22,147	23,579
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	1,750	2,655	2,936
心大血管リハビリテーション料(Ⅰ)	2,588	3,276	4,246
がん患者リハビリテーション料	397	2,449	1,163



2. 消炎・器具、摂食機能療法件数

	H28	H29	H30
消炎・器具	3,598	4,145	4,148
摂食機能療法	3,154	4,222	5,147



小児科

医師紹介

平成30年度在籍医師

小児科部長

下 藺 彩子 平成9年卒

Saiko Shimozono

小児科一般

日本小児科学会専門医

医長

西山 昌志 平成20年卒

Masashi Nishiyama

小児科一般

日本小児科学会専門医

北村 佳子 平成23年卒 (H30.10.31転出)

Yoshiko Kitamura

小児科一般

日本小児科学会専門医

診療内容

当院小児科は、小児科専門医3名で担当しています。新生児から中学卒業までの児の、小児内科一般を幅広く診療しています。近隣開業医の先生方と連携し、地域の中核病院として、こどもたちの健康に貢献していきたいと思っています。

入院：

年間約200人の入院があります。主に上・下気道感染症や胃腸炎関連などの感染症、アレルギー疾患、川崎病、IgA血管炎などの急性期疾患を診療しています。大半が東区や安芸区、安芸郡など近隣の開業小児科からの紹介入院です。家族に寄り添った、きめこまかいサポートを心がけています。

外来：

主に急性期疾患を診療していますが、気管支喘息などのアレルギー疾患、てんかん、便秘、夜尿症、染色体異常など基礎疾患を有する

児のフォローアップなど慢性疾患の診療も行っています。幼稚園や学校帰りにも受診しやすいよう、夕方からの外来診療もしています。午後からは乳児健診や予防接種も行っていますが、感染症と接触しないように時間帯をわけています。また、脳波やCT、MRIなどの検査のみの依頼も受けています（低年齢児では鎮静が必要となることがあり、小児科が管理しています）。

月、水、金曜日の午後に心臓外来（要予約）を行っています。学校心臓病検診の二次検診病院に指定されており、心エコー、心電図の他、ホルター心電図、トレッドミルなどで診断、管理を行っています。胸痛や動悸、心雑音の精査目的でのご紹介もあります。

診療実績

診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他) -副病:なし	27
030270xxxxxx	上気道炎	17
0400801199x00x	肺炎等(1歳以上15歳未満) -手術なし-処置2:なし-副病: なし	17
040100xxxx00x	喘息-処置2:なし-副病:なし	17
060380xxxx0xx	ウイルス性腸炎-処置2:なし	17

新生児から中学卒業までの児の、小児内科一般を幅広く診療しています。上・下気道感染症や胃腸炎関連などの感染症が主ですが、川崎病やIgA血管炎、アレルギーなど急性期疾患を中心に、年間約180人(周産期入院を除くと約170人)の入院加療をしています。

皮膚科

医師紹介

平成30年度在籍医師

皮膚科部長

堀内 賢二 昭和58年卒

Kenji Horiuchi

皮膚科一般、皮膚病の病理診断、アレルギー性皮膚疾患

日本皮膚科学会専門医
日本皮膚科学会指導医
広島大医学部臨床教授

医長

水野 麻紀 平成23年卒

Maki Mizuno

皮膚科一般

診療内容

早期治癒に向けた適切な治療を、
確実に進めていきます。

皮膚疾患全般を対象としており、広島市東区唯一の病院皮膚科として、広島大学病院など他の病院・診療所との連携も密に行っています。

皮膚疾患に対しては、当たり前の診断、当たり前の治療を確実にを行うことを心がけております。詳細な問診や血液検査などを参考にしつつ、患者さんの生活習慣や環境を考え、細かく生活指導を行うようにしています。点滴治療を必要とする急性感染症は、入院を原則としてすみやかな改善に努めております。いぼには冷凍凝固法を行うなど、早期治癒に向けた適切な治療を確実に進めていきます。

また、女性患者さんにやさしい診療を心掛けており、女性患者さんの顔や外陰部等にある皮膚病の相談は、原則として女性医師が対応しています。

診療実績

1. 診断群分類別患者数等

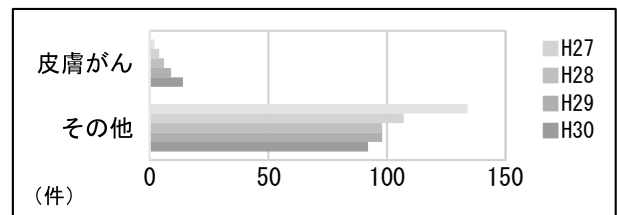
DPCコード	DPC名称	症例数
080010xxxx0xxx	膿皮症-処置 1:なし	19
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	14
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)-皮膚悪性腫瘍切除術等-処置 2:なし	-
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物-皮膚、皮下腫瘍摘出術(露出部)等-処置 1:なし	-
161000x199x0xx	熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷(Burn Index10 未満)-手術なし-処置 2:なし	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン(-)を表示しています。

皮膚科疾患全般を対象としています。点滴治療を必要とする急性感染症(帯状疱疹、急性膿皮症)は、入院治療を行い早期軽快に努めています。急性膿皮症のほとんどは下肢の蜂窩織炎であり、糖尿病等基礎疾患を合併している患者さんが多いです。大きな粉瘤、脂肪腫等は一泊二日入院(局所麻酔手術)を行っています。

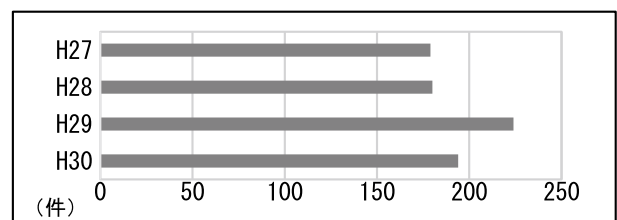
2. 年別皮膚手術件数

	H26	H27	H28	H29	H30
皮膚がん	2	4	6	9	14
その他	134	107	98	98	92
合計	136	111	104	107	106



3. 年別皮膚科病理組織検査件数

	H26	H27	H28	H29	H30
件数	173	179	180	224	194



産婦人科

医師紹介

平成30年度在籍医師

産婦人科部長

本田 裕 平成6年卒 (H30. 6. 30転出)

Hiroshi Honda

周産期医学（出生前診断、遺伝相談）、
婦人科腫瘍、内視鏡手術

医学博士

日本産科婦人科学会専門医・指導医

母体保護指定医

日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医

日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

医長

木谷 由希絵 平成17年卒

Yukie Kidani

産婦人科一般

医学博士

日本産科婦人科学会専門医

山縣 麻衣 平成19年卒

Mai Yamagata

産婦人科一般

日本産科婦人科学会専門医

診療内容

産婦人科領域は大きく周産期(産科)・生殖内分泌・婦人科腫瘍・女性ヘルスケア領域に分けられ、各分野についてはそれぞれ以下に示すような対応を行っております。

周産期

当科では平成30年7月より分娩の取り扱いを休止しておりますが、妊婦健診は引き続き行っています。里帰り分娩を予定されている方、他院での分娩を予約されている方で、当院で健診を希望される方の妊婦健診は妊娠初期から妊娠34週頃まで対応しております。また悪阻や切迫流・早産等の入院管理も可能です。今後はさらに助産師による産後の母乳外来や産後ケアの受け入れの拡大を予定しています。

生殖内分泌

挙児希望の方に対しては基礎体温表を用いたタイミング指導や内服を用いた排卵誘発などを行っており、人工受精・体外受精などさらに高度な治療が必要とされる場合には専門施設を紹介させて頂いています。ご夫婦でのご相談の場合は当院の泌尿器科と連携して精液検査等にも対応しております。

また妊娠希望の方やご結婚を予定されている方の相談、子宮癌検診、超音波検査、ブライダルチェック（血液検査など）も行っています。

婦人科腫瘍

婦人科領域では子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなどの早期発見のための検診を積極的に行っています。手術については悪性腫瘍手術や腹腔鏡手術等に対応が困難な場合がありますが、その際には高次施設と連携して対応いたします。また、当院は院内の化学療法室や広島がん高精度放射線治療センターとの密な連携により、入院・外来化学療法や放射線治療についての受け入れ体制が整っていますので、術後や再発時の化学療法、放射線療法などを当院で希望される方についても適宜対応させていただきます。

女性ヘルスケア

また、思春期から更年期以降までの月経トラブルへの対応や健康管理など、女性医療・医学にも力を入れて診療をしています。若年の月経

異常やPMS(月経前緊張症候群)、早発・遅発思春期などは産婦人科に受診することに抵抗があるため、受診が遅れる場合もありますが、現在は女性医師2名による診療を行っており、外来も女性スタッフのみですので、比較的受診しやすい体制が整っています。若年の方に対しては経腹超音波やCT・MRIを用いた診断や漢方薬などホルモン剤以外による治療も行っております。また、更年期や更年期以降の体調不良や婦人科トラブルに対してもホルモン治療を始め、薬物療法や生活指導など幅広い治療を行っております。

産婦人科はその特性上、安易に受診しにくいところではありますが、当院では現在のところ女性医師のみで対応可能であるため比較的抵抗感が少なく受診して頂けるのではないかと考えております。同じ女性の立場から、女性に対して細やかな対応を心がけており、女性に対して優しい医療を目指して参りたいと考えておりますので今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

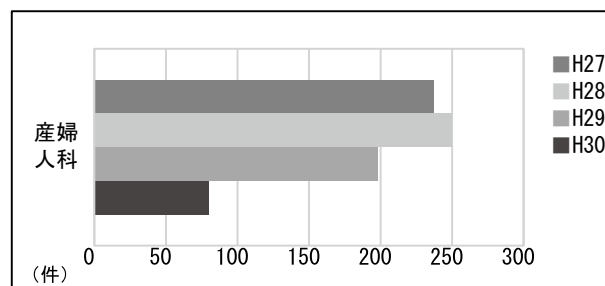
診療実績

1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
120220xx01xxxx	女性性器のポリープ-子宮全摘術等	16
120110xx99xx0x	子宮・子宮附属器の炎症性疾病-手術なし-副病:なし	-
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍-子宮頸部(腔部)切除術等-処置2:なし	-
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常-子宮全摘術等	-
12002xxx99x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍-手術なし-処置2:なし	-

良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応しています。また、子宮頸がん、子宮体がんや卵巣がんなどの悪性疾患に関しては早期発見のため検診を積極的に行っています。

2. 年別手術件数



	H27	H28	H29	H30
全体	1,860	2,116	2,113	2,228
産婦人科	237	250	198	80

泌尿器科

医師紹介

平成30年度在籍医師

泌尿器科部長

橋本 邦宏 平成2年卒

Kunihiro Hashimoto

泌尿器一般、尿路性器悪性腫瘍、腹腔鏡手術

日本泌尿器学会専門医・指導医

広島大学医学部臨床教授

日本内視鏡外科学会技術認定医(腹腔鏡技術認定医)

日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

医長

鵜飼 麟三 昭和45年卒

Rinzo Uka

泌尿器一般、尿路性器悪性腫瘍

日本泌尿器学会専門医・指導医

内藤 美季 平成24年卒 (H31. 3. 31転出)

Miki Naito

泌尿器一般

診療内容

泌尿器全般の疾患に、積極的かつ適切な治療を行っています。

前立腺肥大、尿路性器悪性腫瘍から、感染症、尿路結石、神経因性膀胱、尿失禁まで、泌尿器全般の疾患に対応しています。腎・尿管結石では疼痛コントロールなども行うとともにレーザー破碎術も開始しております。

また、多発性骨転移を伴う去勢抵抗性前立腺がんに関しては、Ra223（ラジウム223）を使用した治療を開始する予定です。

膀胱腫瘍に関しては、経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術（TURBO）を実施しています。経尿道的に一塊に切除して、正確な病理診断をもとに適切な治療を行うものです。また、前立腺腫瘍に関しては、経会陰式前立腺生検を実施しております。一般的に行われている経直腸的な生検にくらべ、尿路感染症や直腸出血などの合併症が少ないのが特徴です。

尿路性器悪性腫瘍等の専門的な疾患にも積極的に治療を行っておりますので、早期発見のためにも、ぜひご相談ください。

診療実績

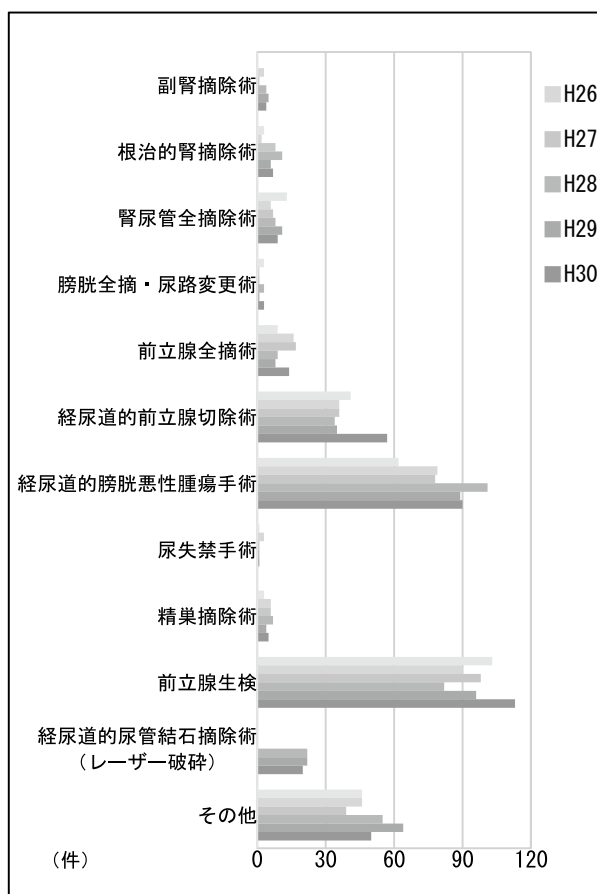
1. 診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	症例数
110070xx0200xx	膀胱腫瘍-膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術-処置 1:なし- 処置 2:なし	86
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等-経尿道的前 立腺手術等	49
110060xx99x20x	腎盂・尿管の悪性腫瘍-手術 なし-処置 2:2あり-副病:なし	32
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症-手 術なし-副病:なし	18
110080xx01xxxx	前立腺の悪性腫瘍-前立腺悪 性腫瘍手術等	13

前立腺肥大、尿路性器悪性腫瘍から、感染症、尿路結石、神経因性膀胱、尿失禁まで泌尿器全般の疾患に対応しています。腎・尿管結石の疼痛コントロールなども行っています。膀胱腫瘍に関しては、経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術（TURBO）を実施しています。経尿道的に一塊に切除して、正確な病理診断をもとに適切な治療を行うものです。また、前立腺腫瘍に関しては、経会陰式前立腺生検を実施しています。一般的に行われている経直腸的な生検に比べ、尿路感染症や直腸出血などの合併症が少ないのが特徴です。

2. 年別泌尿器手術件数 ()は鏡視下手術数

	H26	H27	H28	H29	H30
副腎摘除術	3(3)	1(1)	4(4)	5(5)	4(4)
根治的腎摘除術	2(2)	8(8)	11(11)	6(6)	7(6)
腎尿管全摘除術	6(6)	7(7)	8(8)	11(10)	9(9)
膀胱全摘・尿路変更術	1	1	3	1	3
前立腺全摘術	16	17	9	8	14
経尿道的前立腺切除術	36	36	34	35	57
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	79	78	101	89	90
尿失禁手術	3	1	1	1	0
精巣摘除術	6	6	7	4	5
前立腺生検	90	98	82	96	113
経尿道的尿管結石摘除術 (レーザー破砕)	-	-	22	22	20
その他	46	39	55	64	50
合計	288	292	337	342	372



眼科

医師紹介

平成30年度在籍医師

眼科部長

田中 文香 平成10年卒

Ayaka Tanaka

緑内障・眼科一般

日本眼科学会専門医
広島大学医学部臨床教授
身体障害者福祉法指定医師
ボトックス講習・セミナー修了医師

医長

湯浅 知世 平成23年卒

Tomoyo Yuasa

眼科一般

診療内容

私たちは、病院眼科として必要とされる医療の提供を目指します。

当院は、眼科一般疾患はじめ、白内障手術、緑内障手術、レーザー手術、硝子体内注射等に注力しています。2018年度の手術総件数は、677件でした。白内障手術は631件（白内障手術単独は578件）、緑内障手術は70件（濾過手術34件、流出路再建術36件）、硝子体内注射は78件、レーザー手術は85件でした。病診連携での患者さん紹介の増加にともない、手術件数等が年々増加しております。

今年は、OCT Angiography (Zeiss) が導入されました。これは、OCT撮影はもちろんですが、造影剤を使用せずに眼底の血管撮影もできます。網膜疾患はじめ、緑内障診療においても有用です。今までできなかった血管密度が測定できるようになり、緑内障進行を最も早期に検出できることが期待されています。視野検査だけでなく、OCTAも用いて多角的に緑内障進行を評価し最新の緑内障診療を目指します。

白内障手術は、2泊3日入院で行っていますので、独り暮らしや移動が難しい患者さんには安心して手術を受けていただけます。送迎するご家族の負担軽減にもなります。ご高齢の患者さんでも、仰臥位安静が保てれば局所麻酔下での

白内障手術が可能です。見える喜びは、生きる喜びにつながりますので、積極的かつ安全に行えるように対応しています。

緑内障診療では、病型、病期、年齢やライフスタイルを考慮して、手術加療を含めた最適な治療を選択して視機能維持を目指します。流出路再建術は3泊4日、濾過手術は4泊5日の入院で行っています。広島大学の奥道医師と田中の2人の緑内障専門医が、緑内障手術を担当しています。流出路再建術では、低侵襲緑内障手術（microhook TL0）を主に行っております。緑内障がある患者さんの白内障手術の際には、低侵襲緑内障手術の適応があるかを検討します。この手術は、白内障手術にプラス5分程度の手術時間で重篤な合併症もなく、眼圧下降をはかることができます。高齢者では自己点眼が難しくなった場合、介護者が点眼する必要があり、点眼を一生し続けるのは両者にとって負担です。手術によって点眼加療が不要、軽減することは、点眼のアドヒアランス向上となり視機能維持につながります。

加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症にともなう黄斑浮腫、病的近視における新生血管、糖尿病黄斑浮腫に対する抗VEGF硝子体内注射、眼瞼痙攣や顔面痙攣に対するボトックス注射を行っています。当院で対応できない硝子体手術などの症例は、専門医へ紹介いたします。

広島大学医学部生や研修医の実習を受け入れており、眼科学への理解を深めていただくため指導をしております。眼科入局を考えている女性研修医の見学実習を受け入れ、良好なライフワークバランスについての相談にもっております。

近隣の眼科の先生方はじめ、また他科の先生方からも、大切な患者さんを紹介いただき誠に感謝申し上げます。当科で加療を受けて良かったと思っただけのように努力してまいりますので、今後とも御指導のほどお願い申し上げます。

診療実績

1. 診断群分類別患者数等

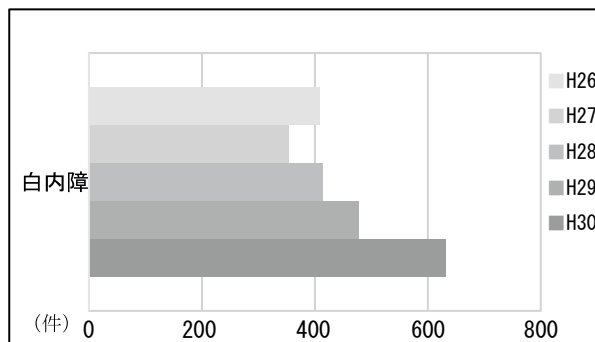
DPCコード	DPC名称	症例数
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患-手術あり-片眼	353
020220xx97xxx0	緑内障-手術あり-片眼	67
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患-手術あり-両眼	-
020220xx97xxx1	緑内障-手術あり-両眼	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

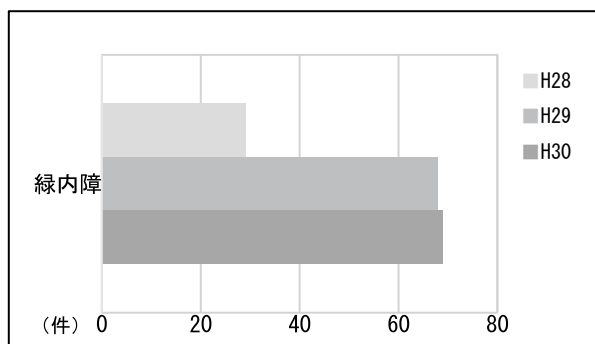
眼科疾患に対して幅広く診療しています。白内障、緑内障、糖尿病網膜症などの患者数が多くなっています。緑内障は、40歳以上の有病率は5%で、中途失明原因の1位です。緑内障による視機能低下を防ぐために診断から手術加療まで対応しています。

2. 眼科手術件数

	H26	H27	H28	H29	H30
白内障	407	352	434	477	631



	H28	H29	H30
緑内障	29	68	70



耳鼻咽喉科

医師紹介

平成30年度在籍医師

耳鼻咽喉科部長

宮里 麻鈴 平成12年卒

Marin Miyasato

耳鼻咽喉科一般

医学博士

日本耳鼻咽喉科学会専門医

補聴器相談医

身体障害者福祉法指定医

診療内容

患者さんお一人お一人のニーズに合った検査・治療を提案します。

味、におい、あつて当たり前と思っていませんか。最近テレビの音が大きくなった、耳が遠くなったかもしれないと感じることはありませんか。きこえは大切なコミュニケーション方法です。耳鼻咽喉科は五感のうち3つを担当しています。

耳鼻咽喉科ではいろいろな病気に対応します。

耳：中耳炎、耳あか、難聴、めまい、耳鳴り、補聴器の相談、耳のかゆみ

鼻：花粉症、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、におい

のど：のどの違和感・痛み、飲み込みが悪い、魚の骨、声のかすれ、いびき、扁桃炎

他：かぜ、咳、首のはれ、味覚、顔面神経麻痺、頭頸部腫瘍（診断）など

当科では、総合病院ならではのCT、MRI検査、入院や手術も行っています。完治をめざす病気だけでなく、症状の軽減を目指す病気についても適切な説明を行い、患者さんのつらい症状に寄り添いながら、柔軟に対応することを心がけています。におい、難聴は早めの受診が大切なことがあります。耳鼻科のがんの咽頭がん、喉頭がんは早期発見が重要です。思い当たる症状、気になる病気があればお気軽にご相談ください。専門医が親切丁寧に対応します。複数の診療科領域にわたる病気の場合は、関連する他

の科との連携を密に行い、がんや高度な治療が必要な病気は適切な病院をご紹介します。

診療実績

診断群分類別患者数等

DPCコード	DPC名称	患者数
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	27
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎-手術なし	12
030240xx01xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎-扁桃周囲膿瘍切開術等	10
030400xx99xxxx	前庭機能障害-手術なし	-
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	-

※患者数が10人未満の項目には、ハイフン（-）を表示しています。

急性咽頭炎は発熱による倦怠感、経口摂取困難となる症例は在宅での管理が困難であるため入院で治療を行っています。前庭機能障害はめまいを主とする症状があり、初診時に原因が特定できない場合は入院加療を行いながら頭部をはじめとする精査、他科へのコンサルテーションを行っています。重度の末梢性顔面神経麻痺、突発性難聴は安静、点滴によるステロイド治療を行っています。

緩和ケア科

医師紹介

平成30年度在籍医師

緩和ケア科部長

沖政 盛治 平成4年卒

Seiji Okimasa

日本外科学会専門医・指導医

診療内容

穏やかな時間と空間のために。

当院では病院のリニューアルに際し、新たに緩和ケア内科を設立し、あわせて7階病棟を緩和ケア病棟として運営開始といたしました。がん医療強化の一環としての一翼を担いたいと思っています。

「緩和ケア」とは

がんと診断されたときから行うサポートです。がん患者さんは、それ自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などの身体的な症状や、不安、苛立ちなどの精神的な苦痛を経験します。さらには、闘病に際して経済的な問題や生きる意味への問いとしてスピリチュアルな苦痛を抱き苦悩することがあります（全人的苦痛：身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛）。

そのような患者さんには

- 信仰や人生への思いを尊重します
- 痛みや苦しみの無い穏やかな日々をめざします
- それぞれの専門職が各々の力でお支えます
- 地域の医療機関と連携し、自宅や医療施設のどちらでも療養できるようにサポートします

以上を信条とし、寄り添っていきたいと思っています。

病棟内設備

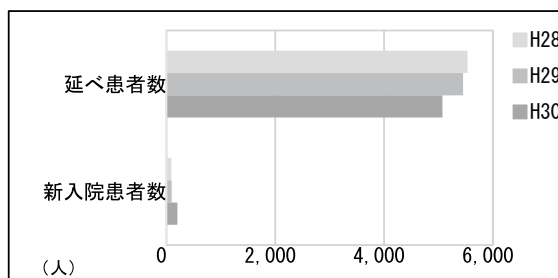


緩和ケア病棟につきましては20ベッド全て個室で対応させていただいています。入棟については一定の条件がありますが、遠慮なく当院スタッフにお声掛けいただきますようお願いいたします。緩和ケア認定看護師をはじめ院内スタッフが懇切丁寧に対応させていただきます。

診療実績

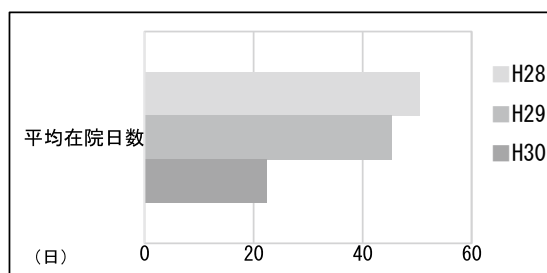
1. 年別患者数

	H28	H29	H30
延べ患者数	5,533	5,452	5,074
新入院患者数	89	93	200



2. 年別平均在院日数

	H28	H29	H30
平均在院日数	50.5	45.4	22.5



放射線科

医師紹介

平成30年度在籍医師

放射線科部長

伊達 秀二 平成2年卒

Shuji Date

画像診断全般、IVR

医学博士

日本医学放射線学会放射線診断専門医

検診マンモグラフィ読影認定医

放射線診断部長

市木 敏夫 昭和57年卒

Toshio Ichiki

画像診断全般、IVR

医学博士

日本医学放射線学会放射線診断専門医

医師

久保 雅実 平成24年卒

Masami Kubo

画像診断全般

日本医学放射線学会放射線科専門医

技師長よりごあいさつ

中本 幸司

Koji Nakamoto

放射線科では、320列CT等最新機器を導入し、これら进行操作するスタッフは認定資格を持ったスペシャリストを配置しています。また、マンモグラフィーについては女性認定技師が対応し、患者さんが安心して検査を受けて頂けるよう取り組んでいます。検査内容についての疑問やご心配等ございましたら気軽にお問い合わせください。

診療内容

最新の医療機器と的確な診断で、患者さんに優しい検査をいたします。

放射線科では新病院体制に伴い最新の医療機器を導入し、数多くの検査に精力的に取り組んでいます。現在世界最高である320列の検出器を搭載したCTは撮像時間や被曝量を大幅に低減し、心臓を含めた全身のあらゆる部位を、3次元で詳細に観察することができます。1.5テスラのMRIは、従来の装置と比較し開口部が広いため圧迫感が少なく、撮像時の騒音を少なくする技術や、造影剤を使用せずに腹部や四肢の血管を撮影できる技術など、より患者さんに優しい検査が可能となりました。核医学検査では、SPECT-CTにより狭心症などの心臓疾患、骨転移などの癌病変、認知症やパーキンソン病をはじめとする神経系疾患など、様々な機能診断を行っています。IVRを主体とした血管造影検査は、主に肝臓癌に対する肝動脈塞栓術を施行しています。上肢からのアプローチに早くから取り組むなど、侵襲性の低い血管内治療を実践しています。

当科の画像診断は院内のみならず、地域の開業医の先生方との共同利用を推進しており、現在1日10件前後のご紹介をいただいています。読影はすべて放射線診断専門医が担当しており、「患者さんに優しい、迅速・的確な画像診断」をモットーに診断レポートを作成、提供しております。

放射線技師所属学会

日本放射線技術学会
 日本診療放射線技師会
 日本交通医学会
 広島県放射線技師会
 日本医用画像管理学会
 日本核医学技術学会
 日本消化器がん検診学会

放射線技師取得資格

第1種放射線取扱主任者
 第2種放射線取扱主任者
 検診マンモグラフィー撮影認定診療放射線技師
 X線CT認定技師
 肺がんCT検診認定技師
 核医学専門技師
 医療情報技師
 医用画像情報専門技師
 胃がんX線検診技術部門B資格認定技師
 胃がんX線検診読影部門B資格認定技師

医療機器



世界最高水準の「コンピューター断層撮影CT320列」を整備。高水準の画像診断実施、診断の迅速化を図る。



今後増加が予想される循環器系疾患の治療を行う高機能装置を整備。

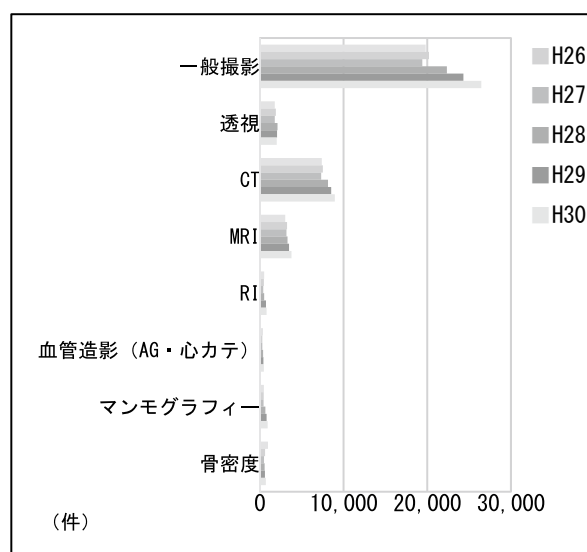


最新のMRI機器・設備を導入。病気の早期発見、早期診断の質の向上を図る。

診療実績

放射線科取り扱い人数

	H26	H27	H28	H29	H30
一般撮影	20,207	19,415	22,348	24,312	26,453
透視	1,899	1,782	2,093	2,048	2,020
CT	7,516	7,316	8,134	8,525	8,944
MRI	3,235	3,173	3,299	3,483	3,762
RI	467	402	510	719	789
血管造影 (AG・心カテ)	292	283	377	424	480
マンモグラフィー	444	428	649	800	932
骨密度	623	492	566	592	712



麻酔科

医師紹介

平成30年度在籍医師

麻酔科部長

久保田 稔 昭和58年卒

Minoru Kubota

麻酔一般

日本麻酔科学会専門医

診療内容

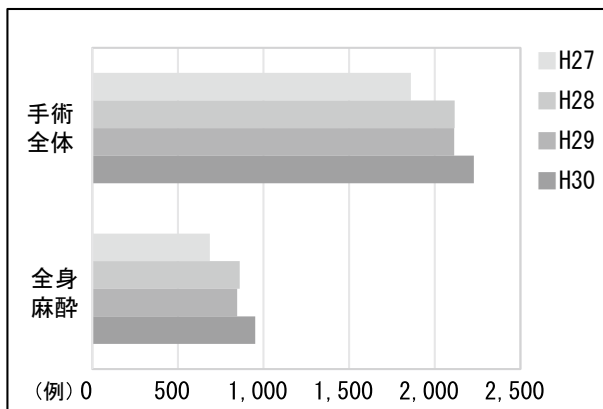
安全かつ最適な麻酔がモットーです。

麻酔科管理の手術症例数は、平成30年度は1,076例でした。当院で行われる手術の約半数（1日平均4.5例）の麻酔管理を行っています。平成29年度、30年度は広島大学からの応援により、患者さんが安全で快適に手術が受けられるように、日本麻酔科学会の安全基準に則って麻酔管理を行っています。

診療実績

年別全身麻酔症例数

	H27	H28	H29	H30
手術全体	1,860	2,116	2,113	2,228
全身麻酔	687	861	846	952



病理診断科

医師紹介

平成30年度在籍医師

教育研修部長・
臨床検査科（病理診断科）部長

中山 宏文 平成元年卒

Hirofumi Nakayama

病理診断（組織診断、細胞診、病理解剖）
臨床検査管理、脂肪肝（NAFLD/NASH）
医学教育

博士（医学）（広島大学）
厚生労働省死体解剖資格
厚生労働省医政局長臨床研修指導医
臨床研修協議会プログラム責任者養成講習会修了
病理専門医・病理専門医研修指導医
細胞診専門医・細胞診専門医教育研修指導医
臨床検査管理医
Reviewer Board Member of Japanese Journal of
Clinical Oncology
広島大学医学部臨床教授

診療内容

国際標準的な診断を、正確・迅速に
下しています。

患者さんから手術等で摘出された臓器を、目で見て評価し、顕微鏡標本を作製し観察したのち、臨床像を合わせて総合的に検討し、国際的に確立された診断規準に従って最終診断を下す病理組織診断が業務の中心です。また、病変から剥離した細胞および腫瘍を針で穿刺吸引し採取された細胞を顕微鏡で観察し診断する細胞診断を、細胞検査士資格を有する臨床検査技師と協力して行っています。不幸にしてお亡くなりになった患者さんの病理解剖も必要に応じておこない、主治医および関係した医療従事者で、症例検討会を年数回開催しています。分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬使用のためのコンパニオン診断も一部院内化しています。

当院病理診断科は、日本病理学会認定施設B（ただ平成20年4月1日から平成24年3月31日まで、病理解剖数不足のため平成24年4月1日以降は日本病理学会登録施設）、日本臨床細胞学会認定施設（平成16年4月1日認定）および日本臨床細胞学会教育研修施設（平成21年4月1日認定）です。新専門医制度下では、広島大学病理専門研

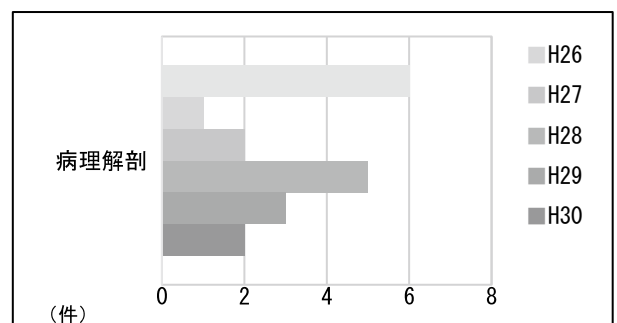
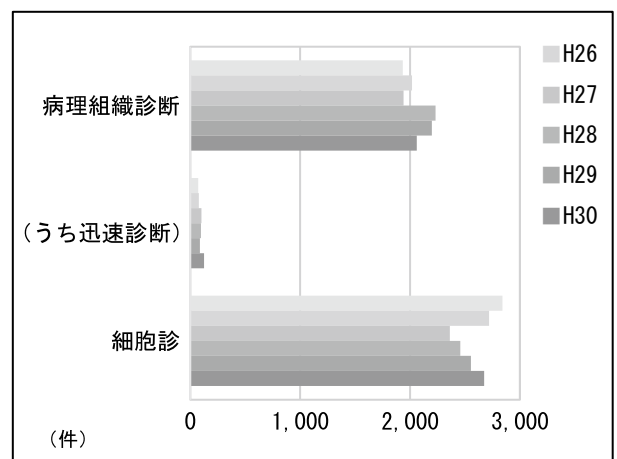
修プログラムの連携施設として、引き続き病理専門医育成に貢献しつづけます。

教育および研究にも携わっています。当科部長の中山は、広島大学医学部臨床教授の称号を付与されており、当院内で広島大学医学部医学科の5年生の臨床実習Iおよび6年生の臨床実習IIの一部を担当しています。市中病院における病理診断の実際を見学していただいています。また、各診療科の貴重症例の報告を支援し、自らも集積された症例の解析を行っており、病理形態学および病理疫学的研究を継続して行っています。

診療実績

各診療科医師の交代等の影響を受けるため、年によって多少異なりますが、過去5年については、以下の通りです。

	H26	H27	H28	H29	H30
病理組織診断	2,018	1,941	2,232	2,198	2,062
（うち迅速診断）	78	101	97	88	125
細胞診	2,720	2,363	2,457	2,554	2,674
病理解剖	1	2	5	3	2



健診センター

医師紹介

平成30年度在籍医師

健診センター部長

野村 秀一 昭和61年卒

Syuichi Nomura

医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本循環器学会認定日本循環器専門医
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
日本高血圧学会専門医・指導医
広島卒後臨床研修ネットワーク指導医
日本人間ドック学会認定医
人間ドック健診情報管理指導士

診療内容

“健診センター”部門が設立されて3年が経過しました。引き続きJR西日本社員および地域住民の健康管理に携わるとともに企業健診にも積極的に関わっていくことで地域貢献を担っていくことが当健診センターの目標であります。今までと同様に1日最大30名まで受け入れが可能となっています。医師は常勤医1名（野村）、非常勤医7名（豊田、今川、竹林、占部、大成、宮本、山崎）で問診、結果説明を行いました。月曜日、木曜日、金曜日は3人体制、火曜日、水曜日は2人体制としました。

受診者数のアップのため以下の取り組みを行いました。

- 1) JR西日本社員でこれまで受診歴があり、今年度未受診の262名に人間ドック案内のダイレクトメールを10月に郵送しました。このうち165名（63%）が受診しています。
- 2) 平成31年度に向けて新規企業との契約の締結を行いました。
- 3) 尾長フェスタに参加し、人間ドック・がん検診の案内チラシの配布、よろず健康相談を行いました。またこの際“人間ドックを受けに行こう！”と題したパンフレットを作成し、当健診センターで早期に見つかった癌の症例などを呈示しました。

開設二年目の平成29年度の受診者数は一日人間ドックが1,572名（男性1,182名、女性390名）、生活習慣病予防健診が1,184名（男性647

名、女性537名）、定期健康診が2,100名（男性920名、女性1,180名）でしたが、平成30年度の受診者数は一日人間ドックが2,201名（男性1,689名、女性512名）、生活習慣病予防健診が1,527名（男性856名、女性671名）、定期健康診が2,265名（男性1,030名、女性1,235名）で順調に増加しています。

JR西日本では、11月から当院または大阪鉄道病院で人間ドックを受診する場合、新幹線特急券などの交通費は会社負担となりました。このことが当院の受診者増加の一因となっています。大阪府、兵庫県などの遠方からの受診者が増えています。

健診受診者の増加に伴い、受診者アンケートにおいて待ち時間が長いという意見が出てきました。そこで受付開始から検査終了までの各検査の待ち時間を調査しました。超音波検査の待ち時間は54分と最も長い結果でした。待ち時間短縮の対策として8時から8時30分のみであった受付時間を超音波検査の時間に応じて8時から10時30分と変更しました。また超音波検査の稼働率を上げるため超音波専門のコーディネーターを配置し、連続して超音波検査が実施できるようにしました。これらの取り組みにより、超音波検査の待ち時間は5分へと短縮され、検査の稼働率も77%から94.8%と改善しました。業務改善の取り組みとして眼科用の電子カルテの“クライオ”に眼底写真を取り込めるようにシステムの改修を実施しました。このことにより眼科医師および看護師の業務負担を減らすことができるようになりました。またインカムを導入し、スタッフ間の情報の共有を図り、職員の動線を短縮することができました。

今年度から新たに二つのオプションを取り入れました。一つはsmall dense LDLです。超悪玉コレステロールと呼ばれており、冠動脈の危険因子の一つとされています。

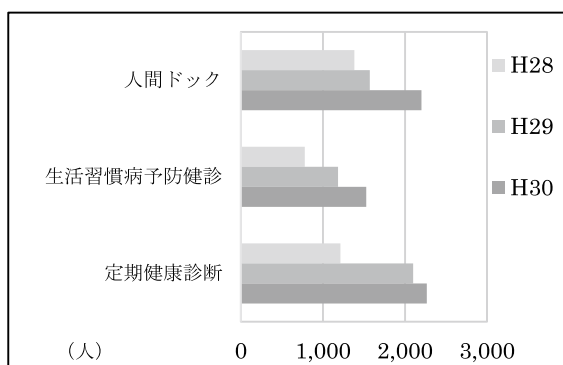
もう一つはLOX-indexです。酸化変性LDLとそれに結合して動脈硬化を進行させるLOX-1という2つの物質を測定しています。LOX-indexは脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価する指標です。これらの検査を行うことにより早期に動脈硬化のリスクをとらえることができます。

現在、平成31年度から特定保健指導開始を目指して、研修準備中です。また健診案内のパンフレットを作成している最中です。受診者が安心して健診を受けられるようにさらなる改善を図っていく所存です。

診療実績

1. 受診者数

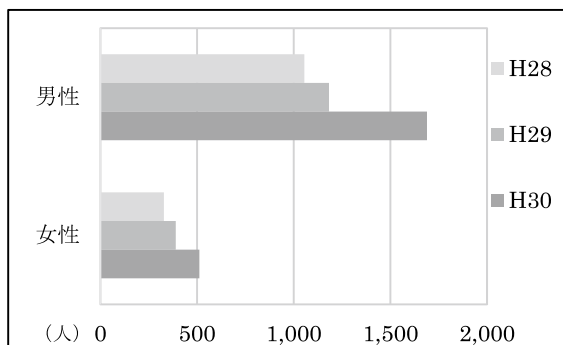
	H28	H29	H30
人間ドック	1,383	1,572	2,201
生活習慣病予防健診	779	1,184	1,527
定期健康診断	1,213	2,100	2,265
計	3,375	4,856	5,993



2. 受診者数内訳 (種別・性別別)

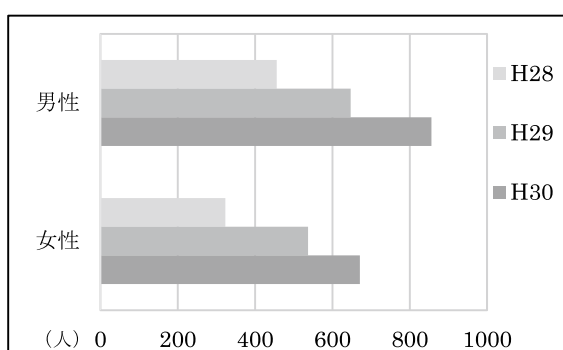
(1) 人間ドック

	H28	H29	H30
男性	1,055	1,182	1,689
女性	328	390	512



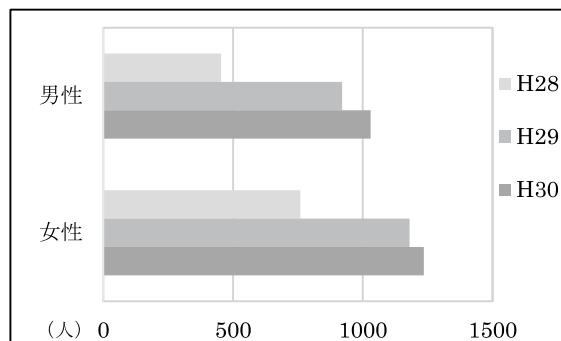
(2) 生活習慣病予防健診

	H28	H29	H30
男性	456	647	856
女性	323	537	671

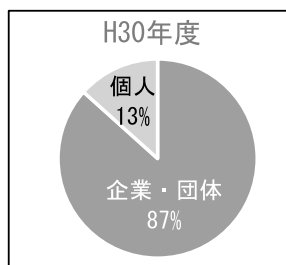
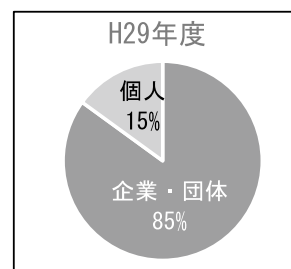
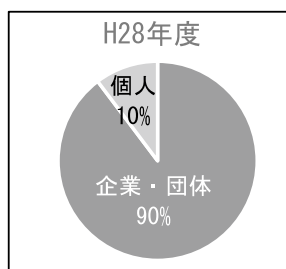


(3) 定期検診

	H28	H29	H30
男性	454	920	1,030
女性	759	1,180	1,235

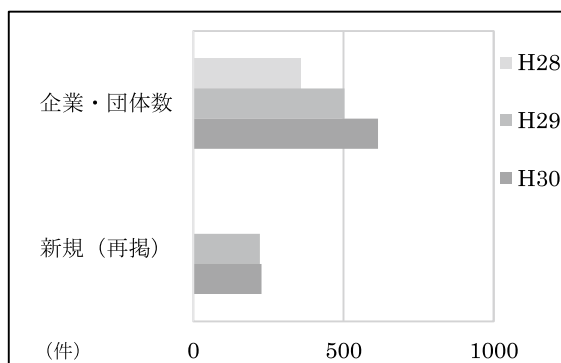


3. 申込みの割合



4. 企業・団体数

	H28	H29	H30
企業・団体数	359	503	615
新規(再掲)	-	222	227



歯科

診療内容

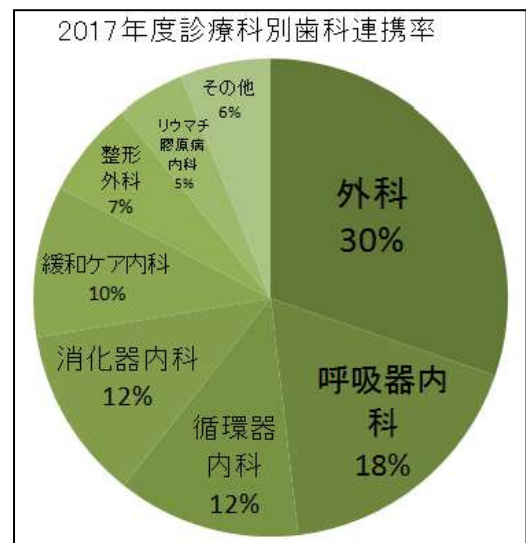
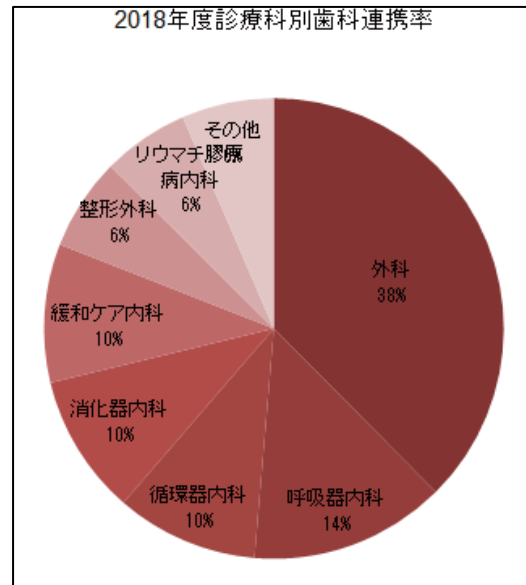
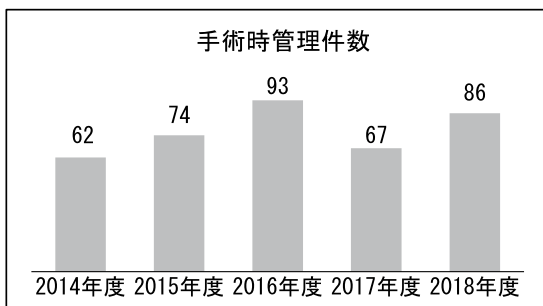
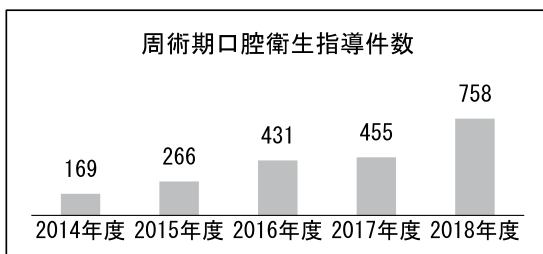
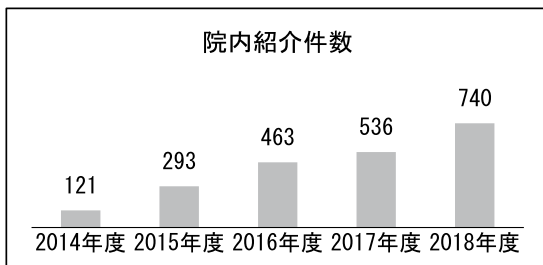
歯科は、月曜日、水曜日、金曜日に広島大学病院からの派遣医師7名が交代で診療を行っています。一般外来診療は行わず、入院患者さんもしくは抗がん剤治療中の外来患者さんの診療を行っています。

入院患者さんの口腔ケアやカリエス治療、義歯治療、抜歯などの一般治療はもちろん、周術期口腔機能管理に特に力を入れています。

周術期口腔管理とは、がんなどの全身疾患の治療を担当する医師と歯科医師が連携をとることにより、手術を行う場合のお口のトラブルや術後の誤嚥性肺炎の発症を抑えたり、化学療法や放射線治療を行う場合のお口のトラブルの予防や治療を行ったりすることで、がんなどの治療の支援を目指すものです。

また、緩和ケアを受けられている患者さんや、膠原病、リウマチなどの患者さんの口腔管理も積極的に行っています。

引き続き地域の皆さまのお役に立てるよう取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



化学療法センター

診療内容

確実・安全・安楽な治療を提供できるようつとめます。

化学療法センターは、悪性腫瘍あるいは特定疾患に対し、化学療法を受ける患者さん専用の治療スペースです。平成28年1月18日の新築移転後より、院内の化学療法はすべてセンターで行うようになりました。スタッフはセンター長の医師：1名、専任薬剤師：2名、がん化学療法看護認定看護師：1名、看護師：4名で構成しております。センター内はベッド3床・リクライニング式ベッド7床、計10床を設け、患者さんの要望に応じたベッドで治療をうけていただいております。また、ご家族の待合スペースもあり、患者さん、ご家族ともにリラックスして治療がうけられるよう環境も整えております。あわせて、安全な治療が行われるよう看護師はすぐ側で患者さんを見守り支援しております。治療時間はもちろんですが、ご自宅にもどられた後も副作用などの電話相談を積極的に行っております。

患者さんのサポートは医師・薬剤師・看護師・その他多くの職種と連携を図りながら専門性を活かしたチームで行っています。



〈現在治療を行っている診療科〉2019年9月現在

診療科	人数
・ 外科	29
・ 消化器内科	14
・ 呼吸器内科	10
・ 泌尿器科	12
・ 婦人科	1
・ リウマチ膠原病科	20
・ 整形外科	1

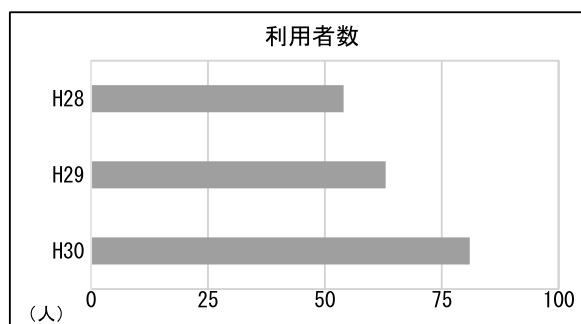
〈疾患別〉※一部抜粋

胃がん、大腸がん、膵臓がん、肝内胆管がん
肺がん、膀胱がん、前立腺がん、子宮頸がん
子宮内膜がん、卵巣がん、関節リウマチ
強直性脊椎炎 など

診療実績

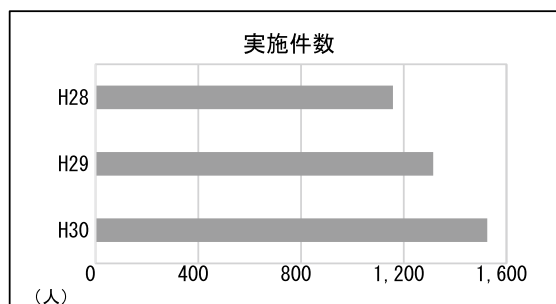
1. 化学療法センター利用者数

	H28	H29	H30
利用者数	54	63	81



2. 実施件数

	H28	H29	H30
実施件数	1,158	1,315	1,525



臨床検査科

医師紹介

平成30年度在籍医師

教育研修部長・
臨床検査科（病理診断科）部長

中山 宏文 平成元年卒

Hirofumi Nakayama

病理診断（組織診断、細胞診、病理解剖）

臨床検査管理、脂肪肝（NAFLD/NASH）

医学教育

博士（医学）（広島大学）

厚生労働省死体解剖資格

厚生労働省医政局長臨床研修指導医

臨床研修協議会プログラム責任者養成講習会修了

病理専門医・病理専門医研修指導医

細胞診専門医・細胞診専門医教育研修指導医

臨床検査管理医

Reviewer Board Member of Japanese Journal of
Clinical Oncology

広島大学医学部臨床教授

技師長よりごあいさつ

川西 なみ紀

Namiki kawanishi

修士（学術）

臨床検査技師

日本臨床細胞学会認定細胞検査士（JSC）

国際細胞学会認定細胞検査士（CMIAC）

認定心理士

高度化・複雑化した医療に貢献できるよう、資格や専門知識を持った20名の臨床検査技師が従事しています。患者さんの大切な検体や生体から、正確で精度の高い検査結果をご提供できるよう心がけています。また、地域の患者さんの検査もお受けしています。どうぞ宜しくお願いいたします。

運営方針と目標

1. 医療過誤のない迅速で正確な検査情報を提供する。
2. チーム医療に心がけ診療支援をおこなう。
3. 最新の専門的知識と技術を習得する。

目標達成のため、日々の業務に真摯に取り組んでいます。また、研修会に参加し、学会発表および論文投稿を積極的に行っています。

診療内容

国際標準的な診断を、
正確・迅速に下しています。

ご来院いただいた患者さんの診断と治療、病態把握に必要な臨床検査結果を医師に提供する部署で、検体検査、生理検査、および病理診断支援の3部門からなります。

院内感染予防対策チーム（ICT）、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）、栄養サポートチーム（NST）など院内の他部門と密な連携を取り、安全で適切な医療の向上に努めています。毎日、精度管理用試料を測定（内部精度管理）し、日本臨床衛生検査技師会、日本医師会、および広島県医師会などの精度管理（外部精度管理）に参加し、検査精度向上を目的として、努力しています。

また、「標準化され、かつ精度が十分保障されていると評価できる施設」として日臨技精度保証施設に登録されています。

1. 検体検査部門

患者さんから採取された検体（血液、尿、便、穿刺液、喀痰、鼻汁等）を検査します。

生化および血清検査

血液中の血清を用いて、肝機能（AST、ALTなど）、脂質（LDL-C、HDL-Cなど）、腎機能検査（尿素窒素、クレアチニンなど）、抗体、腫瘍マーカー（PSA、CA19-9など）、及び各種ホルモンの値を測定します。

血液検査

血液中の赤血球数、白血球数、血小板数を測定し白血球分類などを行います。異常があれば顕微鏡で目視し所見を報告します。凝固線溶系検査も測定します。

輸血検査

輸血副作用のリスクが非常に少ない自己血輸血に積極的に取り組んでいます。血液（A、B、O、Rh）を確認するのみならず、さらに詳細な検査を行い（不規則抗体検査、交差適合

検査)を行い、安全な輸血療法に貢献しています。

一般検査

尿や便の中の細胞や物質を調べます。尿中の糖やたんぱく質を検査することにより糖尿病や腎機能の異常を知ることができます。膀胱がんの細胞が尿の中にでてくることがあります。便潜血反応は大腸がんをはじめ消化管がんのスクリーニングに有用です。

細菌検査

感染症の原因となる細菌を見つける同定検査と、どんな薬が効くのかを調べる薬剤感受性検査を行っています。同定検査は質量分析装置を使用し、精度の高い結果を迅速に報告しています。薬剤耐性菌の検出や抗酸菌の遺伝子検査も院内で実施しており感染症治療や院内感染対策に生かしています。

採血

看護師と協力して採血業務を行う、検体検査の窓口となる部門です。取り違い防止などのため、患者さんごとにバーコードラベルを発番させて検査過誤防止に取り組んでいます。痛みを伴う採血への患者さんの負担軽減のため、接遇の向上にも努めています。

2. 生理検査部門

心電図、肺機能検査（VC、FVC、精密、呼吸抵抗など）、脳波、トレッドミル運動負荷検査、超音波検査（消化器、循環器、血管、乳腺、関節など）、睡眠時無呼吸検査（簡易、精密）等を行っております。この他にも整形外科の手術中の神経伝導速度検査や循環器内科の心臓カテーテル検査も支援しています。また、健診センターでの検査も行っています。

3. 病理診断支援部門

細胞診分野では、日本臨床細胞学会の認定施設であり、婦人科、呼吸器、泌尿器、甲状腺、乳腺など院内で提出される全ての材料を取り扱い、細胞検査士がベットサイドまで出向き標本作製しています。材料によっては、液状検体細胞診や必要に応じてセルブロックを作製し、細胞からできる限りの情報をご提供できるよう努力しています。

病理組織分野では、生検材料から手術材料を取り扱っており、検体の取り違い防止を徹底するとともに、診断に適した標本作製、必要に応じて免疫染色、遺伝子検査を行っています。

当院臨床検査技師が所属する学会

日本臨床衛生検査技師会
広島県臨床検査技師会
日本交通医学会
日本臨床検査自動化学会
(2020年1月より名称変更：日本医療検査科学会)
日本臨床化学会
日本検査血液学会
日本輸血細胞治療学会
日本臨床微生物学会
日本感染症学会
日本環境感染学会
日本医用マススペクトル学会
日本化学療法学会
日本臨床細胞学会
広島県臨床細胞学会
日本超音波検査学会
日本超音波医学会
日本静脈経腸栄養学会
(2020年1月より名称変更：日本臨床栄養代謝学会)
心エコー図学会
日本不整脈心電学会
日本心血管インターベンション治療学会

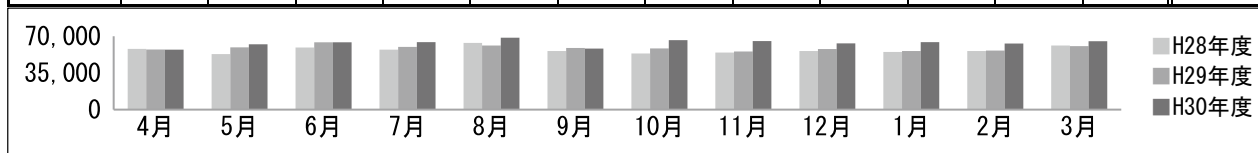
取得資格

認定血液検査技師
認定一般検査技師
認定心電検査技師
認定臨床微生物検査技師
感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）
超音波検査士（循環器領域）（腹部）（健診）
国際細胞検査士（CMIAC）（CTIAC）
細胞検査士（CT）
二級臨床検査士（臨床化学）
二級臨床検査士（免疫血清）
二級臨床検査士（血液）
二級臨床検査士（微生物）
緊急臨床検査士
心血管インターベンション技師
医用質量分析認定士
NST専門療法士

各種検査の実績

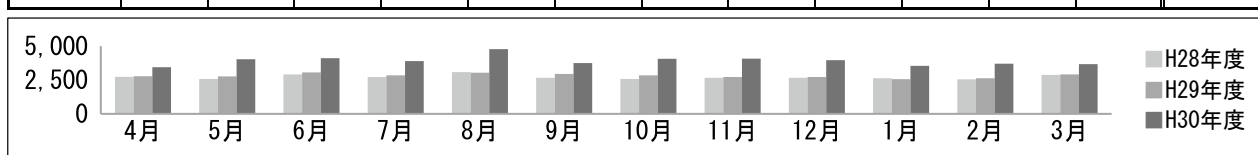
【生化学・免疫】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	58,063	53,066	59,240	57,330	63,629	56,015	53,667	54,442	55,942	55,113	55,901	61,174	683,582
H29年度	57,445	59,399	64,305	59,888	61,147	58,916	58,459	55,563	57,801	55,926	56,433	60,648	705,930
H30年度	57,312	62,316	64,214	64,416	68,668	58,333	66,317	65,482	63,217	64,484	63,142	65,347	763,248



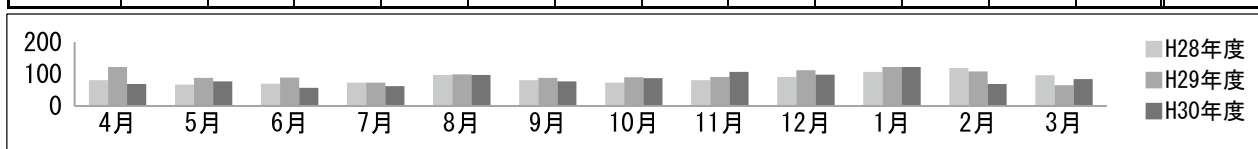
【糖関連検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	2,736	2,576	2,920	2,725	3,083	2,663	2,577	2,664	2,669	2,627	2,556	2,876	32,672
H29年度	2,780	2,768	3,065	2,852	3,038	2,946	2,846	2,728	2,727	2,569	2,630	2,920	33,869
H30年度	3,450	4,037	4,113	3,896	4,785	3,751	4,075	4,084	3,966	3,550	3,712	3,670	47,089



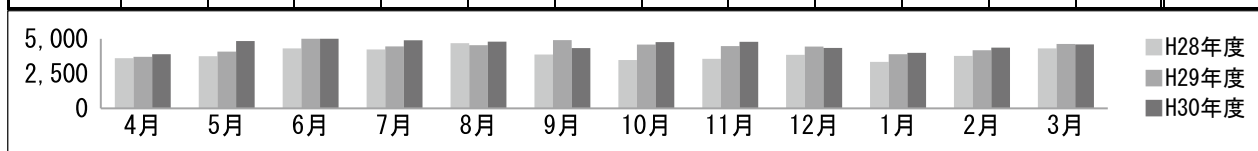
【血液ガス】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	81	67	70	73	97	81	73	81	91	107	119	96	1,036
H29年度	122	88	89	73	99	88	90	91	112	122	108	65	1,147
H30年度	69	77	57	62	97	77	87	107	98	122	69	84	1,006



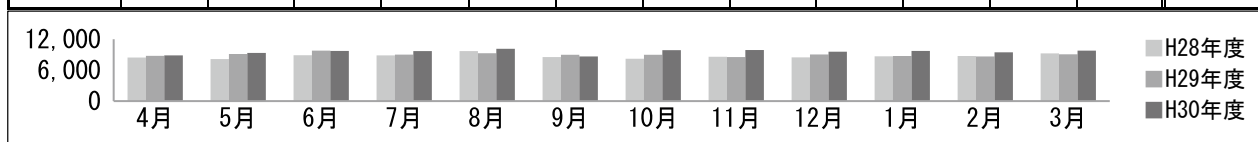
【一般検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	3,611	3,750	4,314	4,233	4,681	3,871	3,478	3,561	3,847	3,347	3,774	4,311	46,778
H29年度	3,710	4,076	5,051	4,449	4,546	4,902	4,584	4,477	4,447	3,893	4,182	4,636	52,953
H30年度	3,888	4,842	5,305	4,891	4,801	4,333	4,765	4,788	4,346	3,991	4,366	4,593	54,909



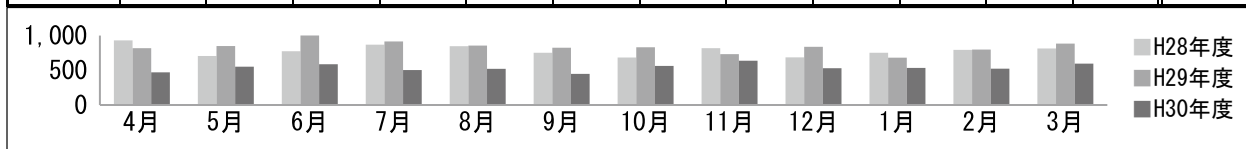
【血液・凝固検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	8,454	8,155	8,877	8,870	9,698	8,538	8,195	8,601	8,476	8,671	8,756	9,236	104,527
H29年度	8,762	9,135	9,785	9,018	9,273	8,980	8,987	8,542	9,053	8,739	8,648	9,073	107,995
H30年度	8,866	9,339	9,730	9,687	10,145	8,639	9,865	9,914	9,560	9,707	9,456	9,792	114,700



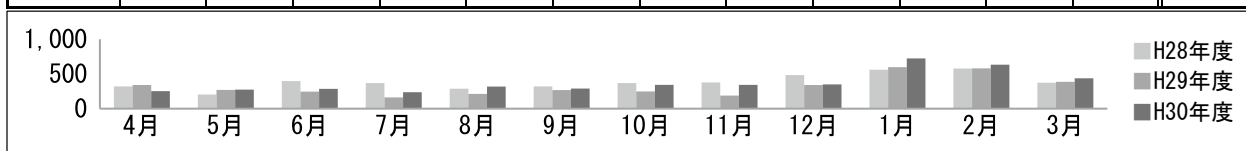
【輸血関連検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	931	707	774	869	848	753	684	818	687	754	795	815	9,435
H29年度	819	850	1,038	916	856	825	832	733	839	682	799	886	10,075
H30年度	472	553	587	505	522	450	564	638	531	534	523	597	6,476



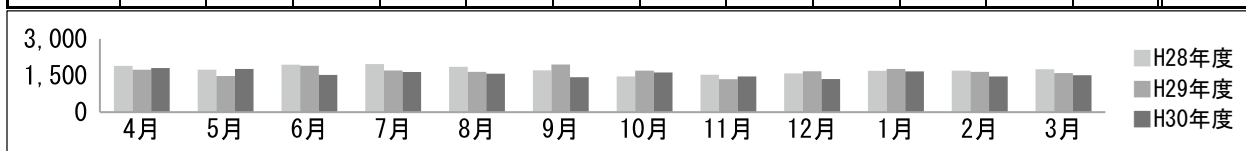
【簡易迅速検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	321	204	398	369	287	321	368	377	484	560	579	374	4,642
H29年度	340	269	245	162	213	268	247	188	341	597	580	387	3,837
H30年度	251	275	284	237	319	290	342	342	350	724	632	436	4,482



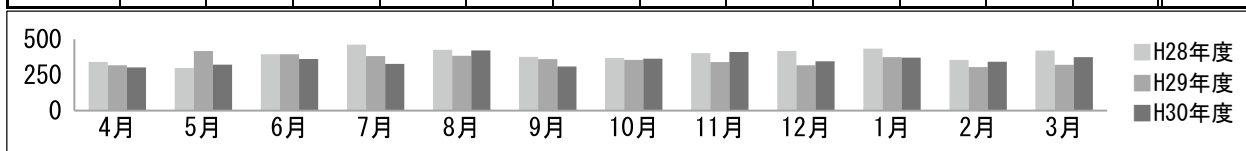
【外部委託検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	1,893	1,737	1,944	1,969	1,856	1,714	1,463	1,530	1,588	1,694	1,702	1,756	20,846
H29年度	1,735	1,480	1,903	1,705	1,651	1,948	1,701	1,352	1,672	1,770	1,652	1,600	20,169
H30年度	1,807	1,770	1,527	1,643	1,572	1,428	1,624	1,460	1,354	1,670	1,464	1,510	18,829



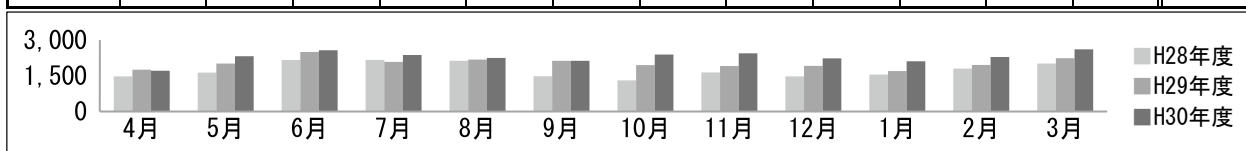
【細菌検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	341	298	394	462	426	376	369	402	417	434	355	420	4,694
H29年度	317	417	394	382	384	360	355	340	317	374	304	320	4,264
H30年度	302	322	361	327	421	309	363	411	345	371	342	374	4,248



【生理機能検査】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度	1,478	1,635	2,162	2,168	2,128	1,482	1,306	1,644	1,474	1,550	1,800	2,015	20,842
H29年度	1,761	2,017	2,503	2,084	2,183	2,129	1,952	1,915	1,921	1,702	1,957	2,237	24,361
H30年度	1,710	2,325	2,576	2,372	2,253	2,132	2,395	2,443	2,235	2,113	2,294	2,613	27,461



温熱療法室

医師紹介

平成30年度在籍医師

小野 栄治 昭和49年卒

Eiji Ono

日本ハイパーサーミア学会認定医
日本外科学会専門医
日本外科学会指導医
日本消化器外科学会・消化器がん外科治療認定医

診療内容

悪性腫瘍に対する温熱療法 (ハイパーサーミア)について

当院では、新病院においてハイパーサーミア治療室(温熱療法)を設置し、サーモトロンRF8を配備し悪性腫瘍に対する温熱療法を開始します。この治療は、癌など悪性腫瘍が正常組織に比べ熱に弱いという性質を利用し、サーモトロンRF8という装置を用いて、腫瘍組織を中心に局所の温度を選択的に42℃から44℃の高温状態を作り出すことにより、腫瘍を縮小させることを目的とした治療法です。

1. 対象となる疾患

脳など頭蓋内の領域を除く悪性腫瘍のうち、体中すべての悪性腫瘍が適応となります。手術や内視鏡治療等で治療が可能なものではそれらの治療を優先すべきですが、手術で切除できない進行がんや再発がん、体力的に手術を受けられない場合などが適応となります。抗がん剤などの化学療法や放射線治療との併用療法の有効性が高く、通院での治療も可能です。

2. 治療の原理

体の表面だけでなく、深部まで到達する8MHzの高周波を用いて、ターゲットとなる腫瘍の領域を選択的に加温します。正常組織は、加温されると組織内の血管が拡張し、血流量の増加が車のラジエーターのように作用し、組織の温度上昇を抑制しますが、腫瘍組織内の血管は拡張しにくい構造となっているために、組織内の温度が上昇し、結果として効率的な加温がされま

す。したがって、腫瘍部分が選択的に熱によるダメージを受けます。また、放射線治療や抗がん剤の治療中の組織では、この効果がさらに増幅されることが証明されています。また、温熱治療により免疫担当細胞が活性化され、腫瘍免疫の増強により、癌に対する抑制効果に繋がることも知られています。

診療実績

2016年1月25日に電磁波温熱療法の診療を開始して以来2019年3月31日までの3年2ヶ月の間に、269例の様々な悪性腫瘍の患者さんに対しての治療を行なっています。

その疾患別の症例数を表1に示しています。その内2018年度には63例の新規の患者さんに治療を施行しました。累積の症例数においては、結腸・直腸癌がもっとも多く、ついで膵癌、子宮・卵巣癌、肺癌、乳癌の順となっています。ほとんどの症例が、進行再発のがんで、遠隔転移や腹膜播種、骨転移、リンパ節転移などを有する状態の患者さんでした。また、疾患ごとの症例数の集計では、一般の各がんの比率とは少し異なり、膵がんや子宮・卵巣癌の患者さんが多いことひとつの特徴的な傾向となっています

2016年1月25日から2019年3月31日までの新規治療症例の疾患別患者数

()内は2018年度の症例数

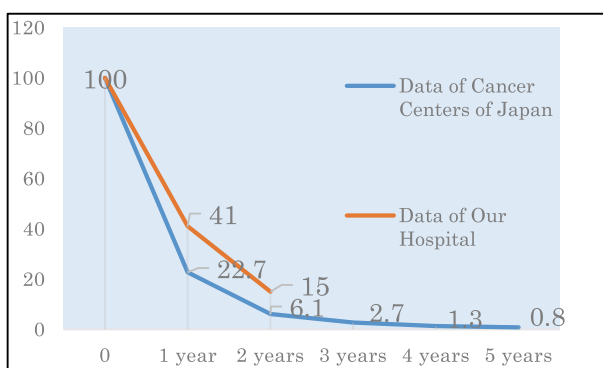
原疾患	症例数
頭頸部がん	15 (1)
食道がん	8 (1)
肺がん	34 (8)
乳がん	31 (8)
胃がん	21 (9)
結腸・直腸がん	60 (11)
膵がん	47 (9)
肝・胆道がん	14 (3)
子宮・卵巣がん	38 (8)
泌尿器系がん	12 (2)
その他	15 (3)
計	269 (63)

当科での治療成績の詳細な統計分析を行なうためには、症例数が十分とは言えない段階です

が、ステージⅣの膵がん症例のうち、5回以上の温熱療法が施行できた症例における2年までの生存率を全がん協の2010年での報告による同じステージⅣ（化学療法施行例）との比較では、下図に示される様に、当科の成績がやや上回っている結果でした。このことは電磁波温熱療法が一定の予後延長効果をあげていることを示していると考えられます。

今後、他の疾患についても様々な検討を行なう必要があると考えています。

ステージⅣの膵臓がん症例（温熱療法5回以上実施28例）における生存率と全がん協の生存率（2010年）との比較。



教育研修部

教育研修部について

教育研修部は、

1. 院内の教育研修環境の整備
2. 初期臨床研修医のプログラムの整備、指導状況の把握、およびリクルート活動などを目的に、病院の医療法人化と合わせて、2016年4月1日に開設されました。

スタッフは、教育研修部長の中山宏文1名（診療部臨床検査科部長兼務）と初期研修医です。初期研修医については、2018年度は4月時点で、総勢7名（総定員9名）在籍しました。内訳は、当院基幹型プログラムの1年次3名（定員4名）、同プログラムの2年次3名（定員3名）、そして広島大学病院の臨床研修プログラムB4（当院とのたすきがけ）の2年次1名（定員2名）です。2年次生のうちの1名は出産に伴い6ヶ月間研修を中断した1名で無事2018年9月末に修了し、他の2年次生3名（基幹型2名およびたすきがけ1名）は2019年3月末に無事研修を修了しました。

1.教育研修環境の整備

1) 部門横断的カンファレンスやセミナーの充実
従来から行われてきたCPCやキャンサーボードに加えて、医療安全管理室の専従看護師の田村恭子主任および室長である岡本有三診療部長のご支援で、死亡症例カンファレンスを開催しています。医師、看護師はじめ多職種にご参加いただいておりますが、さらに多くの職員の参加が望まれます。定期的で開催できるよう、さらに努力したいと考えています。研修医セミナーを月1回開催しており、好評です。今後は、週1回ぐらい頻繁に開催の方が教育的かもしれません。研修医による院内でのプレゼンテーションの機会が極めて少ないので、研修医が経験した症例の発表会を定期的（月一回程度）行いたいと考えています。

2) 教育研修のための機器の充実
シミュレーターの更新および新規購入を積極的

に進めつつありますが、充分ではありません。看護部、医療安全管理室はじめ多職種での研修を考慮し、充実させるよう努力する所存です。

3) 論文発表等の支援

部長中山は、日本交通医学会の学会誌である「交通医学」の編集委員であり、他欧文および「交通医学」をはじめとした和文雑誌の査読経験があります。日本交通医学会で発表された演題で上記学会誌へ投稿するよう推薦された発表の論文化を支援します。その他の活動についても、可能な範囲で支援（査読者とのやりとり、適切な指導者の推薦等）しています。

4) 院内学会「JR広島病院学会」（仮称）および院内誌「JR広島病院雑誌」（仮称）を目指して日本交通医学会中国四国地方会が、病院の法人化とともに解散しました。新たな院内に研究発表の場（院内学会「JR広島病院学会」（仮称））が必要と認識しています。また、その内容の論文としての発表の場として、院内誌「JR広島病院雑誌」（仮称）も同様に必要と思われる。新病院開院以来、院内の皆様にご相談し続けております。

2.初期臨床研修医のプログラムの整備、指導状況の把握、リクルート活動、修了後の進路

1) プログラム整備 — 救急研修の充実、産科研修の受け入れ等 —

当院は、市内の4病院（広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、および広島赤十字・原爆病院）と共に、基幹型臨床研修病院です。当院の臨床研修プログラムの協力型臨床研修病院は、県立広島病院（精神神経科）、臨床研修協力施設は、広島市東区の山崎病院（地域医療）、長崎県平戸市の平戸市民病院（地域医療）、広島市中区の翠清会梶川病院（脳神経内科、2019年度から協力型臨床研修病院）、安芸郡府中町の府中みくまり病院（精神神経科）、および広島市東区の広島がん高精度放射線治療センター(HIPRAC)等です。救急部門研修を補うた

め、豊富なwalk-inから多発外傷やCPAまで幅広い救急症例を多数経験できる高知県高知市の社会医療法人近森会近森病院（以下、近森病院）に2017年度より臨床研修協力施設として加わっていただき、希望者には近森病院のERにて1ヶ月間研修できる体制にしています。本年度は2年次生1名が研修しました。

2018年6月末日で分娩取り扱い休止となり、産科研修が院内で行えなくなったため、かつて当院に産婦人科部長として在籍された伊達健二郎先生および藤本英夫先生が産婦人科の長としてお勤めの広島赤十字・原爆病院および市立三次中央病院の産婦人科にお受けいただきました。両病院および両先生に深く感謝します。2018年度は臨床研修協力施設、2019年度より当院の協力型臨床研修病院として当院の臨床研修プログラムの病院群の一員として参加していただきます。

2) 指導状況の把握

厚生労働省の指針を研修医および指導医に手渡し、A項目、B項目、外科手術症例、CPCレポート、および特定の医療現場の経験（救急、地域医療、周産期、小児等）を研鑽するよう、相互に確認しながら進めています。双方の相談に乗っております。

研修医の評価は2018年度の1年次生より、事務部長の陣頭指揮の元、StandardEPOCを導入し、総務企画課田邊課員の尽力で順調に稼働しています。今後は、初期研修医と指導医間の双方向評価、医師以外のスタッフによる研修医評価を行うべく、体制を整備しつつあります。

3) リクルート活動

リクルート活動は、当院の研修医そして事務部の協力なくしては、行えません。研修医の先生と事務部総務企画課の課員の方々のご協力が無事参加することができました。

レジナビIN大阪（7月）、マイナビレジデントフェスティバル（4月）、およびレジナビIN福岡（3月）に参加した。多くの医学生がブースを訪問してくれ、説明に熱が入りました。

また、必修科目の診療科の先生方のご協力で、多くの医学生さんに当院を見学していただくことができました。その甲斐があり、2018年度の

マッチング（2019年4月採用予定者選考：研修医定員4名）では、3名とマッチし、残る1名を2次募集にて決定し、定員4名を充足することができました。

4) 研修修了後の進路

当院基幹型プログラムの2018年度内修了の研修医は3名でした。それぞれ、内科（広島大学病院専門医制度内科領域プログラム）、皮膚科（広島大学病院皮膚科研修プログラム）、そして病理診断科（地元の大学病院のプログラム）を専攻しています。

たすきがけプログラムの1名は整形外科（広島大学整形外科研修プログラム）を専攻し、当院にて後期研修を開始しました。

2008年度以降の修了者は以下の通りです。

（ ）内は人数

	総数	男性	女性	進路
2008年度	2	1	1	内科（1）、精神神経内科（1）
2009年度	4	3	1	内科（1）、精神神経内科（1）、総合診療（1）
2010年度	0	0	0	
2011年度	2	2	0	内科（1）、病理診断科（1）
2012年度	2	2	0	整形外科（1）、泌尿器科（1）
2013年度	0	0	0	
2014年度	2	2	0	内科（1）、泌尿器科（1）
2015年度	2	2	0	眼科（1）、病理診断科（1）
2016年度	0	0	0	
2017年度	1	0	1	病理診断科（1）
2018年度	3	0	3	内科（1）、皮膚科（1）、病理診断科（1）

看護部

看護部長よりごあいさつ

小河 喜代子
Kiyoko Ogawa

安心・安全な看護を、心をこめて提供いたします。

70有余年の歴史を有する当院の看護部は「私達は心をこめて安心と安全な看護を提供します」を看護部理念に掲げ、最新の医療の導入や患者さんが少しでも安心・快適に過ごせるような看護の提供を日々努力しております。

看護力を高めるためにも看護教育に力を注ぎ、新人教育においては厚生労働省ガイドラインに従った教育計画を採用し、個別性を考慮した教育を実践しています。また、専門性の向上については認定看護師を7名有し、患者さん対応や指導、スタッフ教育等にも注いでおり、看護の質の向上に取り組んでおります。

これからも「患者さんから選ばれる病院」を目指し、日々、努力を積み重ねてまいります。

看護部理念

私達は心をこめて安心と安全な看護を提供します

基本方針

1. 安全な医療・看護を提供します。
2. 患者さんサービスの向上に努めます。
3. 専門職として看護の質向上に努めます。
4. 地域医療への貢献に努めます。
5. 他職種との連携に努めます。

看護師を目指す方へ

1. 看護部教育理念

JR広島病院看護部は、看護職が専門職業人として能力の維持・向上を主体的に行うと共に地域医療に貢献できるよう、体系的な継続教育を行う。

- 概念に基づいた質の高い看護を提供できる看護師を育成する。
- 思いやる人間性と倫理観を育成する。
- 実践能力の維持・向上のため、自己研鑽を自主的に行える看護師を育成する。

2. 看護部教育体制

当院はクリニカルラダーを採用しています。クリニカルラダーとは、看護師の臨床実践における能力を段階的に表現したもので、当院では、新人とレベルⅠ～Ⅴまでを設定しております。新人は1年かけて研修を行い、問題なければ次年度はレベルⅠにアップします。他のレベルは、その研修期間で決められた研修を受講しレポート・研修態度などでレベルアップを評価していきます。

3. 看護部新人教育

(1) 新人年間目標

目的：専門職業人としての自覚を高め、看護師としての役割を認識する。

目標：組織の概要を知り、その一員としての役割を学ぶ。

(2) 新人教育体制

クリニカルコーチ、いわゆるプリセプターと、精神面を支えるサポーターで新人をサポートしています。また、各部署での教育担当や臨床場面での実地指導者がおります。看護技術も臨床に応じて、基礎から学び、一人ひとり技術の上達度を確認しながら、自立できるよう支援しています。

看護部教育責任者より

堀江 玲子 (副看護部長)
Reiko Horie

JR広島病院の理念のもと、地域に根ざし信頼される病院を目指し、良質で安全な看護を提供できるよう努めています。

地域連携、他職種との協働を図り、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

専門職として自律性を有し、看護師1人ひとりが、やりがいを持ち「看護が楽しい」と思える病院を目指しています。

臨床工学室

スタッフ

原 和信、脊戸川内 稔、濱田 祐己、
輪内 敬三、藪下 綾香、西海 真吾、
長久 拓矢、坂本 直樹

診療内容

医療機器管理

輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器を今年度末より中央化し臨床工学室やHCUに常駐。貸し出し機器については毎日ラウンドにて使用中点検も行い稼働中の機器トラブルなどの対応も行っています。また人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ・除細動器、AED等の定期点検をメーカーから技士へと変更し業務拡大と経費節減が可能となりました。



人工透析室

透析室における主な業務は透析液水質管理、プライミング（全自動）、穿刺（エコー下など）、機器保守点検、修理、定期消耗部品交換などであり透析中は患者管理と装置の監視業務を行っています。年度末に5床増床となり患者数も必然的に増加し1名の増員を行った。他の血液浄化法として透析センター内では腹水濾過濃縮再静注療法、病棟においてはエンドトキシン吸着、持続的血液濾過透析法（CHDF）などを透析外科医師の指示のもと行っています。



手術室

整形外科領域での自己血回収装置の操作、甲状腺腫瘍摘出術中の神経モニター、ペースメーカ植え込み術における閾値測定、また新たな業務で透析患者のシャント造設、腹膜透析チューブ造設術における前立ち業務も行っています。



温熱療法

腫瘍治療併用療法としてのハイパーサーミア装置の操作を行い、加温出力の調整や熱感時の対応、抗がん剤副作用の観察、機器メンテナンスなどを行っています。



ペースメーカー外来

ペースメーカー挿入患者の6ヶ月フォローを週1回行い装置が正常に作動しているか、危険な不整脈はないか、電池電圧は正常範囲内をキープできるかなどをチェックしています。

心カテ室

透析外科医師によるバスキュラーアクセス拡張術（PTA）の前立ち業務を新たな業務に取り入れました。



業務実績

H30 年度

部署	業務種類	症例数	
医療機器管理	人工呼吸器使用前点検	75 台	
温熱療法室	ハイパーサーミア	100 名	1,128 例
手術室	自己血回収術		38 例
	ペースメーカー	Implant	23 例
		電池交換	1 例
	外科NIM		26 例
外来	ペースメーカー	clinic	195 例
透析室	HD		5,193 例
	I-HDF		744 例
	O-HDF		2,978 例
	ECUM		58 例
	G-CAP		9 例
			計
病棟	CART	9 名	25 例
	PMX	4 名	6 例
	CHDF	6 名	11 日

薬剤部

薬剤部長よりごあいさつ

岡本 知子

Tomoko Okamoto

私たち薬剤師は、医薬品の専門家として他の医療スタッフと連携をとり、安全で有効な薬物療法を提供するよう心がけています。調剤や特殊な薬剤の調製、医薬品情報の収集と提供、患者さんへの説明（薬剤管理指導）、薬剤の供給、品質管理などの業務を行い、医療安全の面からも医療に貢献しています。

私たちの目標は「薬あるところ、薬剤師あり」です。

業務内容

調剤

1. 内服・外用調剤業務

電子カルテと連動した調剤支援システムを導入し、薬袋印字機、散薬監査システム、散薬自動分包機、錠剤自動分包機等を使用し正確な調剤を行っています。また、薬剤師の視点で処方内容をチェックし、薬の種類・用法用量・重複投与・飲み合わせなど疑問点があれば医師に確認します。外来は特殊な薬剤等を除き原則院外処方箋を発行しています。「かかりつけ薬局」をお持ちになり、「お薬手帳を」携帯されることをお勧めしています。

※「かかりつけ薬局」とは

複数の病院などで発行された処方箋を全て一つの保険薬局にお持ち頂き薬を受け取ります。重複がないか、飲み合わせは大丈夫かなどのチェックを病院間でも行うことができます。

2. 注射薬調剤業務

注射処方箋に基づき、入院患者さんの注射薬を患者さんごとに取り揃えています。電子カルテより投与履歴、既往歴、臨床検査値等を参照しきめ細やかな処方チェックを行っています。高カロリー輸液ならびに抗がん剤は細菌汚染を防ぐ目的でクリーンベンチや安全キャビネットを使用し無菌的に調製しています。また、抗がん剤については、治療効果と安全性を確保するため投与量・投与期間・休薬期間・投与順序・併用薬剤などの確認を行っています。



3. 製剤業務

市販されていない医薬品で治療上必要のある薬品は、院内で審議した上で、製剤室で調製しています。また、調剤業務、診療業務の合理化のため病院独自の約束処方も調製しています。

4. 医薬品情報管理室

(DI 室 : Drug Information)

適正な薬物療法を行うのに必要な医薬品の情報を収集・管理・評価し、医師、薬剤師、看護師その他医療にかかわる人に提供していくことが、DI 室の仕事です。厚生労働省からの緊急安全性情報など緊急性の高い情報は、院内の掲示板やお知らせメールを使い即時伝達し、その他の情報も DI ニュースとして配信しています。

5. 薬剤管理指導業務

各病棟には担当薬剤師が配置され、入院中、安全で有効な薬物療法が行われるよう処方監査を行うとともに、患者さんのもとへ薬剤の説明に伺っています。入院時に持ち込まれたお薬(持参薬)や注射剤も含め、服用・使用されている全ての薬の内容を把握することで副作用の未然防止・早期発見に努めています。また、NST(栄養サポートチーム)や ICT(感染対策チーム)などにも薬剤師がメンバーとして参加し、チーム医療に貢献しています。

6. 治験業務

治験事務局、治験審査委員会(IRB)事務局として治験の運用をサポートしています。

治験とは：新しい薬が厚生労働省の承認を得て、広く一般の患者さんに使われるようになるには、その薬の効果と安全性を確認することが必要です。そのために行う試験を「臨床試験」といい、このうち厚生労働省から薬として承認を受けるために行う臨床試験のことを「治験」といいます。

【認定資格】

日病薬病院薬学認定薬剤師	4名
日本病院薬剤師会生涯研修認定	7名
実務実習指導薬剤師	2名
栄養サポートチーム専門療養士	2名
小児薬物療法認定薬剤師	1名
プライマリケア認定薬剤師	1名
腎臓病薬物療法単位履修修了薬剤師	1名

【薬剤部実績】

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	年間	月平均	年間	月平均	年間	月平均	年間	月平均	年間	月平均
外来院内処方箋 (枚)	5397	449	4690	391	3507	292	3354	280	3173	264
感慨処方箋 (枚)	64189	5349	65186	5432	65974	5498	67889	5657	67166	5597
院外処方箋発行率	92.2%		93.3%		95.0%		95.3%		95.5%	
入院処方箋 (枚)	25243	2104	26902	2242	29980	2498	28816	2401	30436	2536
注射処方箋 (枚)	75362	6280	75696	6308	76349	6362	76187	6349	75331	6278
抗癌剤調製件数 (件)	1117	93	871	73	1065	89	1205	100	1209	101
IVH調製件数 (件)	889	74	1168	97	671	56	1177	98	972	81
服薬指導件数 (件)	7334	611	5943	495	7407	617	7984	665	9187	766

栄養士室

栄養士よりごあいさつ

入院中のお食事は、治療の一環であると捉え栄養士室では医師、看護師などのスタッフと連携をとり、患者さんのご病気、症状に合わせた内容で、美味しく満足していただける食事の提供を心がけています。また安心して召し上がっていただくために食中毒予防など衛生面にも細心の注意をはらっております。食事の質の向上とサービスの改善を目指しアンケート調査も行い患者さんの声を反映させていただいております。

普通食の患者さんには週3回、朝食と昼食に2種類のメニューからお選び頂く選択メニューを実施しております。そして入院生活に変化と潤いをもっていただけるよう、ひなまつりや七夕などには行事食の提供も行っております。食欲が低下されている患者さんや、お食事が食べにくい患者さんのベッドサイドに管理栄養士がお伺いし、食べやすくなるよう食事の調整を行っています。糖尿病や心臓病、腎臓病、消化管術後などの患者さんやご家族さまに対して主治医からの依頼のもと栄養食事相談を実施しています。

集団教室として糖尿病教室は医師、薬剤師、看護師、理学療法士、臨床検査技師とともに開催しています。当院入院、外来患者さんに限らず地域の皆さまにも無料で参加頂けます。平成29年度よりホテルでの糖尿病食事会を開催し、参加された患者さんからはご好評の声を頂いております。

心臓病教室は月1回（原則第4木曜日）医師、薬剤師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、管理栄養士の各職種持ち回りで実施しております。

平成30年度より摂食・嚥下に関して介護予防教室を開始しております。

院内には様々な多職種から構成されるチームがあります。NST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）は、入院患者さんに最良の栄養療法を提案するために、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、リハビリ技士で構成された多職種チームです。主治医よ

り依頼頂いた患者さんに対して症例検討・回診を行っております。また、院内で栄養療法についての研修会を開催しています。一部、院外の医療施設の方もご参加頂いております。

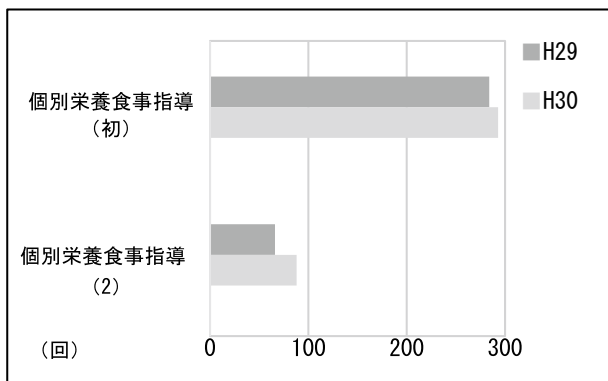


栄養指導は相談しやすい雰囲気を心がけています。

診療実績

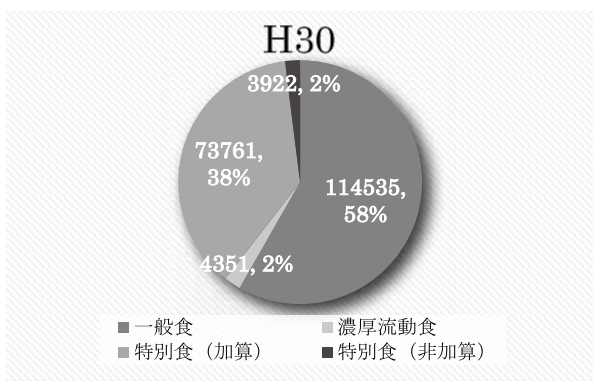
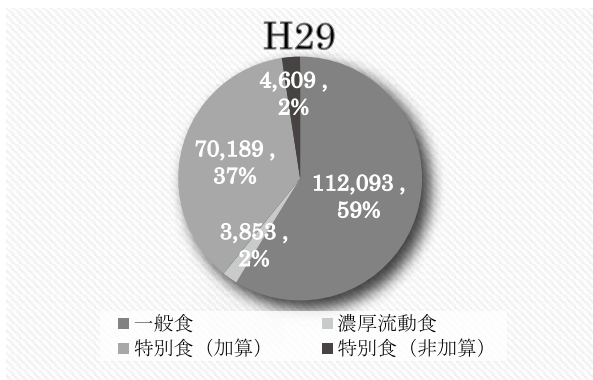
1. 個別栄養食事指導回数

	個別栄養食事指導(初)	個別栄養食事指導(2)
H29	284	66
H30	293	88



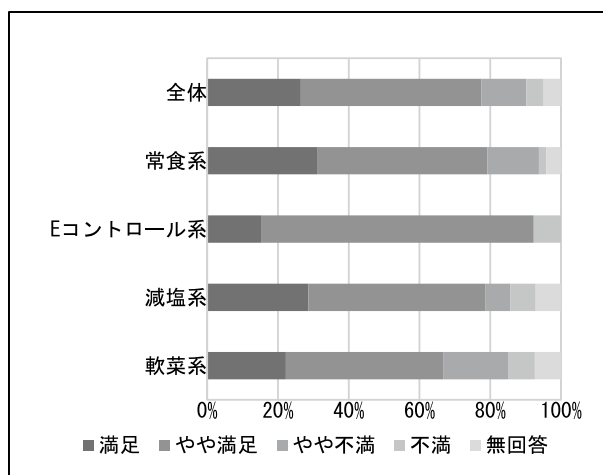
2. 種類別食数、割合

	一般食	濃厚流動食	特別食(加算)	特別食(非加算)
H29	112,093	3,853	70,189	4,609
H30	114,535	4,351	73,761	3,922

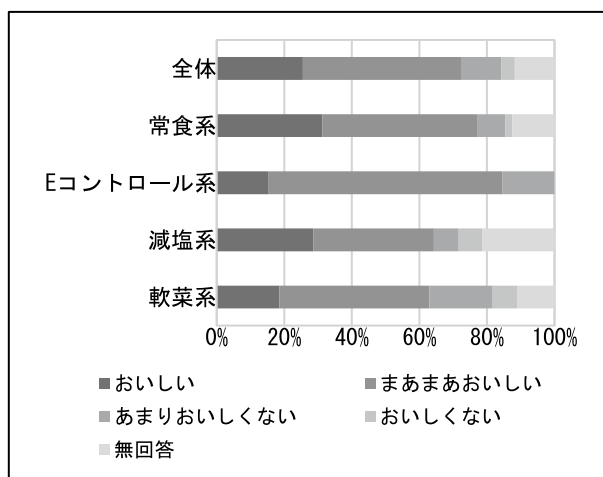


アンケート

・食事は全体的にいかがですか？



・食事の味付けはいかがですか？（おかず）



医療安全管理室

ごあいさつ

医療安全管理室室長・診療部長

岡本 有三 昭和57年卒

Yuzo Okamoto

消化器外科（肝胆道外科）、内視鏡外科

日本外科学会専門医

日本肝胆膵外科学会評議員

医師救急医療業務実地修練過程修了

医療安全管理者

田村 恭子（看護師主任）

Kyoko Tamura

当院では医師部門・薬剤部門・検査部門・看護師部門・事務部門よりチーム編成して、院内における医療安全管理を統括しています。医療安全管理室には専従看護師が1名配置されています。

医療安全に関わる委員会等と連携して病院の質の向上を目指し、医療安全確保のための活動を行い、多職種の連携による医療安全に関わる取り組みを推進しています。その内容は院内各部署から報告されたインシデントレポートに対し、週に1回行われるミーティングで事例発生内容を確認し、リスクマネージャー会や医療安全管理委員会で分析や対策等検討しています。また、患者相談窓口とも連携し、医療安全に取り組んでいます。

医療安全とは、患者と医療従事者を守るためのものであり、日々試行錯誤し活動を行っています。医療事故予防のため院内で起きた事例や、日本医療機能評価機構等の事例に対する防止対策として、毎月医療事故予防newsを発行し職員全体に報告し医療安全に対する意識を高めています。

医療安全研修会

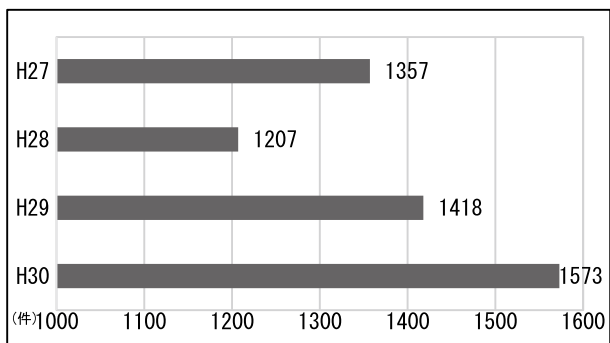
開催日	テーマ	参加人数
H30. 5.23 5.25	医療用ポンプの正しい使い方	71名
7. 2 7. 4	医療安全における記録の重要性	447名
7.23	輸血療法について	54名
8.28	(臨時) 離床センサー操作マニュアル	40名
9.28	基本的な蘇生法 AEDの実施	76名
11.26 11.29 11.30	医薬品の安全情報について	424名
H31. 1.15	(臨時) 人工呼吸器の操作方法	28名
3. 4	第11回医療事故予防報告会	104名

主な活動内容

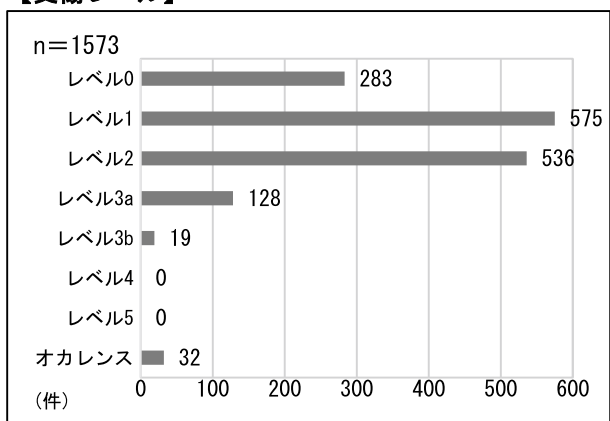
- インシデントレポート事例報告を集計し院内報告（4月）
- 転倒転落調査報告（8月）
- 注射施行時のバーコード認証の実施状況確認と評価（6月、1月）
- 配薬カート運用基準を作成し実施状況の確認と評価（3月）
- 医薬品安全使用推進ラウンド（11回）
- 医療事故予防newsの発行（毎月・臨時）
- 医療安全対策地域連携加算 相互チェック（9月、10月、12月）
- 新人職員研修会（1回）、看護補助者研修会（1回）
雇用時研修会（9回）
- 医療安全推進週間活動（12月3日～12月9日）
テーマ「転倒予防」
患者、家族に向けた転倒予防研修会『転倒を起こす可能性がある薬剤・転倒予防体操』（4回）
- チェック項目に沿った転倒予防ラウンド（10回）

インシデント・アクシデント報告

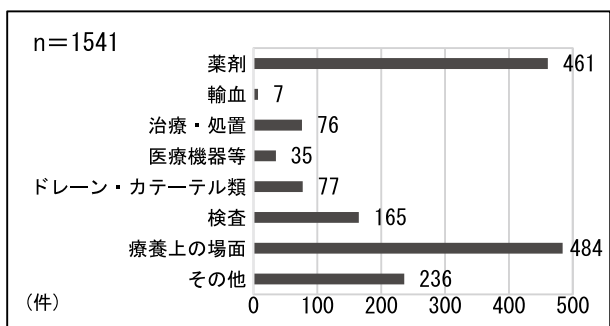
【報告件数 年間推移】



【受傷レベル】



【事例内容】



感染症対策室

ごあいさつ

感染症対策室室長・副院長

三重野 寛 昭和55年卒

Hiroshi Mieno

消化器管、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

日本消化器病学会専門医

日本消化器内視鏡学会認定医

日本内科学会指導医

広島大学医学部臨床教授

感染症対策室副室長

新田 由美子 (看護師長)

Yumiko Nitta

日本看護協会感染管理認定看護師

概要

これまでは医療安全管理室の感染症対策部門として活動していましたが、2018年に感染症対策室が新設されました。感染症対策室は医療を受ける患者さんはもちろん、院内で働く全ての職員の安全と安心のために、医療関連感染症対策活動の充実に努めています。

1. 特色

- 専任医師 (ICD) 2名、専従看護師 (感染管理認定看護師) 1名、専任薬剤師3名、専任臨床検査技師 (感染制御認定臨床微生物検査技師) 1名により感染症対策チーム (ICT) と抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を設置し活動しています。
- 感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算に基づき、地域の病院と連携しています。
- 地域の感染症対策を推進する目的で広島市東区感染管理ネットワークを立ち上げて活動しています。

2. 業務内容

- 院内感染対策マニュアルの作成・改訂
- 感染症発生の動向調査・把握、アウトブレイク対応

- 環境ラウンド等により感染対策の実施状況の確認、指導
- 感染症・感染対策に関する情報提供・教育
- 院内外からのコンサルテーション
- 抗菌薬適正使用の推進
- 職業感染対策 (ワクチン接種、結核対策、針刺し防止対策等)
- ファシリティー・マネジメント

活動実績

院内だけでなく地域における感染対策推進のための活動を行っています。

1. 業務実績

①院内

- 院内感染対策マニュアル改訂 (2018年10月、2019年3月)
- ICTラウンド (93回)
- ASTラウンド (43回)、介入38例
- 清掃評価 (12回)
- ICT・ASTニュース発行 (7回)
- 職員、関連企業に対するインフルエンザワクチン接種
- 職員に対するB型肝炎、麻しん、風しん、水痘、ムンプス抗体価確認、ワクチン接種
- 針刺し、血液曝露発生時の対応、予防策の推進 (血液分注器導入)
- サーベイランス (菌検出状況、中心静脈カテーテル関連血流感染、尿道留置カテーテル関連尿路感染、呼吸器関連肺炎、手術部位感染、抗菌薬使用状況、血液培養提出状況)
- 手指衛生の啓発: アルコール手指消毒剤使用量チェック (毎月)、手指衛生直接観察 (2回)、手指衛生キャンペーン (2019年6月 川柳大会開催、2018年11月 5つのタイミング唱和、2019年1月 手洗いチェック)
- インフルエンザ感染予防リーフレット作成配布 (外来患者、入院予定患者)
- 「食中毒予防」、「インフルエンザ対策」、「咳エチケット」ポスター作成掲示

②地域

- 感染防止対策加算に基づくカンファレンス4回
- 感染防止対策地域連携加算に基づく相互ラウンドチェックの実施
- 連携施設、高齢者施設等からのコンサルテ

ション (月1~2件)

- ・ 広島市東区感染管理ネットワーク事務局活動、世話人会開催 (2回)
- ・ JR広島病院地域医療をすすめる会事務局活動

2. 教育活動の実績

①院内

- ・ 全職員への感染対策研修会の実施 (2回)

開催日	テーマ	参加者数
2018/11/26. 29. 30	薬剤耐性菌のメカニズム	424名
2019/2/4. 8. 14. 15	手洗いチェック	468名

- ・ 新規・中途採用者研修 (12回)
- ・ 看護助手研修 (1回)
- ・ 実習生に対する感染対策研修 (3回)
- ・ 看護師復職支援感染対策研修 (2回)

②地域

- ・ 広島市東区感染管理ネットワークセミナー (1回)
- ・ 高齢者施設等への感染対策研修 (3回)
- ・ JR広島病院地域医療をすすめる会感染対策研修 (1回)
- ・ 看護協会東支部研修 (1回)

事務部

平成30年度の出来事

平成30年度は法人化後3年目、病院運営としてはやっと落ちついてきたところですが、この1年を振り返ってみたいと思います。

1. 経営状況

平成30年度実績は、医業収支率 90.9%、医業収支△590,495千円でした。平成29年度実績に比べると医業収支率では1.6%、医業収支では82,320千円の改善。平成30年度計画に対しては医業収支率は△0.5%、医業収支で△51,054千円という状況でした。

収益は、入院診療収益、外来診療収益とも前年度実績並びに計画値を上まわる結果となりました。内訳として患者数は入院・外来とも前年度を上まわりほぼ計画通り、診療単価は診療報酬改訂の影響もあり前年度を上まわりました。また、保健予防活動収益では、JR西日本の利用促進施策の効果もあり人間ドックの利用者が大きく増え、それに伴いオプションも増加し単価も伸びました。

一方費用は、高額な抗がん剤の使用が増え、医薬品費が前年度実績及び計画に対し大きく増えました。給与費は定期昇給分のほか、離職率の改善等による支給人員の増加も増額の要因となりました。設備関係費では、想定外で血管連続撮影装置の管球交換が必要となり多額な修繕費が必要となりました。経費については節減に努めましたが、原油価格の高騰による燃料調整単価の上昇により光熱費が増えることとなりました。

結果、様々な取り組み・努力により収益は増えましたが費用も増え、経営状況としては前述のように前年度より改善をしましたが計画には若干届きませんでした。

2. 主な取り組み事項

平成30年度も、病院運営のために各部署協力の下、病院をあげて様々な取り組みを行ってきました。その一部を紹介します。

○「良質で安全な医療の追求」

・医療機器の中央管理化と機器保守の内製化

臨床工学技士を増員するとともに、臨床工学技士部門の協力・努力により、人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ等重要機器を中央管理化した他、これまで外注していた一部機器の保守を臨床工学技士による保守管理としました。

・医療従事者のキャリア支援

一定の条件のもと、各部署の裁量により学会・研修への参加や資格取得のための支援ができる制度の新設をしました。

○「組織力の向上」

・職員主体の改善活動

院内の諸課題に対して職員が主体となって取り組む「院内改善プロジェクト活動」を実施しました。色々な職種が参加し、病院全体の課題に取り組む5つの拡大ワーキングと、各部門・職場が中心となって取り組む19に及ぶ部署ワーキングが活動し、10月の中間報告を経て2月に成果報告会を行いました。中には、地域医療支援病院の要件となる逆紹介率の向上や入退院センターの設置につながるなど、目に見える成果を出したものもありますが、目に見える成果は出せなくても職員が主体となって各課題に取り組んだことに大きな意味があったと思います。

・時間年休の導入

職員の多様な働き方、生活スタイル、子育て等を支援するために、年次有給休暇が時間単位で取得できる制度を創設しました。

○「収益拡大に向けた取り組みの推進」

・地域連携の会の開催

地域の医療関係者の方と顔の見える良好な関係を築き、より良い地域医療連携を進めるために、法人化後初めてとなる地域連携の会を開催しました。当日は約130名の地域の医療関係者の方にご出席いただき、当院からもほぼ全員の医師が参加し、各診療科の紹介を行うなど地域の医療関係者の方と関係を深める盛大な会となりました。

・地域医療支援病院承認に向けた取り組み

地域医療支援病院承認のために必要な数値要件のうち、これまで未達成であった逆紹介率について、前述の院内改善プロジェクトの拡大ワーキングにおいて取り組んだ結果、平成30年度の数値においてすべての数値要件をクリアすることができました。そのほか必要な体制整備や規程類の整備を行い地域医療支援病院承認に向けた準備を進めました。

この他にも病院全職員協力の下、様々な取り組みが行われました。これらの取り組みを行うに当たり陰で支え或いは先頭に立って進めてくれた事務部職員に感謝いたします。

(事務部長 植木直富)

診療情報管理室

診療情報管理室室長

松古 富美子
Fumiko Matsufuru

平成 29 年 4 月に診療情報管理室が開設され 2 年が経過しました。病歴登録の整備、紙カルテの保存管理の整理、診療録記載マニュアルの改訂、診療録監査体制の整理、院内がん登録開始、全国がん登録提出と様々なことを経験し病院機能評価を受審しました。

平成 30 年は診療録管理の質の向上をめざして以下のことを実施しました。

① DPC コーディングに関して、今までは退院後に DPC と出来高差額が高額事例等に関して相談を受けるという関わりしかできていませんでした。平成 30 年度は退院時・転棟時・月末時にほぼ全例係わることができる運用体制に変更しました。これにより病名の適正な選択にタイムリーに関与できるようになりました。入院期間についても検証し医師へ提案することで、在院日数を検討し診療報酬が増収となった症例もありました。

② 4 月から開始したスキヤンの電子認証（タイムスタンプ）導入において、診療情報管理の立ち位置から積極的に関わり、運用を確立できました。紙文書を電子保存することは、診療録管理上適正なルールと運用が重要と考え、診療情報管理室が担当することにより中央スキヤン体制を構築することができました。日々の診療・医事会計事務等の流れの中でスキヤンの役割・運用が院内全体で標準化できたことは大きな成果だったと思います。

③ 平成 30 年（2018 年）から国立がん研究センターが全国集計データ提出医療機関をがん診療連携拠点病院・県推薦病院以外に任意参加施設の募集を開始しました。当院は 2016 年症例から提出要件を満たした登録を開始しており、広島県唯一の任意参加施設として 664 件提出しました。

全国がん登録提出も二年目の提出ができました。

④ 診療録の質の向上には診療録監査が有効と言われています。当院は医師・看護師・診療情報管理士の三部門が同じ記録を監査する方法です。監査結果は委員会で報告すると共に該当医師にも情報提供してきました。この方法は病院機能評価でも高く評価していただきました。平成 30 年度はその情報提供に対して、該当医師からコメントを返していただく事が出てきて、記録内容にも変化が見られるようになりました。診療録監査を継続することの効果と意義を実感できております。

診療情報管理士の役割は診療録の質の向上とそこから発生するデータの精度管理・活用と考えています。まだその基盤を固めている段階ですが、診療情報管理士のスキルアップと各職種のご協力により目的達成を目指していきたいと思っています。

松古：診療情報管理士
院内がん登録実務者指導者
院内がん登録実務者 中級者
垣田：診療情報管理士
院内がん登録実務者 初級者

タイムスタンプスキャン作業量

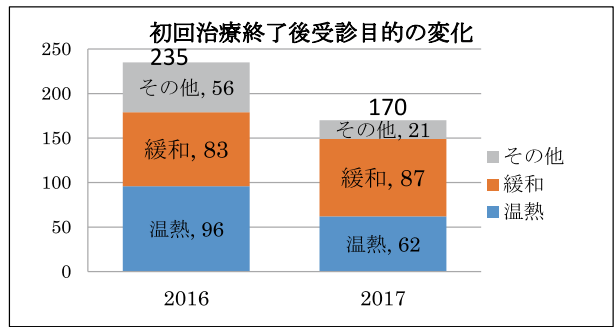
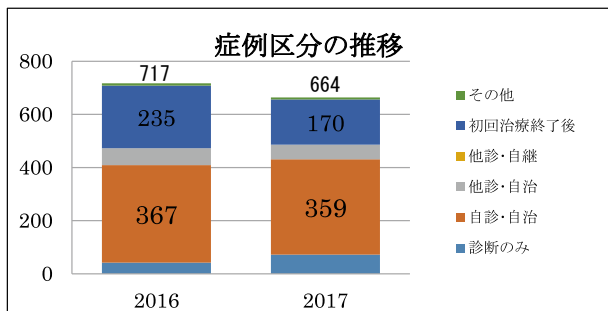
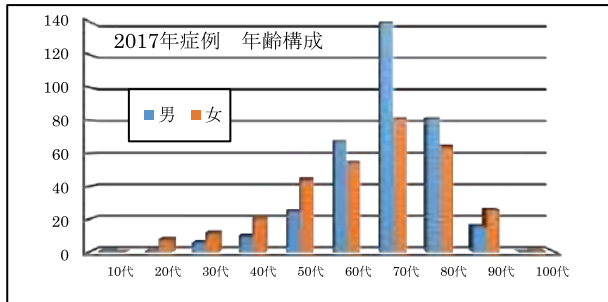
2018 年度

	日数	計	平均	各曜日平均				
				月	火	水	木	金
4月	20	9,250	462.5	491	481	386	428	527
5月	21	10,442	497.2	578	504	448	451	521
6月	21	10,212	486.3	606	501	412	482	443
7月	21	9,994	475.9	493	527	414	443	465
8月	23	10,275	446.7	473	487	407	460	420
9月	18	8,714	484.1	529	546	425	501	443
10月	22	10,756	488.9	551	506	450	471	497
11月	21	11,318	539.0	593	555	490	503	564
12月	19	9,870	519.5	515	557	507	457	560
1月	19	9,438	496.7	512	521	476	425	554
2月	19	9,632	506.9	539	491	487	466	550
3月	20	10,295	514.8	546	498	499	522	512
総数	244	120,196	492.6	536	515	450	467	505

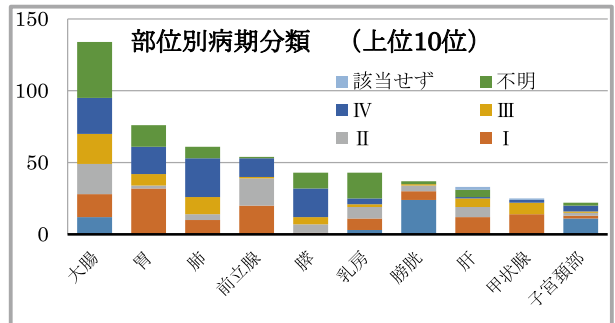
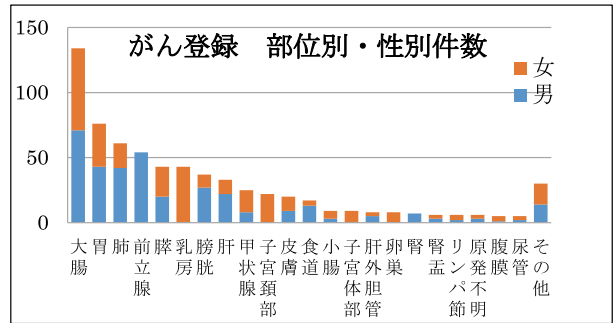
院内がん登録

院内がん登録標準登録様式（2016年版）に基づき登録を行った。1腫瘍1登録 入院・外来を問わず、自施設において、当該腫瘍について初診し、診断及び又は治療等の対象となった腫瘍が対象となる。

2017年症例 登録総数 664件（男349 女315）



当院の特徴の一つに初回治療終了後受診患者の割合が高く170件(26%)である。緩和が87件 温熱療法が62件であった。



地域医療連携室

ごあいさつ

地域医療連携室室長・副院長

三重野 寛 昭和55年卒

Hiroshi Mieno

消化器管、内視鏡診断・治療、IBS、GERD

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会認定医
日本内科学会指導医
広島大学医学部臨床教授

当院はこれまでも、地域の先生方からのご紹介は「断らない」をモットーに取り組んで参りました。施設等のハード面が充実したことと、当院の取り組み体制も整ったこととともない、これからますます地域の中核病院としての機能を発揮し、地域包括ケアシステムの実現を図ります。そのためにも、東区を中心とした地域の先生方とWin-Winの関係で手を携え、地域医療を支えていかねばなりません。先生方とのつなぎ役として、地域医療連携室へどしどしご相談いただければ幸いです。

地域医療連携室・副看護部長

竹井 里美

Satomi Takei

急性期医療として、

①大学病院などの基幹病院と機能分担・連携を図るポストアキュート機能
②東区の中核病院として二次救急として地域医療機関、在宅や介護施設からの緊急時受入を図るサブアキュート機能を担い、東区の急性期医療の『つなぐ』部門として活動しています。

また、地域の患者さんが安心して地域で生活できる総合的なサポート療養支援を行い、地域の医療・看護・介護の連携（在宅医療・介護連携）を図りながら「住み慣れた場所で最後まで自分らしく生きる」ための地域包括システムの構築に貢献していきたいと思っております。

地域医療連携室について

JR広島病院は、患者さんに安心と安全な医療を提供できるように、病診・病病連携を図り、東区の中核病院としての役割を果たしています。地域の「かかりつけ医」等との機能分担を図り、地域のための適切な医療を継続的に提供することで、「健康」の支援を地域とともに目指しています。日常の健康管理を「かかりつけ医」で行い、定期的な専門外来チェックや検査、入院医療が必要な時は「かかりつけ医」の先生方から紹介された患者さんを、責任をもって診療いたします。

地域医療連携室の取り組み

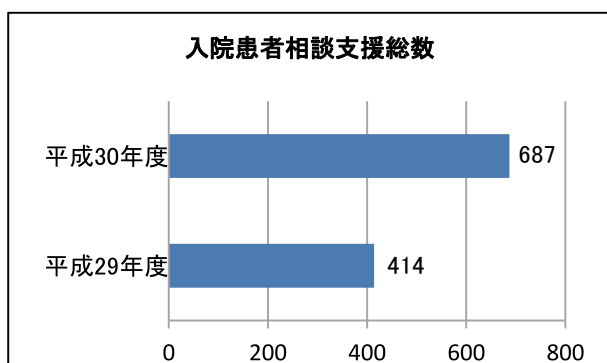
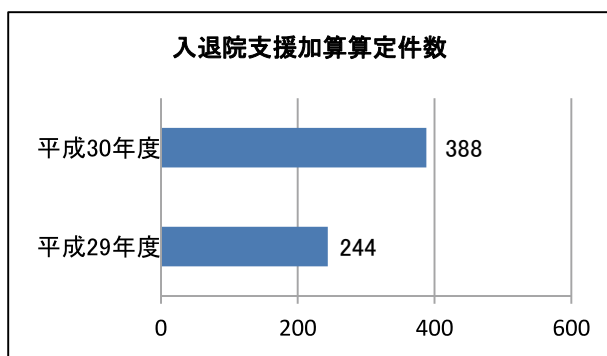
- 地域医療機関からの診療・検査予約受付
- 地域医療機関からの問い合わせ対応（情報交換・連携）
- 紹介元医療機関への来院・入院報告、返書管理
- 「地域包括ケア病棟」：在宅支援を対象の療養病床
- 院内外へ病院情報発信、健康管理などのご案内
- 地域医療機関との研修会「オープンカンファレンス」の開催・運営

退院支援部門

退院支援部門では住み慣れた地域で患者さんが安心して生活できるように退院調整看護師2名と医療ソーシャルワーカー3名が退院支援と医療・福祉相談を担当しております。

当院では入退院支援加算2をとっており、病棟、患者、家族、地域からの相談に対して担当者を決めて支援・退院に向けた調整を行っていました。しかし、もっと幅広い患者さんに対して退院後の生活を見据えた支援が早期から必要であると考え、平成30年度より退院支援担当者を各病棟担当制に変更しました。それにより幅広い患者さんに対して支援・調整が行えるようになり支援数も増えました。

今後は質的向上に向けて看護師・医療ソーシャルワーカーそれぞれの役割を發揮しながら地域の関係機関の皆様と「顔の見える連携」をモットーに切れ目のない支援に取り組んでいきます。また、地域の関係機関の皆様から気軽に退院支援部門に相談して頂き、入院中のみでなく外来から「つなぐ連携」を目指していきます。



MEDICAL CORPORATION
JR HIROSHIMA HOSPITAL

III

業績集

MEDICAL CORPORATION JR HIROSHIMA HOSPITAL

平成30年度

論文(総説, 原著, 症例報告, 短報等)

1. 内藤 美季, 鶴飼 麟三, 橋本 邦宏, 尿管ステント抜去により腎盂腎炎を繰り返した尿管坐骨孔ヘルニアの1例
Japanese Journal of Endourology 2018;31(2):277-280.
2. Yano M, Saito Y, Yoshida M, Oshiro T, Fukuda T, Ochi M, Okamoto Y, Ono E, Ohdan H. Usefulness of intraoperative neuromonitoring for preservation of an extralaryngeal bifurcation of the recurrent laryngeal nerve: A case report. International Journal of Surgery Case Reports 2018; 53: 330-332.
3. Saito Y, Okuda H, Yoshida M, Okimasa S, Fukuda T, Yano M, Ochi M, Okamoto Y, Nakayama H, Ono E, Ohdan H. Gallbladder metastasis of renal clear cell carcinoma 15 years after primary cancer excision: a case report. Journal of Medical Case Reports 2018; 12: 162.
4. 福田 敏勝, 齊藤 保文, 吉田 誠, 沖政 盛治, 矢野 将嗣, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治, 胆嚢結石を伴った総胆管結石に対する腹腔鏡下総胆管結石摘出術の導入 廣島医学, 2018; 71(3) : 219-222.
5. Hattori Y, Sentani K, Matsuoka N, Nakayama H, Hattori T, Kudo Y, Yasui W. Intramural florid cystic endosalpingiosis of the uterus after menopause. Pol J Pathol. 2018;69(3):321-324. doi: 10.5114/pjp.2018.79554. DOI: 10.5114/pjp.2018.79554 PMID: 30509061 [Indexed for MEDLINE]
6. Hattori Y, Sentani K, Matsuoka N, Nakayama H, Hattori T, Kudo Y, Yasui W. Quiz What is your diagnosis? Pol J Pathol. 2018;69(2):206. PMID: 30351870
7. 井瀨 真美, 安原 眞由美, 中村 聖, 清水 文明, 川西 なみ紀, 安武 美紀, 沖政 盛治, 中山 宏文. 穿刺吸引細胞診標本の再評価で多形脂肪芽細胞を指摘し得た胸壁原発多形型脂肪肉腫の1例. 広島県臨床細胞学会誌2018年;39巻:37-40.
8. Goto-Semba R, Fujii Y, Ueda T, Oshita C, Teragawa H. Increased frequency of angina attacks caused by switching a brand-name vasodilator to a generic vasodilator in patients with vasospastic angina: Two case reports. World J Cardiol 2018;10:15-20.
9. Teragawa H, Fukuda Y, Kihara Y. First, to understand the present situation!: Transcutaneous aortic valve implantation as a real global treatment for severe aortic stenosis. Eur J Prev Cardiol 2018;25: 839-841.
10. Teragawa H, Oshita C, Ueda T. Coronary spasm: It's common, but it's still unsolved. World J Cardiol 2018;10: 201-210.
11. Sato K, Takahashi J, Odaka Y, Suda A, Sueda S, Teragawa H, Ishii K, Kiyooka T, Hirayama A, Sumiyoshi T, Tanabe Y, Kimura K, Kaikita K, Ong P, Sechtem U, Camici PG, Kaski JC, Crea F, Beltrame J, Simokawa H. Clinical characteristics and long-term prognosis of contemporary patients with vasospastic angina. Int J Cardiol 2019;291: 13-18.
12. 寺川 宏樹, 藤井 雄一, 大下 千景, 上田 智広. Catheter-directed thrombolysis (CDT)にても血流改善が得られなかった深部静脈血栓症の1例. 心臓 2018;50: 816-819.

13. 寺川 宏樹. ミシュランに載せたいこの一店 (No45) 落ちついた空間で至福の時間を過ごせる中国料理の店. 広島市医師会だより4 2018;624:29-30.
14. 八島 菜摘, 岡本 知子. 病院薬剤師による疑義照会支援プロトコル導入とその効果. 交通医学2018;7:89-92.
15. 吉田 成人. 内視鏡室の紹介. JR広島病院, Gastroenterological Endoscopy 2019 ; 61 : 209-211.
16. 吉田 成人. 早期胃癌に対する狭帯域光併用拡大内視鏡観察と治療適応, 広島市医師会だより ; 632 : 5-9.
17. Wimmer G, Gadermayr M, Wolkersdörfer G, Kwitt R, Tamaki T, Tischendorf J, Häfner M, Yoshida S, Tanaka S, Merhof D, Uhl A. Quest for the best endoscopic imaging modality for computer-assisted colonic polyp staging. World J Gastroenterol. 2019;25:1197-1209.
18. Wimmer G, Gadermayr M, Kwitt R, Häfner M, Tamaki T, Yoshida S, Tanaka S, Merhof D, Uhl A. Training of polyp staging systems using mixed imaging modalities. Comput Biol Med. 2018; 102:251-259.
19. 中村 精吾, 村尾 保, 土井 一義, 藤岡 悠樹, 須賀 紀文, 佐々木 正修, 安達 伸生, 山崎 琢磨. 当院における大腿骨近位部骨折手術後の予後. 日本整形外科学会雑誌2019 ; 93巻3号 S1194.
20. 中村 精吾. 大腿骨近位部骨折手術後の移動能力調査. Hip Joint2018 ; 44 1 : 507-511.
21. 土井 一義, 村尾 保, 藤岡 悠樹, 佐々木 正修, 中村 精吾. 鎖骨偽関節手術後に生じた腕神経叢麻痺の1例. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌2018 ; 61 4 : 761-762.
22. 西塚 亨, 荒川 隆之, 寺岡 豊, 森中 千恵子, 吉原 統, 吉川 博, 高下 秀樹, 先森 満子, 松尾 裕彰. 病院機能別病棟薬剤業務に関する実施状況の調査. 広島県病院薬剤師会雑誌, 54(1):5-14 (2019) .
23. 片山 朋子. 医療現場における災害対策-平成30年7月豪雨災害の経験から-. 医療機器学2第740号, p53-.
24. 伊藤 正子. 看護部だけではダメ！多職種協働による重症度, 医療・看護必要度の精度向上を目指して～2度の改定を経ての教育的アクション. 看護人材育成2018 10・11月号, p24-.
25. 藤本 さつき. 宿泊型産後ケアサービスの取り組みと今後の課題. 現場で育まれた“知恵”と“技”で実践力を！臨床助産ケアスキルの強化. Vol 10 No 5, p25-.
26. 川西 なみ紀, 則松 良明, 入野 了士, シュアパス-LBC保存液を用いた免疫細胞化学染色の検討. 医学検査, 2018年7月 ; 67巻4号 Page519-523.

国際学会発表

1. Ueda T, Teragawa H, Fujii Y, Oshita C, Nomura S. Brachial stiffness beta-value is associated with vascular thickness and cardiovascular risk factors. European Society of Cardiology 2018, 26, Aug, 2018, Munich, Germany.
2. Teragawa H, Oshita C, Ueda T. How often do patients with vasospastic angina have intracoronary erosion and thrombus? -assessment using coronary angiography- American Heart Association 2018, 10, Nov, 2018, Chicago, USA.
3. Teragawa H, Oshita C, Ueda T. Medical history of gastroesophageal reflux disease in patients with suspected of coronary artery disease: What does it mean? American Heart Association 2018, 10, Nov, 2018, Chicago, USA.
4. Teragawa H, Oshita C, Ueda T. What are the characteristics of young women with vasospastic angina? American Heart Association 2018, 10, Nov, 2018, Chicago, USA.

5. Okamoto T, Koide T, Tamaki T, Raytchev B, Kaneda K, Yoshida S, Mieno H, and Tanaka S, “Feature Extraction of Colorectal Endoscopic Images for Computer-Aided Diagnosis with CNNT” , Proc. of the 2nd International Symposium on Devices, Circuits and Systems (ISDCS2019), 8719104, 2019.
6. Okamoto T, Koide T, Tamaki T, Raytchev B, Kaneda K, Yoshida S, Mieno H, Tanaka S, Toishi H, Sugawara T, Tsuji M, Odagawa M and Tamba N, “Implementation of Computer-Aided Diagnosis System on Customizable DSP Core for Colorectal Endoscopic Images with CNN Features and SVM,” Proceedings of the IEEE Region 10 Conference 2018 (TENCON2018), 1669-1672, 2018.
7. Okamoto T, Koide T, Tamaki T, Raytchev B, Kaneda K, Yoshida S, Mieno H and Tanaka S, “Investigation of Classification Method for NBI Colorectal Endoscopic Images with CNN layers and SVM,” Proceedings of the 3rd International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE2018), 130 -131, 2018.
8. Odagawa M, Okamoto T, Koide T, Toishi H, Sugawara T, Tsuji M, Tamba N, Tamaki T, Raytchev B, Kaneda K, Yoshida S, Mieno H and Tanaka S, “Image Identification System on Rapid Prototyping Platform with Customizable DSP Core for Biomedical Application,” Proceedings of the 3rd International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE2018), 132 -133, 2018.
9. Okamoto T, Koide T, Tamaki T, Raytchev B, Kaneda K, Yoshida S, Mieno H, Tanaka S, Odagawa M, Toishi H, Sugawara T, Tsuji M and Tamba N, “Implementation of Real-Time Computer-Aided Diagnosis System for Colorectal Endoscopic Video with CNN features and SVM identifier,” Proceedings of the 3rd International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE2018), 192-193, 2018.
10. Okamoto T, Koide T, Tamaki T, Raytchev B, Kaneda K, Yoshida S, Mieno H, Tanaka S, Sugihara T, Sugihara N, “Development of Endoscopic Video / Image Capturing Embedded System for Computer-Aided Diagnosis,” Proceedings of the 3rd International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE2018), 194-195, 2018.
11. 岡本 拓巳, 小出 哲士, 玉木 徹, Bisser Raytchev, 金田 和文, 吉田 成人, 三重野 寛, 田中 信治, 菅原 崇之, 戸石 浩司, 辻 雅之, 小田川 真之, 丹場 展雄, “大腸がん診断支援のためのカスタマイザブルDSPによる内視鏡動画リアルタイムCNN特徴抽出とSVM分類”.情報処理学会DAシンポジウム2018, 39 - 45, 2018.
12. Fujioka Y, Sasaki M. Hand weakness due to T1-2 intervertebral disc herniation 8th The European Association of Neurosurgical Societies Congress 2018/10/21-25, Brussels, Belgium.
13. Suga N, Nakasa T, Ishikawa M, Nakamae A, Adachi N. Characteristic morphology of proximal tibiofibular joint in discoid lateral meniscus 18th ESSKA Congress 2018/5/9-12 Glasgow, UK.
14. Suga N, Nakamae A, Ishikawa M, Nakasa T, Ochi M, Adachi N. Association between bone tunnel expansion and posterior instability after the reconstruction of posterior cruciate ligament APKASS & AOA 2018. 2018/5/31-6/2 Sydney, Australia.

国内全国学会発表

1. 安武 美紀, 餘家 浩樹, 稲田 順也.
気管支喘息患者とCOPD患者の生理学的検査の比較. 第67回日本アレルギー学会学術大会, 2018年6月22日, 幕張.
2. 安武 美紀, 餘家 浩樹, 稲田 順也.
当科における慢性咳嗽の原因と治療. 第58回日本呼吸器学会学術講演会, 2018年6月18日, 大阪市.

3. 内藤 美季, 鶴飼 麟三, 橋本 邦宏.
当科におけるRa223の初期治療成績. 第70回西日本泌尿器科学会総会, 2018年11月3日, 長崎市.
4. 橋本 邦宏, 内藤 美季, 鶴飼 麟三.
当科における経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術(En bloc TUR)の検討. 第32回日本泌尿器科内視鏡学会, 2018年11月28日, 仙台市.
5. 橋本 邦宏, 内藤 美季, 鶴飼 麟三.
尿管坐骨孔ヘルニアの1例. 第32回日本泌尿器科内視鏡学会, 2018年11月28日, 仙台市.
6. 矢野 将嗣, 吉田 誠, 大城 望史, 福田 敏勝, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治, 中山 宏文. 当院の甲状腺癌に対するリンパ節郭清の現状. 第112回広島癌治療研究会, 2018年9月22日, 広島市.
7. 矢野 将嗣, 齊藤 保文, 吉田 誠, 福田 敏勝, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治, 中山 宏文. 抗甲状腺剤内服治療中に肝機能障害をきたし手術をおこなったBasedow病の一例. 第30回日本内分泌外科学会総会, 2018年6月29日, 札幌市.
8. 矢野 将嗣, 吉田 誠, 大城 望史, 福田 敏勝, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治. 甲状腺手術後に頸部腫脹をきたした症例の検討. 第51回日本甲状腺外科学会学術集会, 2018年10月25日, 横浜市.
9. 矢野 将嗣, 吉田 誠, 大城 望史, 福田 敏勝, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治.
再発胃癌に対するnivolumabの使用経験 第19回二葉の里消化器病研究会. 2018年6月25日, 広島市.
10. 吉田 誠, 大城 望史, 吉田 誠, 矢野 将嗣, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治.
肛門外科の最前線. 第19回二葉の里消化器病研究, 2018年6月25日, 広島市.
11. 福田 敏勝, 吉田 誠, 大城 望史, 矢野 将嗣, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治.
総胆管結石症に対する腹腔鏡手術. 第19回二葉の里消化器病研究, 2018年6月25日, 広島市.
12. 福田 敏勝, 吉田 誠, 大城 望史, 矢野 将嗣, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治.
横行結腸間膜裂孔ヘルニアの一例. 16回日本ヘルニア学会学術集会, 2018年6月30日, 札幌市.
13. 福田 敏勝, 吉田 誠, 大城 望史, 矢野 将嗣, 越智 誠, 岡本 有三, 小野 栄治.
胆嚢結石併存総胆管結石に対する腹腔鏡下総胆管結石摘出術の治療成績. 第71回広島医学会総会, 2018年11月11日, 広島市.
14. 中山 宏文, 円山 英昭, 三重野 寛, 峠 誠司, 吉田 成人, 中尾 円, 安井 弥.
大腸traditional serrated adenoma (TSA) 周囲間質におけるCD34陽性血管外膜線維芽. 細胞分布および血管構築. 第107回日本病理学会総会, 6月, 札幌市.
15. 中山 宏文, 円山 英昭, 矢野 将嗣, 岡本 有三, 小野 栄治, 安井 弥. Re-evaluation of previous immunohistochemical study in thyroid nodular lesions by an automated immunostainer. 第64回日本病理学会秋期特別総会, 11月, 呉市.
16. 中山宏文. Vessel-derived muscular cushions at the peripheral zone of renal cell carcinomas(腎細胞癌辺縁における血管由来平滑筋クッションの存在). 第77回日本癌学会総会, 9月, 横浜市.
17. 中山宏文, 円山 英昭, 三重野 寛, 峠 誠司, 吉田 成人, 安井 弥.
大腸traditional serrated adenoma (TSA) の腺管周囲間質の構造. 第50回日本臨床分子形態学会総会・学術集会, 9月, 東京都.
18. 中山 宏文, 安原 眞由美, 川西 なみ紀, 清水 文明, 井瀨 真美, 中村 聖, 市木 敏夫, 鶴飼 麟三, 橋本 邦宏. 剖面擦過細胞診材料に核中心性大型核小体を有する異型細胞が多数採取された腎腫瘍. 第57回日本臨床細胞学会秋期大会, 11月, 横浜市.
19. 中山 宏文, 円山 英昭, 安井 弥. 腎細胞癌組織内の間質, 特に中膜を有する太さの血管外膜について. 第72回日本交通医学会総会, 6月, 大阪市.

20. 仙波 玲美, 橋本 邦宏, 鶴飼 麟三, 安原 眞由美, 中山 宏文. 膀胱癌にてウシ型弱毒結核菌注入療法中の患者に発症した肉芽腫性精巣上体炎の一例. 第72日本交通医学会総会、6月、大阪市.
21. 高原 由衣, 堀内 賢二, 中山 宏文. S2745 左前腕皮膚腫瘍. 第128回日本病理学会中国四国支部学術集会, 2019年2月, 愛媛県東温市.
22. 寺川 宏樹, 藤井 雄一, 大下 千景, 上田 智広. 遷延する胸部症状を有する冠攣縮性狭心症の臨床的特徴とは? 第115回日本内科学会総会, 2018年4月15日, 京都市.
23. 寺川 宏樹, 大下 千景, 藤井 雄一, 上田 智広, 神田 萌子, 本田 秋奈, 中村 友美, 小田 康子, 河村 道徳. 高血圧患者におけるアルコール摂取量の臓器障害に及ぼす影響-超音波を用いた評価. 日本超音波医学会第91回学術集会, 2018年6月9日, 神戸市.
24. 新田 祐土, 寺川 宏樹, 上田 智広, 大下 千景, 松崎 瑞希, 高木 光男, 鈴川 彩路, 政池 美穂, 西原 誠子, 森脇 順子, 小田 康子, 河村 道徳. 著明な筋力低下を呈した心不全患者に運動療法とBCAA・ビタミンD含有食品摂取の併用が有効であった一例. 第24回日本心臓リハビリテーション学会, 2018年7月15日, 横浜市.
25. 寺川 宏樹, 藤井 雄一, 大下 千景, 上田 智広. 労作時にも胸部症状を有する冠攣縮性狭心症患者の臨床的特徴とは? 第27回日本心臓血管インターベンション治療学会, 2018年8月2日, 神戸市.
26. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広. 冠攣縮誘発試験において誘発を開始する血管によりその結果が異なるか? 第66回日本心臓病学会, 2018年9月7日, 大阪市.
27. 上田 智広, 大下 千景, 寺川 宏樹. 冠攣縮性狭心症患者におけるびらんおよび血栓の頻度-冠動脈内視鏡による評価. 第32回日本心臓血管内視鏡学会, 2018年9月29日, 東京.
28. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広. 冠動脈疾患患者の臨床的背景-二つの血管機能検査(FMDおよびRHI-PAT)による評価-. 第59回日本脈管学会, 2018年10月26日, 広島市.
29. 大下 千景, 上田 智広, 中村 友美, 神田 萌子, 本田 秋奈, 小田 康子, 河村 道徳, 寺川 宏樹. オシロメトリック法を用いた血管の機能評価と形態評価. 第59回日本脈管学会, 2018年10月26日, 広島市.
30. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広, 甲斐 勇二, 阿津地 弘一, 井手野下 徹, 宇山 慎次. 左室駆出率が保たれた高齢心不全のおけるピロリン酸シンの陽性頻度第58回日本核医学学会学術総会, 2018年11月16日, 宜野湾市.
31. 大下 千景, 上田 智広, 寺川 宏樹. Prediction of coronary artery disease using brachial arterial volume elastic modulus by oscillometric method. 第83回日本循環器学会, 2019年3月29日, 横浜市.
32. Ueda T, Oshita C, Teragawa H. Brachial stiffness parameter β is different from CAVI in relation to coronary risk factors. 第83回日本循環器学会, 2019年3月29日, 横浜市.
33. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広. How does the volume of alcohol consumption influence organ damage in hypertensive patients?-Assessment using ultrasonographic parameters. 第83回日本循環器学会, 2019年3月29日, 横浜市.
34. Tanaka A, Taguchi I, Teragawa H, Ishizaka N, Kanzaki Y, Tomiyama H, Sata M, Ishizu T, Maemura K, Higashi Y, Ueda S, Yokote K, Murohara T, Oyama J, Node K. Effect of febuxostat on carotid intima-media thickness in asymptomatic hyperuricemia: A multicenter randomized clinical trial (PRIZE). 第83回日本循環器学会, 2019年3月30日, 横浜市.

35. Teragawa H, Oshita C, Ueda T. Is premature hysterectomy a risk factor for coronary artery disease?: Evaluation of the different types of coronary artery diseases. 第83回日本循環器学会, 2019年3月30日, 横浜市.
36. Teragawa H, Oshita C, Ueda T. Intracoronary erosion and thrombus in patients with vasospastic angina: An importance of taking calcium-channel blockers to prevent it. 第83回日本循環器学会, 2019年3月30日, 横浜市.
37. 吉田 成人, 三重野 寛. 消化管内視鏡診療の現況. 日本光学会年次学術講演会 Optics & Photonics Japan 2018, 2018年11月1日, 東京.
38. 佐々木 正修. 胸腰移行部の骨粗鬆症性新鮮椎体骨折に対し早期に介入した保存治療例の臨床成績. 第47回日本脊椎脊髄病学会, 2018年4月2-14日, 神戸市.
39. 佐々木 正修. 新鮮骨粗鬆症性椎体骨折の保存治療例における椎体後壁損傷と椎体圧壊進行の関係について-胸腰椎移行部の骨折を中心に-. 第20回日本骨粗鬆症学会, 2018年10月26-28日, 長崎市.
40. 藤岡 悠樹, 土井 一義, 須賀 紀文, 中村 精吾, 村尾 保, 佐々木 正修. Conjoined nerve rootを伴う腰部脊柱管狭窄症における3D MRI/CTフュージョン画像による手術計画. 第26回日本腰椎学会, 2018年10月26日, 浜松市.
41. 須賀 紀文, 中前 敦雄, 石川 正和, 中佐 智幸, 越智 光夫, 安達 伸生. 後十字靭帯再建術後の骨孔拡大と膝後方不安定性の関連について. 10th JOSKAS, 2018年6月14-16日, 福岡市.
42. 須賀 紀文, 中前 敦雄, 石川 正和, 中佐 智幸, 越智 光夫, 安達 伸生. 後十字靭帯再建術後の骨孔拡大と膝後方不安定性の関連について. 第33回日本整形外科学会基礎学術集会, 2018年10月11-13日, 奈良市.
43. 木谷 由希絵. 外陰部悪性黒色腫に対しメトロニダゾールゲルを使用した1例 日本産科婦人科学会学術講演会, 2018年4月11-15日, 名古屋市.
44. 木谷 由希絵. 閉経後乳癌に対しタモキシフェン投与中に子宮筋腫が増大した1例. 第33回日本女性医学会学術集会, 2018年11月3-4日, 岐阜市.
45. 沖政 盛治. アドバンスケアプランニングの必要性を痛感した1症例. 第1回日本緩和医療学会中国四国支部学術大会, 2018年9月8日, 松江市.
46. 沖政 盛治. 緩和医療・在宅医療で診られがちな四肢浮腫の落とし穴. 広島リンパ浮腫研究会主催 第4回広島地区リンパ浮腫医療者セミナー, 2018年12月2日, 広島市.
47. 森中 千恵子, 岡本 知子, 松本 麗永, 大野 敏子, 田中 朋美, 田中 昭子, 飯塚 聖子, 小野 栄治. 一般演題: 温熱療法に伴う発汗による環境への抗がん剤曝露調査. 日本ハイパーサーミア学会第35回, 2018年8月31日, 福井市.
48. 森中 千恵子, 岡本 知子, 松本 麗永, 大野 敏子, 田中 朋美, 田中 昭子, 飯塚 聖子, 矢野 将嗣, 小野 栄治. 一般演題: 温熱療法に伴う発汗による環境への抗がん剤曝露調査. 第56回日本癌治療学会学術大会 2018, 2018年10月20日, 横浜市.
49. 新田 由美子, 藤中 めぐみ, 桑原 隆一. 尿道カテーテル関連尿路感染低減への取り組み評価. 第34回日本環境感染学会, 2019年2月22, 2月23日, 神戸市.
50. 石原 有貴, 平田 ふき子, 山本 直明, 伊藤 万里, 山本 亜紀子, 吉田 誠, 大城 望史. 早期セルフケア確立と退院後生活支援を目的としたストーマ回診の取り組みと今後の課題. 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 2019年2月22日, 2月23日, 大阪市.
51. 園田 さおり, 中森 一司, 吉川 美幸, 政池 美穂, 鈴川 彩路, 森中 千恵子, 八島 菜摘, 滝口 友理子, 矢野 正嗣. 口腔アセスメントにOral Health Assessment Tool日本語版(OHAT-J)を導入した現状. 第34回日本静脈経腸栄養学会, 2019年2月15日, 東京都.
52. 土橋 彩加. A病院B病棟における在宅要介護高齢者の口腔ケアの実態調査, 平成30年度広島県看護協会東支部看護研究発表会. 2019年3月3日, 広島市.

53. 寺戸 茉莉花. 心臓カテーテルのオリエンテーションDVDによる効果, 第49回日本看護学会急性期看護, 2018年9月7日, 大分市.
54. 川口 瑠菜. 循環器患者に対する退院指導の方法, 第49回日本看護学会慢性期看護. 2018年9月27日, 静岡市.
55. 池本 沙穂. 緩和ケア病棟に勤務する看護師が考える宗教家によるケアの介入について. 第19回日本死の臨床研究会. 中国四国支部大会. 2018年5月13日, 徳山市.
56. 桑山 梨奈. 排液ドレーン抜去事故に対する看護師が抱える苦悩・困惑感とその対策の実態, 平成30年度交通医学会, 2018年6月3日, 大阪市.
57. 井黒 彩乃. A病院の使用する術前パンフレットの有用性. 第56回日本手術看護学会中国地区. 2018年6月23日, 広島市.
58. 藤井 貴允. 熊本地震における災害リハビリテーション支援を経験して. 第72回日本交通医学会総会, 2018年6月3日, 大阪市.
59. 藤井 貴允. 当院人工透析センターにおける運動療法の取り組み. 第9回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2019年3月10日, 別府市.
60. 新田 祐土. 著明な筋力低下を呈した心不全患者に運動療法とBCAA・ビタミンD含有食品摂取の併用が有効であった1例. 第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2018年7月15日, 横浜市.
61. 古川 涼香, 岡田 恵, 景本 紀子, 岡本 知子, 当院整形外科病棟における薬薬連携への取り組み. 第72回日本交通医学会総会, 2018年6月, 大阪市.
62. 河村 道徳, 野村 秀一, 滝口 友理子, 酒井 千亜妃, 川西 なみ紀, 桑原 隆一, 岡田 卓也, 黒島 眞太郎, 小林 秀行, 中山 宏文. 全自動尿中有形成分分析装置UF-5000における人間ドック受診者尿を用いた尿中有形成分の臨床参考基準値の検証. 第59回日本人間ドック学会学術大会, 2018年8月31日, 新潟.
63. 桑原 隆一, 稲田 順也, 安原 眞由美, 亀井 克彦. MALDI Biotyperによる同定が有用であった*Schizophyllum commune* (スエヒロタケ) によるアレルギー性気管支肺真菌症の1例. 第92回日本感染症学会学術講演会, 2018年5月31日, 岡山.
64. 桑原 隆一, 小濱 邦彦, 津田 真莉子, 池部 晃司, 池田 光泰, 前 かをり, 山本 高德, 清水 里美, 林 久美, 須々井 尚子, 堀江 亜古, 原 稔典, 檜山 誠也. 広島県下施設から依頼があった同定困難な株のMALDI Biotyping. 第30回日本臨床微生物学会学術集会, 2019年2月2日, 東京.
65. 黒島 眞太郎, 滝口 友理子, 岡田 卓也, 河村 道徳, 川西 なみ紀, 中山 宏文. 新病院移転を機に取り組んだ検体運用の見直しとTATの改善. 第50回日本臨床検査自動化学会, 2018年10月12日, 神戸市.
66. 戸政 達之. 当院における胃がんX線基準撮影法と従来法との画質比較評価. 第72回日本交通医学会総会発表, 2018年6月2日, 大阪市.
67. 上田 菜水. 腰椎CTの被ばく低減について. 第72回日本交通医学会総会発表, 2018年6月2日, 大阪市.
68. 溝口 知子, 岡田 卓也, 滝口 友理子, 黒島 眞太郎, 川西 なみ紀, 河村 道徳, 中山 宏文. 当院におけるUGT1A1遺伝子多型解析結果の検討. 第72回日本交通医学会総会発表, 2018年6月2日, 大阪市.
69. 中森 一司, 高木 光男, 園田 さおり, 鈴川 彩路, 政池 美穂, 森中 千恵子, 八島 菜摘, 滝口 友理子, 寺川 宏樹, 矢野 将嗣. 当院における心不全の栄養評価導入への取り組み. 第11回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会, 2018年8月18日, 呉市.

地方会

1. 松村 未来, 安武 美紀, 餘家 浩樹, 稲田 順也. 劇症型G群溶連菌敗血症で急死した1割検例. 第119回中国地方会, 2018年11月17日, 広島市.

2. 水野 麻紀, 堀内 賢二, 中山 宏文, 小野 栄治, 土井 歓子. 放射線照射と電磁波温熱療法を施行し有効であった鼻翼メルケル細胞癌の1例. 第142回日本皮膚科学会広島地方会, 2018年3月4日, 広島市.
3. 水野 麻紀, 堀内 賢二, 桑原 隆一, 中山 宏文. 新生児中毒性紅斑の1例. 第143回日本皮膚科学会広島地方会, 2018年9月2日, 広島市.
4. 高原 由衣, 藤井 雄一, 大下 千景, 上田 智広, 寺川 宏樹. 左室心筋緻密化障害により心不全および脳梗塞を来した一例. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2018年6月2日, 広島市.
5. 松村 未来, 上田 智広, 大下 千景, 藤井 雄一, 寺川 宏樹. 抗凝固療法により左室内ボール状血栓が合併症なく消失したうっ血性心不全の1症例. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2018年6月2日, 広島市.
6. 寺川 宏樹, 藤井 雄一, 大下 千景, 上田 智広. 胃食道逆流症の既往歴に注意！-冠動脈疾患病型との関連-. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2018年6月2日, 広島市.
7. 大下 千景, 藤井 雄一, 上田 智広, 寺川 宏樹, 本田 秋奈, 神田 萌子, 中村 友美, 小田 康子, 河村 道徳. オシロメトリック法を用いた新たな血管機能評価-従来指標との比較-. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2018年6月2日, 広島市.
8. 上田 智広, 大下 千景, 藤井 雄一, 寺川 宏樹. 上腕動脈のスティッフネスパラメーター β (β -value) は心血管リスクと関係するか?. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会, 2018年6月2日, 広島市.
9. 小田 康子, 大下 千景, 上田 智広, 中村 友美, 本田 秋奈, 神田 萌子, 河村 道徳, 寺川 宏樹. ステロイド投与中に多発左室内血栓を生じ, 抗凝固療法にて消失を確認した一例. 日本超音波医学会, 第54回中国地方会学術集会, 2018年9月1日, 広島市.
10. 大下 千景, 上田 智広, 中村 友美, 本田 秋奈, 神田 萌子, 小田 康子, 河村 道徳, 寺川 宏樹. 経胸壁心エコーで検出できなかった感染性心内膜炎の一例. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会, 2018年9月1日, 広島市.
11. 白根 聡, 上田 智広, 大下 千景, 寺川 宏樹. ニトログリセリン投与後の冠攣縮誘発試験にて診断がついた労作時に胸部症状を有する冠攣縮性狭心症の一例. 第25回日本心血管インターベンション治療学会中国・四国地方会, 2018年9月1日, 岡山市.
12. 高田 悠太朗, 上田 智広, 大下 千景, 寺川 宏樹. Catheter-directed thrombolysisにて最終的に順行性の血流がえられなかった深部静脈血栓症の一例. 第25回日本心血管インターベンション治療学会中国・四国地方会, 2018年9月1日, 岡山市.
13. 寺川 宏樹. 症例提示. 第12回日本心臓核医学会中国四国地区地域別教育研修会, 2018年9月22日, 松山市.
14. 高田 悠太朗, 大下 千景, 上田 智広, 寺川 宏樹. 子宮筋腫に対して子宮摘出後に発症した40歳代の冠攣縮性狭心症の一例. 第113回日本循環器学会中国地方会, 2018年12月1日, 松江市.
15. 木戸 佑基, 大下 千景, 上田 智広, 寺川 宏樹. Cushing症候群精査中に発症した深部静脈血栓症の一例. 第113回日本循環器学会中国地方会, 2018年12月1日, 松江市.
16. 白根 聡, 大下 千景, 内村 祐子, 上田 智広, 寺川 宏樹. 卵円孔開存により奇異性塞栓を合併した肺血栓塞栓症の一例. 第113回日本循環器学会中国地方会, 2018年12月1日, 松江市.
17. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広. 冠動脈疾患の家族歴により臨床的特徴が異なるか?-器質的冠動脈狭窄および冠攣縮性狭心症患者における検討-. 第113回日本循環器学会中国地方会, 2018年12月1日, 松江市.
18. 中森 一司, 園田 さおり, 新田 祐土, 政池 美穂, 鈴川 彩路, 矢野 将嗣, 上田 智広, 大下 千景, 寺川 宏樹. 心不全におけるMNA-SF, CONUT用いた栄養評価の取り組み. 日本心臓リハビリテーション学会第4回中国地方会, 2019年2月16日, 岡山市.

19. 土井 一義, 中村 精吾, 村尾 保, 藤岡 悠樹, 須賀 紀文, 佐々木 正修. 鎖骨偽関節手術後に生じた腕神経叢麻痺の1例. 第130回中部日本整形外科災害外科学会, 2018年4月20-21日, 松山市.
20. 藤岡 悠樹, 土井 一義, 須賀 紀文, 中村 精吾, 村尾 保, 佐々木 正修. 3D MRI/CT Fusion Imaging for Translaminar microdiscectomy Hiroshima Spine and Spinal Cord Seminar, 2018/10/7, Hiroshima.
21. 藤岡 悠樹, 土井 一義, 須賀 紀文, 中村 精吾, 村尾 保, 佐々木 正修. 経椎弓アプローチ腰椎椎間板ヘルニア摘出術における3D MRI/CTフュージョン画像による術前計画. 広島整形外科研究会, 2018年12月15日, 広島市.
22. 平田 ふき子, 山本 亜紀子, 吉田 誠. 当院でのストーマ回診の取り組み～在院日数の短縮に向けて～. 第32回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会, 2018年6月23日, 広島市.
23. 矢口 裕子. スライドカンファレンス 尿細胞診の1例. 第44回広島県臨床細胞学会学術集会, 2019年3月16日.
24. 岡田 卓也, 溝口 知子, 黒島 眞太郎, 滝口 友理子, 河野 淳子, 酒井 千亜紀, 河村 道徳, 川西 なみ紀. 当院受診が診断の契機となった形質細胞腫瘍症例の検討. 第51回中四国支部医学検査学会, 2018年11月25日, 香川.
25. 岡田 卓也. 平成30年度精度管理調査結果の評価・解説 フォトサーベイ血液. 第38回広島県臨床検査精度管理向上研修会, 2019年3月24日, 広島県医師会館.
4. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広. 頭痛・嘔吐で転院となりクッシング関連の疾患を疑って精査をした症例. 4病院の会, 2018年7月19日, 広島市.
5. 大下 千景, 上田 智広, 寺川 宏樹. 循環器内科における糖尿病治療戦略～GLP-1受容体作動薬を含めて～. 第28回広島心エコー研究会, 2018年7月21日, 広島市.
6. 寺川 宏樹, 上田 智広, 大下 千景. JR広島病院における脂質管理で悩んだ症例・印象に残った症例. Hiroshima Lipid Academy, 2018年7月23日, 広島市.
7. 寺川 宏樹. PCSK9阻害剤の投与を行った家族性高コレステロール血症を伴った労作兼安静時狭心症の一例. PCSK9Forum 2018 in Hiroshima, 2018年10月3日, 広島市.
8. 内村 祐子. 心不全を合併した心房細動の症例. 第8回二葉の里循環器地域セミナー, 2018年10月16日, 広島市.
9. 寺川 宏樹. 心不全の治療-当院での数年の振り返りより再考する. 第25回いしづち循環器勉強会, 2018年10月26日, 新居浜市.
10. 寺川 宏樹. 一次救命処置(BLS)一楽しく学びましょうー(～事業場における救急蘇生～). 救急蘇生講習会, 2018年11月7日, 広島市.
11. 大下 千景. DVT/PEに対するシングルドラッグアプローチでの治療経験. 第9回二葉の里循環器地域連携セミナー, 2018年11月19日, 広島市.
12. 寺川 宏樹, 大下 千景, 上田 智広. 冠攣縮性狭心症患者におけるびらんおよび血栓の頻度-冠動脈内視鏡による評価. 第25回中四国血管内視鏡研究会, 2019年1月19日, 松山市.

地域での社会活動

1. 堀内 賢二. 新-JR広島病院における保険診療とその留意点. 広島皮膚科医会例会, 2018年6月20日, 広島市.
2. 寺川 宏樹. JR広島病院における脂質管理の現状. 第7回二葉の里循環器地域連携セミナー, 2018年4月12日, 広島市.
3. 寺川 宏樹. Catheter-directed thrombolysis (CDT)の効果を血管内視鏡にて確認した深部静脈血栓症. 第24回中四国血管内視鏡研究会, 2018年6月23日, 松山市.
13. 寺川 宏樹. 心臓核医学を臨床に生かす～BMIPPを中心に～. 第43回南予循環器画像研究会, 2019年2月1日, 宇和島市.
14. 岡本 拓巳, 小田川 真之, 竹林 光治郎, 長野 幹央, 小出 哲士, 玉木 徹, Bisser Raytchev, 金田 和文, 吉田 成人, 三重野 寛, 田中 信治, 菅原 崇之, 戸石 浩司, 辻 雅之, 丹場 展雄. “機械学習による内視鏡動画像リアルタイム診断支援システムのプロトタイプング”. デザインガイア2018, 2018年12月5日, 広島.

15. 越智 誠. 透析患者のCKD-MBD～慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常について～. 第152回広島市東区薬剤師会勉強会, 2018年4月27日, 広島.
16. 越智 誠. 腹膜透析～かかりつけの先生と一緒に～. 第90回広島市東区医師会学術講演会, 2018年12月3日, 広島.
17. 伊達 秀二. 腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018について. 第2回造影剤の安全に関するセミナー～造影CT・MRI検査を安全に行うために～. 2019年3月9日, 広島市.
18. 久保 雅実. 消化器症状で発症した中年女性の一例. 第294回広島放射線診断カンファレンス, 2018年5月10日 広島市.
19. 久保 雅実. 不正性器出血を契機に発見された一例. 第299回広島放射線診断カンファレンス, 2018年7月12日 広島市.
20. 久保 雅実. 検診で発見された骨盤部腫瘍の一例. 第303回広島放射線診断カンファレンス, 2018年9月13日 広島市.
21. 久保 雅実. 後腹膜腔の解剖. 第303回広島放射線診断カンファレンス, 2018年9月13日, 広島市.
22. 伊達 秀二. 歩行困難, 頻尿の一例. 第308回広島放射線診断カンファレンス 2018年11月8日, 広島市.
23. 樺山 翔平. CTで偶然発見された腎尿路系疾患の一例. 第316回広島放射線診断カンファレンス. 2018年3月14日, 広島市.
24. 畝 知己. リウマチ診療ガイドラインとMTX PLSとPCPリスク管理～MTX投与チェックリストと薬薬連携～. 第2回リウマチまるわかりワクワクセミナー, 二葉の里薬薬連携の会, 2018年8月2日.
25. 畝 知己. 当院当院リウマチチームでのBio製剤導入における薬剤師の関わり. 第162回東区薬剤師会学術講演会, 2019年3月22日.
26. 新田 由美子. 職業感染対策. 白木の郷感染予防研修会, 2018年10月23日, 広島市.
27. 新田 由美子. 感染症対策. 寿老園・あけぼの寿老園感染予防研修会, 2018年11月1日, 広島市.
28. 新田 由美子. 感染対策の基本. 二葉の里薬薬連携研修会, 2018年11月8日, 広島市.
29. 新田 由美子. 感染管理～医療・介護における結核感染予防～. 広島県看護協会広島東支部組織強化研修会, 2018年12月8日, 広島市.
30. 新田 由美子. 職業感染予防を学び自分の健康を守ろう!. 第23回地域医療をすすめる会研修会, 2018年6月22日, 広島市.
31. 園田 さおり. とろみ調整食品の必要性と使用方法について. 第25回地域医療をすすめる会研修会, 2019年1月25日, 広島市.
32. 園田 さおり. 介護予防口腔講座, 講師 2018年9月12日「矢賀新町南組」, 2018年10月10日「東山ふれあいの街」, 2018年11月16日「真友会」, 広島市.
33. 園田 さおり. 施設内研修, 講師「摂食嚥下障害とは～食べる幸せいつまでも～」, 老人保健施設牛田バラ苑, 2019年2月8日, 広島市.
34. 平田 ふき子. 高齢者のスキンケア. 第24回地域医療をすすめる会研修会, 2018年10月26日, 広島市.
35. 平田 ふき子. 第29回中国ストーマリハビリテーション講習会 講師, 2018年10月12日～14日, 岡山市.
36. 平田 ふき子. オストミー協会広島県広島支部広島中部・東部研修会 講師, 2019年1月27日, 広島市.
37. 桑原 隆一. 本ネットワークの発足及び事業内容について. 第1回広島市東区感染管理ネットワークセミナー, 2018年5月15日, 広島市.
38. 政池 美穂, 鈴川 彩路, 矢野 将嗣他. 褥瘡治療における栄養管理～多発褥瘡患者へのNST介入経験から～. 第28回NSTを本音で語る会, 一般演題 2018年6月16日.
39. 鈴川 彩路, 政池 美穂他. 半固形栄養剤のいろいろ第12回PDNセミナー ワークショップ, 2018年7月28日.
40. 鈴川 彩路. 関節リウマチと栄養～リハ栄養を中心に～. わくわくまるわかりリウマチセミナー, 2018年12月13日.

41. 佐藤 正子. 褥瘡対策によるポジショニング～基本的なポジショニング評価～. 褥瘡委員会主催院内研修会, 2019年3月22日, 3月26日.
42. 藤井 貴允. 平成30年7月豪雨災害の活動と今後の課題. 支援者の立場から 広島J R A T活動検証会, 2019年1月27日, 広島市.
14. 森中 千恵子. リハ薬剤をはじめよう.第34回 NST研修会, 2019年2月27日.
15. 園田 さおり. 広島市医師会看護学校臨床講義, 講師, 「口腔ケアと食事介助」 2018年5月7日.
16. 中村 精吾, 園本 拓彬, 政池 美穂, 鈴川 彩路, 園田 さおり. 介護予防教室「ツバメ塾」9月19日「飲み込みについて」(中村Dr), 10月24日「嚥下に関するリハビリについて」(園本ST), 11月21日「口腔ケアと義歯の取り扱いについて」(園田NS), 12月5日「嚥下障害と栄養管理について」(政池・鈴川管理栄養士), NST委員会.

院内研究会

1. 餘家 浩樹. 感染対策必須研修①. 2018年6月28日, 7月3日, 7月5日.
2. 餘家 浩樹. 感染対策必須研修②. 2019年1月24日, 1月28日, 1月29日, 1月30日.
3. 餘家 浩樹. 院内糖尿病教室. 2018年8月19日.
4. 稲田 順也. 院内糖尿病教室. 2018年9月9日.
5. 寺川 宏樹. ちょっと待った! その血圧, その脂質, その血糖. 平成30年度心臓病教室, 2018年4月19日.
6. 寺川 宏樹. ちょっとでも明日からの診療に役立つ心電図の読み方・考え方. 心電図勉強会, 2018年5月16日.
7. 寺川 宏樹. 心不全について. 研修医勉強会, 2018年5月18日.
8. 上田 智広. めまいと循環器病について. 平成30年度心臓病教室, 2018年6月28日.
9. 寺川 宏樹. 心不全症例検討, 6東病棟勉強会, 2018年9月14日.
10. 内村 祐子. ストレスと心臓. 平成30年度心臓病教室, 2018年9月27日.
11. 寺川 宏樹. 心不全-ここに注意. 平成30年度心臓病教室, 2018年11月22日.
12. 大下 千景. 弁膜症ってどんな病気? 平成30年度心臓病教室, 2018年12月20日.
13. 寺川 宏樹. 循環器内科担当～最近思うあれこれ～. 医局勉強会, 2019年2月7日.
17. 松本 麗永. A病院における化学療法問診票改善に向けた取り組み～副作用マネジメントにつなげるために～. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
18. 竹中 由紀. 術中訪問看護導入に向けての手術室看護師の意識調査. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
19. 中原 美穂. 緩和ケア病棟看護師の看取り・家族との関わり時の感情, 業務で大切にしていることについて. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
20. 菊地 諒子. 整形外科における下肢装具装着によって引き起こされる皮膚トラブルに対する看護師の困難の実態調査. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
21. 藤岡 哉江. 急性期病棟における複数回転倒する患者の特徴. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
22. 廿日出 健太. 糖尿病患者が抱える問題とニーズの調査～食事会に参加した糖尿病患者を対象としたアンケート調査～. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
23. 山内 千緋呂. デスカンファレンスシートに対する看護師の思い. 看護研究発表会, 2019年1月19日.
24. 政池 美穂. 初夏でも減塩は必要?～そんな疑問にお答えします～. 心臓病教室, 2018年5月24日.
25. 鈴川 彩路. 糖尿病の夕食. 糖尿病食事会, 2018年9月15日.

26. 政池 美穂. 夏場を安全に乗り切るための栄養・食事とは！ 心臓病教室 2018年7月26日.
27. 政池 美穂, 吉川 美幸, 影廣 知美. 必要エネルギーの算出方法・NSTにおける看護師の役割. NST研修会, 2018年11月27日.
28. 鈴川 彩路. 嚥下障害と栄養管理について. ツバメ塾, 2018年12月5日.
29. 黒島 眞太郎. 輸血療法について, 医療安全委員会・輸血療法委員会・継続教育委員会合同研修会. 2018年7月23日.
30. 飯塚 聖子. 当院化学療法センターにおける看護師の役割. 二葉の里薬薬連携研修会, 2019年1月10日, 広島市.
11. 越智 誠. 第22回日本アクセス研究会学術集会・ポスター9, 2018年10月14日, 広島県.
12. 森中 千恵子. 病院機能別業務検討委員会研修会, シンポジウム「多施設で関わった症例を追う！～シームレスな情報共有を目指して～」, 2019年6月29日.
13. 平田 ふき子, 第32回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会. 一般演題Ⅲ【創傷管理・装具選択など】座長, 2018年6月23日, 広島市.
14. 川西 なみ紀. スライドカンファレンス 右耳下腺腫瘍の1例. 第44回広島県臨床細胞学会学術集会, 2019年3月16日.
15. 岡田 卓也. 当院におけるUGT1A1遺伝子多型解析結果の検討, 体外受精で生児を得た原発性無月経の1例, 下肢静脈エコーにて描出された腫瘍像の検討. 第72回日本交通医学会総会, 2018年6月3日.

座長

1. 堀内 賢二. 日本皮膚科学会第142回広島地方会.
2. 堀内 賢二. 日本皮膚科学会第143回広島地方会.
3. 中山 宏文. 第44回広島県臨床細胞学会 スライドカンファレンス, 2019年1月, 広島市.
4. 寺川 宏樹. 第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会DCBコメンテーター.
5. 大下 千景. 日本超音波医学会第54回中国地方会学術集会循環器1.
6. 寺川 宏樹. 第25回日本心血管インターベンション治療学会中国・四国地方会YIAセッション2, YIA審査委員会.
7. 寺川 宏樹. 第66回日本心臓病学会メディカルスタッフセッション4, ディスカッション.
8. 寺川 宏樹. 第113回日本循環器学会中国地方会心内膜炎・心膜・腫瘍2.
9. 寺川 宏樹. 第83回日本循環器学会総会Coronary circulation/chronic coronary disease (Basic/clinical) Oral presentation (Japanese)9.
10. 越智 誠. 第24回日本腹膜透析医学会学術集会・ポスター6, 2018年10月6日, 徳島県.

論文査読

1. 中山 宏文. 「Medical Molecular Morphology (Springer Nature)」1編, 「日本臨床細胞学会雑誌」1編, 「交通医学」1編.
2. 寺川 宏樹: American Journal of Cardiology 1編, British Medical Journal (BMJ) Case Reports 8編, Circulation Journal 1編, European Cardiology Review 1編, European Journal of Preventive Cardiology 4編, European Medical Journal 1編, Journal of Cardiology 4編, Journal of Medical Ultrasonics 1編, World Journal of Cardiology (Editorial board) 12編, World Journal of Clinical Cases 2編, World Journal of Diabetes 1編, 日本内科学会病歴要約評価委員、日本循環器学会総会抄録査読、European Society of Cardiology Abstract Review Committee, American Heart Association Abstract Review.
3. 吉田 成人: 日本消化器内視鏡学会総会抄録査読、日本消化器がん検診学会総会抄録査読
4. 川西 なみ紀. 広島県臨床細胞学会誌 1編.

役員・評議員等

1. 堀内 賢二. 日本皮膚科学会代議員, 日本交通医学会評議員.
2. 中山 宏文. 一般社団法人日本病理学会・学術評議員, 公益社団法人日本臨床細胞学会・評議員/査読委員, 日本臨床分子形態学会・評議員/査読委員, 日本交通医学会・評議員, 日本交通医学会誌「交通医学」編集委員, 広島県医師会腫瘍登録実務委員会・委員, 広島県医師会臨床検査精度管理推進委員会・委員, 広島がん治療研究会・幹事, 広島県臨床細胞学会・役員(理事), 広島市医師会予備代議員, 広島市医師会腫瘍統計委員会・委員, 広島市医師会広報委員会・委員, 広島市東区医師会学術委員会・委員.
3. 寺川 宏樹. 日本交通医学会評議員, 日本心血管内視鏡学会評議員.
4. 吉田 成人. 日本消化器内視鏡学会学術評議員, 日本消化器病学会学会評議員, 日本消化器がん検診学会代議員.
5. 川西 なみ紀. 広島県細胞検査士会副会長, 広島県臨床細胞学会幹事, 日本交通医学会評議員.
6. 矢口 裕子. 広島県細胞検査士会副会長.
7. 桑原 隆一. 日本臨床微生物学会評議員, 一般社団法人広島県臨床検査技師会理事(学術副部長), 一般社団法人広島県臨床検査技師会生涯教育委員会 担当理事, 広島県結核予防推進委員会委員, 広島市東区感染管理ネットワーク世話人副代表, 広島感染症研究会幹事, MICRoBE学術研究会世話人.
8. 黒島 眞太郎. 一般社団法人広島県臨床検査技師会広報部, 一般社団法人広島県臨床検査技師会輸血部門委員.
9. 岡田 卓也. 一般社団法人広島県臨床検査技師会情報システム委員会委員, 一般社団法人広島県臨床検査技師会 精度管理委員会委員, 広島県医師会臨床検査精度管理推進委員会ワーキンググループ委員.
10. 本田 秋奈. 一般社団法人広島県臨床検査技師会広報部.
11. 藤井 貴允. 公益社団法人広島県理学療法士会公益事業局地域振興部部員.

12. 新田 祐土. 公益社団法人広島県理学療法士会事務局部員.
13. 島津 裕也. 公益社団法人広島県理学療法士会西部地区局広島東支部部員.

学会開催

1. 中山 宏文, 第127回日本病理学会中国四国支部学術集会, 12月8日, 広島県医師会館, 広島市.
2. 大下 千景. 第28回広島心エコー研究会. 2019年7月12日, 広島市.
3. 寺川 宏樹. 第29回広島心エコー研究会. 2019年11月2日, 広島市.
4. 越智 誠. 中国腎不全研究会幹事, 広島血液浄化カンファレンス世話人, 広島アクセス懇話会世話人.

世話人

1. 吉田 成人. 広島胃と腸疾患研究会.
2. 佐々木 正修. 広島脊椎脊髄セミナー.
3. 矢野 将嗣. NSTを本音で語る会.
4. 岡本 知子. NSTを本音で語る会.
5. 鈴川 彩路. NSTを本音で語る会.
6. 政池 美穂. NSTを本音で語る会.
7. 鈴川 彩路, 政池 美穂. NSTを本音で語る会.
8. 戸政 達之. 広島医療情報技師会.
9. 黒島 眞太郎. 広島県臨床検査技師会輸血実技研修会, 2018年12月9日, 広島.

受賞

1. 松村 未来. 抗凝固療法により左室内ボール状血栓が合併症なく消失したうっ血性心不全の1症例. 第112回日本循環器学会中国・四国合同地方会研修医奨励賞, 2018年6月2日, 広島市.

2. 木戸 佑基. Cushing症候群精査中に発症した深部静脈血栓症の一例. 第113回日本循環器学会中国地方会研修医奨励賞, 2018年12月1日, 松江市.
3. 高原 由衣. 左前腕皮膚腫瘍. 第128回日本病理学会中国四国支部学術集会学術奨励賞, 2018年2月9日, 愛媛県東温市.

報告書

1. 岡本 拓巳, 小出 哲士, Hoang A.T., 玉木 徹, Raytchev B, 金田 和文, 吉田 成人, 三重野 寛, 田中 信治, 戸石 浩司, 菅原 崇之, 辻 雅之, 小田川 真之, 丹場 展雄, 杉原 利彦, 杉原 尚樹. 大腸がん診断支援のための画像認識プロトタイプシステム 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書平成29年度 p110.
2. 玉木 徹, Raytchev Bisser, 金田 和文, 小出 哲士, 吉田 成人, 三重野 寛, 田中 信治. 大腸内視鏡画像診断支援のための学習・認識アルゴリズムの改良 生体医歯工学共同研究拠点成果報告書平成29年度 P101.

IV

平成30年度の動き

MEDICAL CORPORATION JR HIROSHIMA HOSPITAL

平成30年度の動き

院内改善プロジェクト

職員の業務改善意識と現場力の醸成を目的に、病院全体で改善活動に取り組みました。他職種により構成され病院全体の課題に取り組む拡大ワーキング(5チーム)と各箇所の課題に取り組む部署ワーキング(19チーム)の二部門に別けて、各チームがそれぞれの課題解決策を約1年かけて検討、そして実践に取り組みました。6月に各ワーキングチームを発足し、9月に中間発表会で進捗状況を報告。2月には成果発表会にて成果を報告し、各箇所での取り組みと成果が共有され、非常に意義のある取り組みとなりました。特に成果を上げたチームに対して、病院長から最優秀1チームと優秀チーム4チームが表彰されました。



西日本豪雨災害

7月の西日本豪雨災害では、やむなく閉鎖を強いられた医療機関もあるなか、幸いにも当院において被害はありませんでしたが、3名の職員が床上浸水等の大きな被害を受け、院内で義援金を募り見舞金として贈呈しました。また、JRの運休により48名もの職員が通勤困難となり、通勤手段の代替による通勤費の負担や遅刻・早退の勤務免除などの対応を行いました。職員個々の災害に負けない強い思いにより通常の医療の提供を行えることができました。

職員有志で被害箇所のボランティア活動を行いました。写真は矢野東の地域で1m以上の土砂が流入した民家で土砂撤去を行った時のものです。



優秀職員表彰

5月24日、平成29年度に勤務成績が特に優秀であり、職員の模範として認められた職員6名に対し、「優秀職員賞」が授与されました。その中でも特に優秀な職員1名に「最優秀職員賞」が授与されました。



地域連携の会

平成30年9月19日ホテルグランヴィア広島にて、地域連携の会を開催しました。当日は、多くの医療機関関係者にご参加いただき、当院職員を含め総勢174名の会となりました。

当院も地域連携への取組や診療科の紹介をさせていただきながら、会食を交えた出席者同士の懇談を実施し、貴重な情報交換の場として有意義な時間となりました。



地域イベントへの参加

平成30年8月5日、「エキキタおながフェスタ2018」に参加し、当院からは健診センター職員による「健康チェックイベント」を出展しました。

11月3日から4日にかけて開催された「エキキタ・カラフル・マルシェ」には、看護部職員による「なんでも健康教室」を出展しました。健康相談以外にも血圧測定、体内糖化度測定、体脂肪測定を行い、多くの方々にお越しいただきました。



平成30年度 主な行事

院内の出来事

社会の出来事



H31年度採用辞令交付式 (4月)

- ・ H30年度採用辞令交付式
- ・ 新入職員研修
- ・ 永年勤続表彰式
- ・ H31年度採用看護師病院見学会
- ・ のぞみ保育園開園

4月

- ・ 日米首脳会談
- ・ 南北首脳が会談、金正恩氏初訪韓
- ・ 高校野球大阪桐蔭3校目の春連覇
- ・ なでしこジャパンアジア杯2連覇



永年勤続表彰式 (4月)

- ・ H31年度採用看護師病院見学会
- ・ H31年度看護師採用試験
- ・ 広島市立二葉中学校職場体験

5月

- ・ 藤井聡太棋士、史上最年少で7段へ
- ・ 是枝裕和監督の「万引き家族」がカンヌ国際映画祭で最高賞受賞
- ・ バトミントン日本女子団体が37ぶりの世界一へ



広島市立二葉中学校職場体験 (5月)

- ・ 新入職員宿泊研修 (江田島)
- ・ H31年度採用看護師病院見学会
- ・ H31年度看護師採用試験

6月

- ・ 潜伏キリシタン遺産世界遺産登録
- ・ サッカーW杯、ロシアで初開催
- ・ 大阪で震度6弱の地震
- ・ 米朝首脳が初の会談
- ・ サッカーW杯日本代表決勝T進出



H31年度採用看護師病院見学会 (5月)

- ・ 医療安全研修会
- ・ H31年度採用看護師病院見学会
- ・ H31年度看護師採用試験

7月

- ・ 西日本豪雨災害
- ・ 羽生結弦選手に国民栄誉賞
- ・ サッカーW杯フランスが20年ぶり優勝
- ・ 第159回直木賞「ファーストラブ」(島本理生)
- ・ 第159回芥川賞「送り火」(高橋弘希)



新入職員宿泊研修 (6月)

- ・ 個人情報保護研修会

8月

- ・ 73回目の広島・長崎原爆忌
- ・ 高校野球大阪桐蔭2度目の春夏連覇
- ・ 第18回アジア競技大会開幕



オープンカンファレンス (9月)

- ・ 地域連携の会
- ・ オープンカンファレンス
- ・ H31年度採用内定通知書授与式

9月

- ・ 北海道胆振東部地震
- ・ 歌手の安室奈美恵さん引退
- ・ 大坂なおみ選手が全米オープンで日本人発のテニス四大大会優勝
- ・ 広島東洋カープ初のセリーグ3連覇

院内の出来事

社会の出来事



H31年度採用内定通知書授与式 (9月)

- ・クリーンマイタウン清掃活動
- ・院内改善プロジェクト中間発表会
- ・広島県立広島中学校職場体験学習
- ・広島市保健所 医療法第25条第1項に基づく立入検査

10月

- ・第4次安倍改造内閣が発足
- ・築地市場が83年の歴史に幕、豊洲へ
- ・プロ野球 広島東洋カープとソフトバンクホークスが日本シリーズへ
- ・卓球福原愛選手が引退表明



クリーンマイタウン清掃活動 (10月)

- ・新入職員フォローアップ研修
- ・電気設備点検
- ・避難器具実施訓練
- ・医療安全・感染対策研修会

11月

- ・日本シリーズソフトバンクが日本一
- ・日産カルロス・ゴーン氏逮捕
- ・2025年大阪万博開催決定



新入職員フォローアップ研修 (11月)

- ・病院忘年会
- ・第2回リウマチまるわかりわくわくセミナー
- ・クリスマスふれあいコンサート (広島市立二葉中学校吹奏楽部)
- ・消防訓練
- ・仕事納め

12月

- ・2018年 漢字 「災」
- ・2018年 流行語「そだねー」
- ・改正入管法成立
- ・フィギュアGPファイナル 紀平梨花選手 (16歳) 初出場優勝



病院忘年会 (12月)

- ・仕事始め
- ・新年安全祈願祭 (広島東照宮)

1月

- ・箱根駅伝東海大学大会新で初優勝
- ・第160回直木賞「宝島」 (真藤順丈)
- ・第160回芥川賞「ニムロッド」 (上田岳弘) 「1R(ラウンド)1分34秒」 (町屋良平)



クリスマスふれあいコンサート (12月)

- ・院内感染対策研修会
- ・院内改善プロジェクト成果報告会

2月

- ・はやぶさ2「りゅうぐう」着陸成功
- ・天皇陛下在位30年式典
- ・バスケット日本男子3大会ぶりW杯



BLS・AED研修会 (1月)

- ・ハラスメント研修会
- ・診療報酬にかかる院内研修会
- ・マイナビ看護合同説明会
- ・レジナビ研修医合同説明会

3月

- ・イチロー選手引退日米通算 4367安打
- ・横綱白鵬15度目の全勝優勝
- ・東日本大震災8年

編集後記

JR広島病院2018年度年報をお届けします。

河本昌志院長の巻頭言に始まり、診療科および部門別紹介、そして後半部分は業績集から構成されています。今年度より河本院長の方針で、冊子体での配布からPDF形式でホームページよりダウンロードしていただくことになりました。それに伴い、年報作成に関わる費用が大幅削減できました。

昨年度同様、年度の業務実績を含む各診療科および部門の紹介については、ホームページをベースとして、部門責任者に依頼し、記載していただきました。昨年比し、記載された内容が豊富になりました。ご協力誠にありがとうございました。

業績一覧については、2017年度の年報より、幅広く職員の業績を取り上げて、「全職員の氏名が、業績集のどこかに必ず見られるようにする」をモットーに、論文（欧文、邦文）、国際学会発表、および特別講演のみならず、国内の学会発表（地方会を含む）、そして院内での教育研修的講演・研究発表、さらに学会や研究会での座長、論文査読、学会（地方会を含む）役員まで含めるようにし、地域での社会貢献や職員向けの院内研修会での発表も加えました。今年度も昨年一昨年同様、医師以外の医療スタッフの論文が少なからずあり、医局会の構成員として大変刺激になります。

大学や研究所等いわゆるアカデミアに在籍する者は、インパクトファクターが高い雑誌に掲載される論文を量産するための研究資金である文部科学省等の科学研究費等を獲得するため、「何を研究しようか」と研究テーマの選択に悩みます。一方、我々市中病院勤務医および医療スタッフは、研究テーマに悩む必要がありません。教科書通りに診断・治療できない非定型的な症例への対応そのものがテーマになるからです。非定型的な症例を考察することで症例報告が完成し、集積した類似症例の解析結果を原著論文化し、最終的には研究内容が雑誌に掲載されることで、知見が世界中で共有されます。市中病院勤務者は、アカデミアに在籍する者ほどインパクトファクターや外部資金獲得に囚われることがなく、大変恵まれた研究環境にいる、ともいえます。膨大な数の典型例の集積・振り返りの研究が、診療のレベルアップや医療安全面に大変有意義であることはあえて申すまでもございません。

原稿をご提出くださいました皆様、誠にありがとうございました。近隣の医療機関に当院をより深くご理解いただくための媒体として、今後も年報を充実させていきます。御意見をお寄せください。

広報委員会 委員長 中山 宏文

※医師紹介については、平成30年度に在籍しておりました医師名を掲載させていただいております。

JR広島病院 年報(平成30年度)

発行日 令和元年10月
発行者 JR広島病院
〒732-0057
広島市東区二葉の里三丁目1番36号
TEL 082-262-1170

製 作 セイコービジネス株式会社

2018

**MEDICAL CORPORATION
JR HIROSHIMA HOSPITAL**